

特16
538

渡正元譯

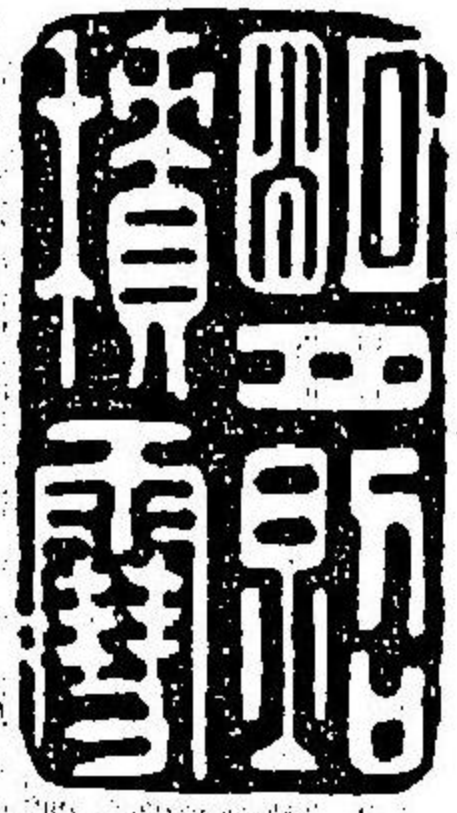
佛國
敬言察提要

明治十一年四月刊行



CF2
357
01

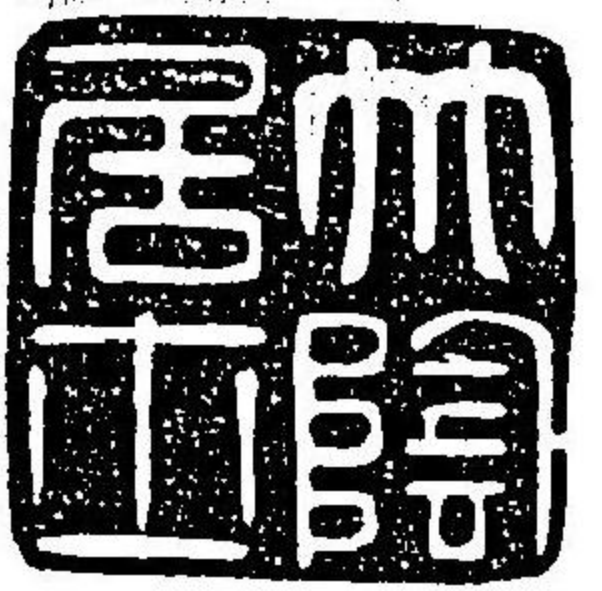
光
格



風教

明
治
十
年
三
月
廿
九
日

山田龍象



佛警察提要

例言

凡ソ國ノ安寧ヲ保ツハ警察ヲ嚴ニスルヨリ重キハナシ警察其宜キヲ得サレハ土地ニ屯駐兵アリ國ニ常備兵アリト雖モ得テ災ヲ未然ニ防キ害ヲ未形ニ禦シコト能ハス一搔草賊ノ萌芽スルモ之ヲ其未發ニ豫防スルノ術ヲ施スコト能ハス譬ヘハ猶人身ニ耳目ノ感力ヲ缺キ其未然未形ノ情ヲ察スルコト能ハサルモノ、如シ故ニ一日モ闕シ可ラサルハ是レ國ノ警察ナリ余一日篋中ニ就テ佛國警察書一卷ヲ得ル即チ佛蘭西法律學士巴里府控訴院ノ法官「ベリアー、サンプリ」氏ノ著述スル所ノ「マニユエール、ドポリース、ヂユザシエール、エ、ミユニシパール」ト題セル書ニシテ、一千八百七十二年巴里府ニ於テ刊行セシモノナリ、世

ニ警察書多シト雖モ、簡明未タ此書ノ如キモノアラズ、則チ翻シテ我カ
警保ノ一端ヲ補ハントス

一編中往々參照ヲナスモノハ、佛國成典及ヒ「グルーソ」氏「ビオナン」氏及
ヒ「ヂユフォル」氏並ヒ佛國著名ノ法律家等ノ警察書ニ引用シテ、解釋ヲ附ス、又直チ
ニ原語ヲ用フルモノハ、之ニ插註ヲ附シテ參考ニ便ス
一插註ニ「民治刑商訴森何條トアルハ、即チ民法治罪刑法商法訴訟法
森林法ノ略文ナリ」

明治十年十月

譯者誌

佛國警察提要

緒言

佛國法律學士代言師、アルホンス、グール、ン、氏ノ著ス所
ノ佛蘭西行政市邑警察編ヨリ、拔萃シテ、此ニ之ヲ挿ム、

夫レ「ポリース」ノ警察ノ語タル、其源始ヲ希臘ノ語ニ採リ、其字義タルヤ、市
井ノ警保官職ノ制規ヲ執行實踐スルヲ謂フ、古昔、佛國建國ノ始メヨリ
年六月十七日（佛國革命）中世、一千七百八十九年六月十七日ヨ、近時、一千八
命ニ至ルマテ云、尙ホ遐ク羅馬ノ帝國及ヒ爾來其他ノ諸邦ニ於テモ、執行事
至ルヲ云、實共ニ異ナルコトアルコトナク、千六七百紀、一千六百年及ヒニ至リ、
般ノ風習トナリ、普通ノ例規トナリ、目今遂ニ各國實際ノ本旨ヲ同一ニ
セリ、

一〇「ポリース」ノ語ヲ解スルニ、其意味甚タ廣クシテ、殆ント法令布告ヲ包

二 括ス、又之ヲ分析シテ其事件ヲ算フレハ、殆ソト枚擧スヘカヲサルカ如シ、凡ソ國內一般ノ法令成規ヨリ、其靜謐安寧ニ關ハリ、人民ノ身位ヲ修メ、其道德ヲ培シ、公同ノ洪益ヲ保チ、公私ノ所有物ヲ保チ、百工ノ便宜商農ノ公益ヲ通シ、不軌ヲ未形ニ搜索シ、兇姦ヲ已獲ニ抑制シ、宦癖ニ備ヘ、寺院ニ護リ、民戸ヲ警メ、道路ヲ衛リ、山林湖海、禽獸魚鼈等物トシテ關セサルナク、所トシテ至ラサルナキニ至ル、

○ボリース、ボリチツク、政ボリース、デ、キユルト、宗ボリース、デ、ムール、道ボリース、サニテール、衛ボリース、ド、セキユリテール、保ボリース、シユブシスタニス、糧ボリース、リュラール、道ボリース、ホレスチエール、路ボリース、アンジュストリエール、工ボリース、エ、コンメルシオール、通商ボリース、ド、ラウオワリール、街ボリース、ギユギシエール、司ボリース、法ボリース、等ナリ、佛國ニ於テ、警保ノ沿革ヲ視ルニ、上古ノ景況ハ姑ク闇キ、紀元一千六百紀ノ始ニ於テ、全國檢察

ノ法ヲ改メ、其中央巴里府ニハ、特別ノ制ヲ設ク、即チ千六百三十年三月十二日、警保ノ事務ハ、總テ「リウテナン」シウロール、古時法官ノ號之ヲ管掌シ、其支障アルノ時ハ「リウテナン」クリミズル、古時檢事ノ號ヲ以テ之ニ代ラシム、此例ニ依テ、千六百三十五年三月三十日、法官、巴里府內警察一般ノ法制ヲ設ク、

千六百六十年十一月五日、佛王路易十四世、更ニ此法ヲ修正セリ、千六百六十七年三月、更ニ府內警察事務局ヲ設立ス、尋テ內國一般警部コムミツセール、ドボリース、一ヲ置クノ制ヲ定ム、路易十四世、然レトモ此法官ニ於テ、警保ノ權ヲ兼ルノ制ハ、猶ホ千七百八十九年ノ革命ノ日マテ存在セリ、千七百八十九年ノ革命ニ依テ、舊法ヲ悉ク改正シ、

千七百九十年八月十六日、及ヒ、二十四日ノ布告、第二章第十三條ヲ以テ、三 行政警察ト司法警察ノ本務ヲ分チ、其本旨ヲ定メテ警保ノ体面ヲ改ム、

四 而レトモ地方ニ依リ治安法官ノ設置ヲ缺クノ地ニ於テハ邑長即チ治安法官ノ地位ヲ保チ司法警察ノ事務ヲ兼行セシムルコトノ特例ノミ、存在施行セラレテ以テ今ニ至ル、

千七百八十九年十二月十四日警察ノ事務ヲ各地方行政官吏ニ委ス、同年十二月二十二日行政警察ノ事務ヲ地方官ニ委シ國王親ラ其權ヲ執テ之ヲ檢閲スルノ制ヲ定ム其警察ノ條目ハ即チ左ニ掲ク、

浮浪、乞丐、諸病院、懲戒工役場、獄舎、拘留舎、教戒舎、學校及ヒ諸教育場、道德公義ノ教養場、衛生共同ノ公益、各自ノ安寧、徵兵、後備軍、國民軍等、

以上ニ係ル警視保安ヲ掌ラシム、

共和政治第八年第五月二十八日地方警察事務ヲ以テ其地ノ縣令ニ付ス、巴里府内及ヒ府外周圍ノ街衢ハ之ヲ府内ノ警視長ニ委ス、中ニ就テ

若干特別ノ事務ハ之ヲ巴里府ノ令ニ屬セシム、近時ニ至リテ、^{リオン}里温府及ヒ其他ノ大首府ニテ其居住ノ人口四万ニ過ルノ地ハ警察權ヲ縣令ト邑長トノ間ニ分ツコトトナル、

警保ニ關スルノ成規沿革及ヒ其布告ノ年月ヲ左ニ掲ク、

○治安ニ係ル部、

千八百三十一年四月十日、群聚暴動ノ禁、

同三十四年五月二十四日、兵器并ニ硝藥私蓄ノ禁、

同三十年十二月十日及ヒ同三十四年二月十六日、人ノ毀譽ニ係ルコトヲ揭示流言スルコトノ禁、

千七百九十三年二月六日、旅券ニ係ルノ令、

○印刷ニ係ル部、

五 千八百十四年十月二十一日、印刷及ヒ書肆ニ係ルノ令、

六 同十九年五月十七日、及ヒ同二十二年三月二十五日、印刷發兌ニ係ル
ノ令、

同五十二年二月十七日、印刷規則、

○公會場風儀靜謐ニ係ル部、

千八百十一年一月十一日、棄兒ノ令、

千七百九十年五月三十日、乞丐ノ令、

千八百五十一年十二月二十九日、茶店、煎非店ノ令、

同五十三年七月六日、及ヒ同五十四年六月二十三日、俳優ニ係ルノ令、

同五十年七月二日、家畜ノ令、

○衛生ニ係ル部、

共和政治第十二年九月二十三日、埋葬地ノ令、

千八百十年十月十五日、布告、堂宇、館舍、汚穢ヲ防クノ令、

同四十八年十二月十八日、衛生法ノ令、

同五十年四月十三日、稅居家屋ノ汚穢ヲ防クノ令、

同二十二年三月三日、糧食諸品ニ係ルノ令、

共和政治第十一年六月十九日、醫業ニ係ルノ令、

同年七月二十一日、製藥職業ニ係ルノ令、

千八百二十三年六月十八日、溫泉ニ係ルノ令、

共和政治十三年九月二十五日、及ヒ千八百五十年五月三日、製藥規則、

千八百四十五年七月十九日、及ヒ同四十六年十月二十九日、毒藥規則、

○食糧ニ係ル部、

千八百三十二年四月十五日、穀粕糶糶、及ヒ臨時糶ヲ許シ糶ヲ禁スル
ノ令、

七 ○田野山林湖海ニ係ル部

八

千七百九十一年十月六日ノ、田野ノ規則

共和政治第四年六月二十六日、植物ニ生セル惡虫ヲ驅ルノ令、

千八百二十七年五月二十一日、森林法、

同二十九年四月十五日、釣漁ノ令、

同四十四年五月三日、獸獵規則、

同十五年一月十七日、畜類流行病ニ係ルノ令、

千七百九十年八月十二日及ヒ、千八百四十五年四月二十九日、田畝溝

渠ニ係ルノ令、

千八百五十四年六月十日、田畝濯灑溝渠ニ係ルノ令、

○道路往還ニ係ル部、

共和政治九年第九月二十七日、及ヒ十年七月十九日、及ヒ千八百四十

三年二月十九日、郵便ニ係ルノ令、

千八百五十年十二月二十七日、電信ニ係ル令、

同四十五年七月七日、鐵道ニ係ル令、

同五十一年五月三十一日、運搬ニ係ル令、

千七百二十九年七月十八日、及ヒ同三十年八月十八日、堂宇殿舎ヲ毀

ツコトニ係ル令、

共和政十年八月二十九日、及ヒ千八百四十二年三月二十三日、違註罪

ニ係ル一般ノ諸法令、

○美術百工ニ係ル部、

千八百五十一年二月二十二日、生徒傳習上ニ係ルノ令、

同四十一年三月二十二日、百工修行ノ少年生徒ニ係ル令、

同四十八年九月九日、十年以上ノ生徒ニ係ルノ令、

九

同五十一年五月十四日、及ヒ同五十四年六月二十二日、職工手簿ニ係

ルノ令、

共和政第六年六月十九日、水路ニ設置セル製造場ニ係ルノ令、

千八百十年四月二十一日、礦山礦道及ヒ石坑ニ係ルノ令、

同四十四年七月七日、新發明ノ品物ニ係ルノ令、

千七百九十三年六月十三日、及ヒ共和政第八年六月一日、及ヒ七日、及

ヒ千八百九年二月二十日、及ヒ千八百十年二月五日、及ヒ同五十四年
四月八日、出版權ニ係ル令、

千七百九十一年一月十三日、及ヒ七月十九日、及ヒ千七百九十三年九

月一日、及ヒ千八百六年六月八日、及ヒ同四十四年八月三日、及ヒ同五

十四年四月八日、音樂及ヒ聲音樂人ニ係ル令、

○商業ニ係ル部、

共和政第九年六月二十八日、兌換舖及ヒ行商ニ係ル令、

同年七月二十九日、及ヒ同十年九月二十七日、相場會所ニ係ル令、
千八百三十七年七月四日、度量衡ノ令、

同五十一年三月二十七日、贗造擬製ノ商品ニ係ル令、

○那破倫成典第三條ニ曰、凡ソ國中ノ警察及ヒ保安ニ關スルノ法律ハ、
佛蘭西國內ニ居住スルモノ、皆之ヲ遵奉スヘシト故ニ外國人民ノ寄

留スル者モ亦其法律ノ下トニ立ツテハ、其關涉自國ノ人民ト其趣キ
ヲ異ニスルコトナシ、

國佛
警察提要

渡 正元譯

第一章 司法行政警察ノ事ヲ論ス

第一條 司法警察トハ、輕重ノ罪犯及ヒ違式註違等ノ犯人ヲ搜索拿捕シ、其憑據ヲ取り、該人管轄ノ裁判所ニ之ヲ引渡スヲ謂フナリ、治、第
八條司法警察事務ハ、左ニ擧クル所ノ官吏、控訴院ノ指揮ヲ承ケ、之ヲ施行スルモノトス、

第一 ガルドシヤンベードル 田野監守人及ヒ ガルドホレンスナゴ 森林監守人、

第二 コンミヤールドボリス 巡查長、(警部)

第三 メー 邑長及ヒ アフヨアンドメール 副察長、

第四 ヂエー 治安裁判官、ヂエトメー

第五 オヒシエードザヤンダルメリー 憲兵士官

巡査總長コンミゼリルゼニアルトボリス

(警部長)

現今之ヲ除ク、

第六

檢事及ヒ檢事補アロキエウールアンベリウシユアスケチユー

第七

檢事及ヒ檢事補アロキエウールアンベリウシユアスケチユー

檢事及ヒ檢事補

第八

糾問判事ドユージユダンストリユクシオン

第二條

前條ニ擧クル所ノ官吏警察事務ヲ施行スルニ就テハ、糾問判事ヲ除クノ外ハ、總テ檢事ノ監督ヲ受クルモノトス治、第十條、第七條

控訴院ニ關係シタル官吏ハ、控訴院ノ檢事長之ヲ監督ス治、第二百七十九條及ヒ

凡ソ司法警察官タルモノ、若シ其職務ヲ怠慢スルコトアルトキハ、檢事長懇ニ戒諭ヲ爲ス、猶ホ改心セズシテ、同年中ニ再ヒ職務ヲ怠慢スルコトアルトキハ、檢事長乃チ之ヲ控訴院ニ稟請シ、其允許ヲ得テ該人ヲ裁判會議ノ席ニ呼ヒ出シ、嚴重ニ之ヲ督責シ、而シテ控訴院呼出シノ命令狀及ヒ送達ノ諸費等ハ總テ該人ヨリ之ヲ償却セシムルヲ

以テ例トス治、二百七十九條及ヒ二百八十二條
檢事長ハ直ニ審判事務宰相ノ命令ヲ承ケ、其事務ヲ施行スルモノトス、
控訴院ハ檢事長及ヒ其他ノ檢事ヲ監督スルノ權ナシ、
檢事職ハ控訴院ノ所轄ニアラス、
控訴院ハ元ト司法警察事務施行ヲ令スル權ナシト雖モ、若シ輕重ノ犯罪者アルトキハ、檢事長ニ指揮シテ搜索拿捕セシムルコトヲ得ル、
此場合ニ於テハ、檢事長其犯罪人ヲ搜索シ、且其事由ヲ該院ニ報告ス、
千八百十年四月二十日布達、
控訴院ハ平常上ニ陳ル所ノ事務ヲ施行スルノ權ナシト雖モ、臨時之ヲ擔任スルコトヲ得、

第三條

邑長及ヒ副邑長ハ、其職警察官吏ニアラスト雖モ、輕重罪犯ノ

四

蹤跡ヲ探偵査覈スヘキ職掌アルヲ以テ警部治安裁判官及ヒ憲兵士官ト共ニ各自ニ檢事ノ職務ヲ分課シテ之ヲ幫助ス治第四十八條ヨリ第五十條

第四條 邑長司法警察ノコトニ關リテハ初告裁判所檢事ノ通牒ニヨリ罪犯ノ蹤跡ヲ搜索スル等ノ事ニ任ス且此事務ニ就テハ檢事ト直接ニ往復問議スルコトヲ得治第五十條ヨリ第五十三條及ヒ千八百四十八年三月二十八日內務卿ノ布達ニ

邑長ハ又縣令ノ命ヲ以テ上ニ陳ル所ノ警察事務ヲ擔當スルコトアリ

縣令或ハ參事タルモノ其縣内ニ於テハ自ラ司法警察ノ職務ヲ兼ス且輕重ノ罪犯違式等ノ犯人アラハ其蹤跡ヲ搜索點檢スル等ノ措置要務ヲ司リ且其罪犯者ヲ其管轄裁判所ニ送附スル等ノ事ヲモ命令スルコトアリ治第十條邑長ハ其本務ニ非ラスト雖モ其管轄内ニ於テハ

裁判ノ權ヲ有スルコト又糾問判事ニ均シキ事務ヲ施行スルコトヲ得巡查長(警部)ハ第十一條○治安裁判官ハ第十條○憲兵士官ハ第十三條ヲ參照スヘシ

第五條 田野監守人釣漁監守人私設ノ監守人等ハ各々警察ノ職務ヲ奉シ專ラ已レノ監守スル所管内ニ在テノ違式註誤ヲ視察スルヲ掌ル治十六條

然レトモ其事務ヲ施行スルニ當テハ檢事補邑長副邑長ニ均キ權利ヲ有スルコト能ハス故ニ此監守人等ハ其職務上ニ關スルノ事ト雖モ邑長若クハ治安裁判官ノ立會ヲ要ムルニ非ラサレハ妄リニ人民ノ家屋厩舎若クハ器械所製造所等ニ入ルコトヲ得サルモノトス上ニ陳ル所ノ諸監守人ハ若シ其監守スル區域内ニ犯罪者アルトキ逮捕ノ爲メ其ヲ要スルニ臨ンテ邑長或ハ副邑長ニ請ヒ公力兵憲兵護國兵巡查及ヒ田野ヲ借ルコトヲ得ベシ治十六條然レトモ其拿捕ス

五

六

ル所ノ罪犯ヲ直チニ檢事ニ送致スルコトヲ得ス、一旦先ツ之ヲ治安
裁判官或ハ邑長ノ前ニ拘引スヘキモノトス、

第六條 行政及ヒ市邑警察ハ、行政ニ關スル各部各所ニ於テ世ノ安寧

ヲ保護スルコトヲ掌リ、專ラ輕犯ヲ視察スルコトヲ勤メトシ、司法警

察事務ト自ラ殊別ナリト雖モ、世ノ安寧ヲ維持スルニツイテハ、互ニ

相資シテ以テ警察事務ヲ施行ス、共和政治、第四年
二月三日ノ法令

行政警察ノ職務ハ、務メテ國民ヲ安撫シ、諸法律ヲ遵奉セシムルヲ以

テ專任トス、是ヲ以テ故ナク、人民ノ街衢ニ群集熱鬧スルヲ制シ、及ヒ

不虞怠慢ヨリ生スル過失、災害、事故等ヲ救助スルニ當テハ、司法警察

事務ニ比スレハ、其責任尤モ重シトス、

司法警察ノ行政警察ニ協力幫助スルノ場合ニ於テハ、其拿捕及ヒ供

狀ヲ取ルコト等、及ヒ其犯罪ノ處決ニ至ルマテハ、專ラ其事務ヲ以テ

已レカ擔任トスルモノナリ、

邑長ハ内務卿、及ヒ縣令參事ノ指揮監督ヲ承ケ、行政警察ヲ掌ル、共和
政治、

第八年五月二
十八日ノ布達、

行政警察ハ、司法警察ニ比スレバ、其職務頗ル廣博ニシテ、實際司法警

察事務ト互ニ相關涉ヲ持ツモノアリ、左ニ掲載スル數件等即チ是ナ

リ、

一 民家ノ失火、

一 洪水、

一 難破船、

一 礦山、石工場、及ヒ溶鐵場等ニ於ケル、失火、災害、

一 傳染流行病、

一 禽獸傳染病、

七

一 瘋癲、白癡

一 市邑、道路ニ關スル諸規則

一 犯人處罪、決放後ノ看視等

第二章 邑長、副邑長及ヒ警察官吏補助ノ職限

第七條 各邑内ニ於テハ、司法警察ノ職務專ラ邑長ニ屬ス、副邑長モ亦職制上ニ於テ、固ヨリ邑長ノ指令ナシト雖モ、躬自ラ其職務ヲ執ルコトアリ、是レ司法警察ノ行政警察ト異ナル所ナリ、其行政警察ハ、邑長ノ疾病事故或ハ不在ニ依テ其代理ヲナスノ場合カ、或ハ特ニ邑長ノ指令ヲ得ルニ非レハ、副邑長之ヲ施行スルコトナキモノトス、治第十ヒ千八百三十七年七月十八日ノ布告、第十四條故ニ副邑長ノ調書ニハ、邑長ノ代理タルコトヲ記載スルコトナケレバ、其効甚ダ薄キモノトス、千八百四十四年一月六日ノ布達

副邑長、訴狀ヲ受理スルトキハ、其訴狀ニ對シ、先ツ已レガ考案ヲ附シ、之レヲ邑長ニ在レハ、邑長其地ニ申達ス、若シ重キ犯者アルニ於テ邑長遠隔ノ地ニアリテ、急速其地ニ復歸スルコト能ハサルノ場合ニアラサレハ、副邑長之レヲ執行スルコトナシ、

副邑長ハ、邑長不在ノ際重キ犯罪アルニ會ヘハ、力可及邑長ノ飯來ヲ俟テ、其處分ヲ爲ス可キモノナレハ、邑長該地ニ復歸スルマテノ間ハ、務メテ其事跡ヲ審明ニシ、其ヲ要スルニ臨ンテ、犯者ノ拘留ヲ命シ、且犯罪所ノ景狀ヲ現存遺留シテ、猶ホ後証ヲ取り得ヘキ檢驗等ヲ爲シ、其事狀ヲ酌量シテ、下條第四章中第二十九條ヨリ、第三十條迄ニ、掲載スル處ノ措置ヲ爲ス、

然レトモ、邑長若シ其景況ヲ推知スルコトアリテ、其犯罪遺跡ニ就テ、之ヲ檢視スルコトヲ欲セサル時、副邑長ハ、尙ホ之ヲ抗張シ推シテ、之

カ檢視ヲ爲スヲ得ス、
 邑長ハ其區内ニ於テ行政官長タリ、故ニ管内ニ於テ其命令スル所アレハ、副邑長之ヲ遵奉セサルヲ得サルモノトス、若シ其犯罪ノ現ニ事實重大ナルトキハ、其職務ノ關スル所專ラ檢事ニ在ルヲ以テ、進シテ之レヲ檢事ニ通牒スルコトヲ得ル、
 凡ソ邑長不在或ハ疾病事故アル時ハ、副邑長、副邑長モ亦障碍アルトキハ、其補助官吏中ノ上級ナル者之カ代理ヲナス、若シ此等ノ官吏不在或ハ疾病事故ノ障碍アルトキハ、縣令ノ命ニヨリテ、定リタル邑廳附屬ノ議事者中ノ一人之カ代理ヲ任ス、若シ縣令ノ豫定スル處ノ者無キトハ、議事者ノ中ニ先輩ノ者之レニ代任ス、
 第八條 區内ニ若シ巡查長〔警部〕ヲ置シトキハ、此官吏專ラ司法警察ノ事ヲ擔任シ、輕重罪及ヒ違式註違等ノ事務ヲ掌ル、

邑長及ヒ副邑長ハ、己レノ管轄區内ニ設置サレタル所ノ巡查長止ムヲ得サルノ故障アルトキハ、之カ代任ヲ爲スヘシ、
治第十條

若シ一區内ニ二人以上ノ巡查長ヲ設置スルトキハ、其己ムヲ得サルノ事故或ハ疾病アルニ非レハ、邑長之カ代任ヲナスコトナシ、
治第十條

邑長若シ其事實ノ緊要ナルコトヲ推量スルトキハ、己レ自ラ、若シハ副邑長ヲシテ其司法警察官吏ノ事務ヲ施行セシムルハ妨ナキモノトス、

第九條 司法警察事務ニ於テハ、邑長ノ裁判權ハ、其管内ヲ以テ區域ス故ニ其所轄内ニ於テノ輕重罪犯及ヒ違式註違等ノ事務執行ハ、自ラ之ヲ擔任ス、
千七百九十二年九月十四日、及ヒ千八百四十一年八月二十日、布達
 然レトモ、邑長ハ、其管轄地外ニ於テ犯セルノ罪過ト雖モ、其管内ニ於

テ之ヲ處分スルノ場合アリ、
 例ヘハ、入アリ他管ニ於テ罪過ヲ犯シ、吾カ管内ニ逃匿シ其犯跡明瞭
 且罪犯ノ首或ハ從タルノ證ヲ徵スヘキ、兵仗器具若クハ書類等ノ憑
 據アルトキハ、邑長直チニ之ヲ拿捕査覈スルノ處分權アリ、治第四
十一條
 此ノ場合ニ於テハ、邑長該犯ヲ訊問シ、其身體ヲ査覈シ、其家屋ヲ搜索
 シ、且其拘留ヲ命スルコト、恰モ其管内ニ於テ現行犯罪ノアリシ時ニ
 會セルカ如ク、之ヲ處分シ得ル、
 其違警罪ニ係リテハ、他管ニ於テノ犯罪處分ハ、已カ管内ニ於ケル犯
 罪ヨリモ、其處分ノ權力甚タ薄キモノトス、治第三十一條及ヒ
第百三十六條
 然レトモ、此ノ場合ニ於テハ、已レガ隸屬ヲシテ、該犯ヲ搜索處分セシ
 ムルコトハ、我カ管内ニ於テノ犯罪ニ均クス、
 邑長ハ、内國人ト外國人トヲ問ハズ、總テ警察處分ノ權ヲ及ホシ得ル

モノトス、(コード、ナポレオン) 那破倫 第三條ニ曰、警察ノ法則ハ、普ク國
 内居住人民ニ施キ及ホシ得ル、是故ニ、佛國境内ニ於テ、甲ノ外國人民、
 乙ノ外國人民ニ對シテ、輕重ノ罪過ヲ犯セルトキモ、亦佛國ノ法律ヲ
 以テ、之ヲ處分シ得ルモノトス、千八百十
四年布達
 凡ソ司法警察官吏ハ、海陸ノ軍人ニ對シテハ、別ニ其本部ノ警察官ア
 ルヲ以テ、素ヨリ其犯罪ノ處分ニ關係セサルモノト雖モ、若シ其罪犯
 ノ獸獵、釣漁、森林、其他雜稅等、及ヒ道路常人ニ係リテノ事件ニシテ、通
 常裁判所ニ關係アルモノ、如キハ、概テ其處分ヲ負擔スルモノトス、
 若シ其事件ノ、或ハ海軍ノ警察ニ關スルモ、其警察官ノ在ラサル場所
 ニ於テハ、其軍人ノ罪犯、陸軍ト海軍トヲ問ハズ、邑長自ラ擔任シテ、猶
 ホ其搜索拿捕ノ責ニ任ス、千八百五十七年度陸軍律九十三條及ヒ二
百三十三條、千八百五十八年度海軍律百二
十三條及ヒ三
百七十二條

第十條 凡ソ人民社會上ニ於テ其障碍ヲ爲スヘキ隱微ノ罪過等ハ邑長直チニ處分ノ着手ヲ爲サズシテ能ク其景況ヲ查覈シ精密ニ之ヲ探偵シ其景狀ヲ記シ或ハ公ケニ或ハ密ニ之レヲ檢事ニ送達シ且簡易ニ其情狀ヲ通知スヘシ

第十一條 警察上巡查長(警部)ノ職限ハ其屯駐ノ區域ニ依テ權限ヲ區畫スルニアラス故ニ其職權ハ邑長ノ權ヨリモ一層廣ク施キ及ホスコトヲ得

一郡内ニ於テ若シ只一員ノ警部ヲ置クトキハ此警部其一郡内ノ各區ヲ總管ス千八百五十三年一月十七日ノ布達第一條

若シ一郡内ニ警部數員ヲ置クトキハ其警察上ノ權力ハ各均シク一郡内ニ施行シ得ルモノナリト雖モ此場合ニ於テハ縣令ヨリ其管轄ノ區畫ヲ吩咐シテ各自ニ之ヲ擔任セシム同上第二條

各邑若シハ數郡ヲ統轄セル市街ニ於テハ警部ノ職限ハ其管内ヲ一ニ統轄スルヲ得

此場合ニ於テハ縣令警部ノ管轄區畫ヲ吩咐シ各自ニ之ヲ擔當セシムヘシ斯クノ如ク管轄區域ヲ爲スト雖モ警部ノ職權ハ其總部ニ遍施シ行フヲ得ヘシ治第十條

凡ヘテ警察ノ職務ハ相互ニ救援幫助スルコトヲ要ス治第十條
中央都府ニ準スヘキ各府ノ大市街ニ於テハ警部首廳ヲ設置シテ其近地各部ノ警部及ヒ警察ノ諸官吏ヲ統轄セシム千八百五十五年九月廿六日布達第三條

警部ハ其已ムヲ得サルノ場合ニ臨テハ田野及ヒ森林ノ監守人ニ令シテ区内ノ安寧ヲ保護セシムルコトヲ得ル千八百五十二年三月然レトモコノ田野森林監守人ヲ假用スルコトハ臨時事故アルニ際シ

其安寧ヲ保存シ、靜謐ヲ維持シ、人心ヲ安撫スル時ノミ、之レヲ用ヒ而シテ輕罪及ヒ違警罪ヲ監視スルガ如キ、通常ノ警察事務ニ於テハ、之ヲ假用スルコトナキモノトス、千八百五十二年十月四日、内務卿ノ達書

第十二條 治安裁判官ハ、己レノ管轄内ハ言ニ及ハス、區域外ト雖モ次項ニ記載スル所ノ事件ニ於テハ、其職權ヲ施キ及ホスヲ得、治四百六十四條

其管轄地外ト雖モ、國債、証券、佛蘭西國立銀行券及ヒ外國ノ銀行券ヲ鑄造シ、或ハ輸入シ、又ハ施用スル等ノ疑アルトキハ、其者ノ住居ニ至テ、之ヲ查覈スルコトヲ得ル、

貨幣鑄造、或ハ國幣鑄造等ノ犯罪アルトキモ、亦此例規ヲ通用シ得ル、此ノ官吏ハ、違式註違ノ處斷ニ係ル事件ヨリモ、專ラ其重罪輕罪ニ係ルノ罪犯ヲ處斷スルコトヲ擔任ス、治第十八條、第四十九條、第三百三十九條

第十三條 憲兵士官ハ、其管轄内ニ於テハ、檢事ノ補佐即チ司法警察ノ

事務ヲ掌ル、千八百五十八年四月二十二日、及ヒ千八百五十四年三月一日ノ布達

然レトモ、此官吏ハ、專ラ現行犯罪ノ事ヲ掌リテ、通常輕犯罪探偵ノ如キハ、關涉甚鮮シト雖モ、之ニ關スルノ報告、或ハ訴狀等ハ、素ヨリ之ヲ受シ、其違警罪ニツイテノ報告、及ヒ訴狀ノ如キハ、直チニ其部ノ警部、或ハ邑長、副邑長ニ之ヲ送付ス、千八百五十四年、布達二百三十條、二百四十八條、二百五十條

第十四條 數員ノ警察官吏ヲ設クル區内ニ於テハ、時トシテ同時數員ニ罪狀ヲ報告スルコトアリ、此ノ場合ニ於テハ、此ノ官吏一員、專ラ其訓書及ヒ探偵等ノコトヲ掌ル、

若シ田野森林監守人等ノ手ニテ、犯罪者ヲ捕護スルニ際シ、邑長、或ハ副邑長、其場ニ來會スルコトアルトキハ、該官吏等ハ、警察ノ上官タルヲ以テ、監守人ハ、直チニ犯者ヲ之ニ交付シ、該官吏ノ手ニテ、其犯跡ノ

景狀ヲ審査ス治第十條

總テ警察ノ事務ヲ執行スルニ下級ノ者ハ其上級ノ者ノ其場ニ來會スルコトアレハ其上級ノ者ニ就テ其處分ヲ乞フ故ニ又副邑長若クハ警部ノ如キハ上ニ陳ル所ノ事狀アルニ會ヘハ其事務ヲ邑長ニ仰ク是則邑長ハ其邑内ニ於テハ行政部ノ首吏ナレハナリ、

若シ又邑長或ハ警部或ハ治安裁判官等上ニ同キ事狀アルニ當テ檢事或ハ糾問判事若クハ縣令ノ爰ニ來會スルコトアルニ遇ハ直チニ此等ノ上官ニ就テ其處分ヲ仰クモノトス治第五十一條

邑長及ヒ治安裁判官ハ司法警察事務ニ於テハ相共ニ同等均一ノ權カヲ有ス故ニ互ニ其事務ヲ交通シテ相行フモノトス

邑長及ヒ治安裁判官ハ司法警察事務ニ於テハ規則上其職權ヲ均クシ相行フコトヲ得ト雖モ其專任ハ治安裁判官較重クシテ事件ノ其

職權ニ係リ一部ノ内ノ職任タルヲ以テ該官專ラ其處分ニ任ス、

治安裁判官ハ管轄ノ郡邑外ト雖モ金貨紙幣贋造等ノ疑狀アルモノ、家屋ニ入り之ヲ查覈スルコトヲ得治第四百六十四條

邑長、警部、治安裁判官及ヒ憲兵士官ニ於テハ相互ニ其職務ヲ幫助スヘシト雖モ現行犯アルカ如キニ至テハ憲兵士官首トシテ拿捕調査等ノ責ニ任ス然レトモ通常輕罪犯ノ如キニ至テハ憲兵士官ハ之カ訴狀及ヒ報告ヲ受理スルノ手續ノミニ止テ其蹤跡ヲ查覈スルノ責ニ任セス、

若シ邑長或ハ警部罪犯蹤跡調査ノ事ニ任スルトキハ其他ノ警察補佐ノ官吏ハ取テ之カ部内ニ專任スルコトナシ此職權ハ專ラ檢事或ハ糾問判事ニ隸屬スルヲ以テナリ、

是故ニ治安裁判官ハ邑長或ハ警部等ノ查覈ニ依テ拿捕シタル所ノ

囚徒ハ假令事故アリト雖モ直チニ解放ヲ命スルノ權ナシ必ス其囚徒ヲ檢事ニ送致スヘキモノトス、

第十五條 邑長若シハ副邑長其親戚等親中ノモノ輕罪違警罪ヲ犯シ

タルトキト雖モ猶ホ之ヲ調査スルヲ妨ケサルモノトス、

覆審院ノ布達千八百十年十月四日ニ曰凡ソ警部ノ職ハ其至親ノ違警罪ト雖

モ之ヲ調査シ得ル又田野監守人ハ其骨肉兄弟ト雖モ其犯シタル獸

獵犯罪ハ嚴密ニ之ヲ搜索スヘシ千八百十七年十一月七日布達

森林監守人ハ其義兄弟ノ森林中ニ於テ犯セル罪過ハ之ヲ搜索調査

スヘシ千八百二十二年十月十八日

治罪法第一百五十六條第百八十九條ニ懲治罪裁判所ニ於テハ其犯

罪ノ近親及ヒ等親内ノモノヲ以テ證人ト爲スコトヲ禁スト雖モ、

田野森林監守人ハ其職務ノ警察官吏ニ準スルヲ以テ此例ノ限ニ

アラス而シテ其職權ハ治罪法第十六條ニ載スルモノ、如シ、

治罪法第十六條ニ曰田野及ヒ森林ノ監守人ハ司法警察ノ職務ヲ

行フニツイテハ其管内ノ田野或ハ森林ニ於ル輕罪及ヒ違警罪ヲ

搜索ス、

田野及ヒ森林ノ監守人ハ輕罪或ハ違警罪アルニ遇ハ、其景狀及

ヒ場所時日並ニ其憑據トスヘキ徵証ヲ詳細ニ調書ニ記載スヘシ、

若シ犯者其犯ス所ノ物品ヲ他所ニ隱匿轉移シタルトキハ田野森

林監守人ハ其地ニ至リ搜索シテ其物品ヲ押取スヘシ、

然レトモ治安裁判官或ハ其補助ノ官吏又ハ警部若クハ區長副邑

長或ハ其補助官吏ノ立會スルニ非レハ此監守人ハ人ノ家屋製造

所及ヒ其所屬ノ園圃庭内等ニ入ルコトヲ許サス但シ此場合ニ於

テハ此監守人ハ其調書ヲ造ルニ必ス其立會シタル官吏ノ姓名手

署ヲ要求スヘシ、

又此監守人ハ禁獄以上ノ刑ニ處セラルヘキ現行犯或ハ衆人ニ共
犯罪ヲ公唱追逐セラル、者ヲ拿捕シテ治安裁判官若クハ邑長ノ
面前ニ拘引スヘシ、

邑長モ亦犯罪者ノ己レカ親戚タルト否トニ拘ハラズ其職務上ニ
於テ忌諱スヘキモノニ非スト雖モ法律上ニ於テハ邑長ハ親戚犯
罪ヲ調査處分セサルモノトス、

故ニ若シ其至親或ハ等親内ノモノ犯罪アルトキハ副邑長ヲシテ、
己レニ代ラシメ其處分ノ代理ヲナサシム若シ副邑長疾病事故ア
ルトキハ其他ノ屬員ヲシテ之ニ代シム、

第十六條 司法警察違警罪事務ニ於テハ祝祭日佳節及ヒ日曜日ノ如
キ百工休業ノ時間ト雖モ固ヨリ其職務ヲ休憩スルコトナシ、

故ニ邑長ノ犯罪ヲ查覈シ及ヒ調書ヲ作ル等ハ右ノ祝祭日ト雖モ亦
平日ニ異ナルコトナシ共和政治第六年十一月十七日

訴訟法一千三十七條ニ於テ祝祭日ニハ犯罪ノ調査及ヒ執行ヲ禁セ
リト雖モ司法警察事務ニ於テハ此例外トス千八百三十八年十一
月二十九日布達
是レ則警察ノ事務ハ些少ノ急慢ニ依テ或ハ重大ノ事狀ヲ誤リ或ハ
其證據ヲ失錯セノコトヲ恐ル、カ故ナリ、

第十七條 若シ重罪輕罪及ヒ違警罪ヲ審判スルニ當テハ其事狀ニ依
リ或ハ之ヲ公然ニ或ハ之ヲ隱密ニス治第三百
二十條

是故ニ邑長司法警察ニ着手シ犯情ヲ探偵スルカ如キハ特別ニ之ヲ
隱密セサルヲ得サルノ場合アリ罪犯ノ己ニ覺知スルト未タ拿捕ニ
就カサルト問ハス探偵ヲ隱密ニセサレハ或ハ其證據ヲ失ハノマ
トヲ恐ル、カ故ナリ、

第十八條 邑長、罪犯ヲ下吟味スルニ當リ、傍聽人、若シ暴騒ノ舉動ヲナシ、其事務ヲ妨シルトキハ、直チニ其暴騒スルモノヲ追逐スルコトヲ得、若シ巨魁タルモノ、其命令ニ背キ不敬ヲ邑長ニ加ヘ、脅迫ノ暴行アレバ、直チニ之ヲ拿捕シ、其事情書ト共ニ檢事ニ送致ス、訴訟法九十一條、五百九條、

第十九條 邑長、若シハ副邑長、前條ノ事務ヲ爲ストキハ、邑長ノ制服ヲ着スルコトヲ要ス、何トナレハ、人家、或ハ群集中ニ入り、探偵ヲナスニ際シ、預シメ、其邑長タルコトヲ、分明ニシ、且邑長ニ對シテ、不敬ノ所爲ナカラノコトヲ要スレハナリ、

第三章 重罪、輕罪、及ヒ違警罪ノ探偵事務、

第二十條 重罪、輕罪、違警罪ノ探偵查覈ニツキ、邑長及ヒ副邑長ノ職務ハ、既ニ第一條ニ陳ル所ノ如シ、其刑名、重罪（施體加辱）ヲ以テスルモノ

ハ、左ノ如シ、

第一 死刑、

第二 無期懲役ノ刑、

第三 流刑、

第四 有期懲役ノ刑、

第五 寨内禁錮ノ刑、刑第一、第六、第七條、

第六 終身禁獄ノ刑、

第七 放逐ノ刑、

第八 公權剝奪ノ刑、刑第六、第八條、

輕罪ハ、六日以上懲治監或ハ罰金十六フランク以上ノモノヲ指ス、刑第一、第九、第四十條、

違警罪ハ、五日以下ノ禁錮或ハ一フランクヨリ十五フランク

迄ノ罰金ヲ曰フ(刑第一第四百六十
四第四百六十條)

第二十一條 世ノ公益ヲ害スル(重罪(輕罪))

第一 金銀銅貨幣ノ贋造(刑第三百三十二條ヨリ)

第二 文(姓名等ヲ偽造シ)及ヒ商業上ノ票券ヲ贋造スルモノ

第三 常人ノ通行券及ヒ軍人ノ旅券ヲ贋造スルモノ(輕罪)刑第四百
十五條ヨ

リ第四百五十
一條ニ至ル

第四 官吏收賄(刑第四百七十七條ヨリ第

人民ノ住所ニ闖入脅迫スルモノ(刑第四百
十四條)

第五 公力兵ヲ統率スル官吏及ヒ檢事ニ對シ抵抗スルモノ及ヒ相
群集シ兵器ヲ提携シ收稅官吏ニ脅迫暴行スルモノ(刑第二百九條
二條ニ
至ル)

第六 司法行政警察諸官吏及ヒ公力兵ヲ統率スル官吏ニ對シ罵罵
至ル

或ハ擲擄侮弄等ヲナスモノ(刑第二百二十二條ヨリ)

第七 凡テ地方警察諸官吏ノ職務施行ノ際ニ當リ之ニ對シ不敬ヲ
加フルモノ(刑第二百三十三條ニ至ル)

第八 管鑰封印ヲ毀斷スルモノ(刑第二百四十九條ヨリ)

第九 宗門ノ僧侶禮拜執行中ニ對シテ暴行無禮ヲ爲スモノ

第十 漂泊無產業ノモノ(刑第二百六十九條ヨリ)

第十一 拘留所ヲ破壞シテ脱越スルモノ(刑第四百十五條及ヒ千八
百五十二年十二月八日布
達)

第十二 乞丐者(刑第二百七十四條ヨリ)第二百七十九條ニ至ル及ヒ

第十三 允許ヲ得サル集會(刑第二百
九十一條)

第二十二條 人民ニ害アル重罪(輕罪)

第一 恣ニ人ヲ殺スノ罪(刑第二百九十五條
及ヒ第三百四條)

- 第二 故殺謀殺ノ罪刑第二百九十六條ヨリ第二百九十八條ニ至ル及ヒ第三百二十九條
- 第三 尊屬ノ親ヲ殺害スルノ罪刑第二百二十九條
- 第四 子女或ハ孩兒ヲ殺スノ罪刑第三百二條及第三百三條
- 第五 毒藥ヲ以テ人ヲ殺スノ罪刑第三百一一條及第三百二條
- 第六 毆殺或ハ毒殺若シハ家屋ヲ燒害セシコトヲ揭示シ人ヲ脅迫シ又ハ警愕セシムルノ罪
- 第七 前項陳ル所ノ惡業ヲナサシコトヲ揚言シ若シハ其契約ヲナスノ罪刑第三百百七條
- 第八 恣ニ人ヲ毆撃傷痕スルノ罪刑第三百十二條
- 第九 尊屬ノ親ヲ傷痕毆撃スルノ罪刑第三百十三條
- 第十 制禁ノ兵器ヲ製造シ若シハ之ヲ携帶スルノ罪刑第三百十四條
- 第十一 粗忽不慮懈怠及ヒ成規ヲ輕忽ニスルヨリ生シタル殺傷毆

- 擊ノ罪刑第三百十九條及第三百二十條
- 第十二 飲食或ハ藥品ヲ用ヒ若シハ暴行ニ因テ孕婦ヲ墜胎セシムルノ罪刑第三百十七條
- 第十三 強姦ノ罪刑第三百十二條
- 第十四 粗暴脅迫ヲ以テ姦淫シ若シハ姦淫セント爲セシ罪刑第三百二條
- 第十五 十二歳以下ノ幼者ヲ強姦シ若シハ強姦セント爲セシ罪刑第三百三十一條
- 第十六 公然猥褻ノ所業ヲ爲セシ罪刑第三百三十條
- 第十七 未丁年者男女ニ淫行ヲ教唆シ及ヒ輒ク淫行ノ爲シ得ヘキコトヲ誘導スルノ罪刑第三百三十四條及第三百三十五條
- 第十八 姦通ノ罪刑第三百二十九條ニ至ル

第十九 婦ノ出産スルノ際ニ當リ其場ニ出會スルモノ出産届ヲ陪
ルノ罪

第二十 棄兒ヲ爲シタル罪第三百四十八條ヨリ第
三百五十三條ニ至ル

第二十一 幼者ヲ誘拐スル罪第三百五十四條ヨリ
第三百五十七條ニ至ル

第二十三條 所有物ニ係ルノ重罪輕罪

第一 事体重大ニ涉リタル盜罪

左ノ場合ニ於テハ強盜ノ重キモノトス

一夜間二人以上黨ヲ結ヒ強盜ヲ爲ス者刑第三百八十一條ヨリ
第三百八十六條ニ至ル

一夜間一人ニテ人ノ住所倉庫等若シハ佛國政府ノ允許ヲ以テ
法教ノ爲ニ設ケタル所ノ堂宇ニ入り強盜ヲ爲シタルモノ刑第
百九十二條ニ至ル

一顯提或ハ隱携ノ兵器ヲ持チタル強盜刑第三百
八十一條

一堂宇家屋ヲ破壊シタル盜刑第三百
八十一條
一攀援ノ罪墻塀門戸屋壁其他繞圍ヲ越ヘ家屋及ヒ庭園等ノ内
ニ入ルヲ曰フ刑第三百八十四條及ヒ第三百九十
七條

一地道若シハ竈窓ヨリ潛入シタル盜刑第三百
九十七條

一偽造ノ管鑰ヲ所持セル盜刑第三百
九十八條

一人ヲ脅迫シ及ヒ傷痕スルノ罪刑第三百八十三條
第三百八十五條

一途上ノ盜刑第三百
八十三條

一婢僕若シハ年期雇人傭工ノ盜贓ヲ犯セルモノ刑第三百
八十六條

一客舎ノ主僕倉庫吏及ヒ舟子脚夫馬丁車夫等其委託セラレタ
ル物品ヲ偷盜セシモノ刑第十
六條

一境界ノ標柱ヲ移轉セシモノ刑第三百
八十九條

一管鑰ヲ破壊セシ盜

- 一 贓物ヲ所藏シタル官庫ヲ破壊セシ盜刑第二百五十四條
- 第二 田野ニ置在セル耕耘器械若シハ石墾伐木場ノ木石及ヒ池沼ノ魚鼈等ヲ偷盜セシモノ刑第三百八十條
- 第三 竊盜及ヒ拘摸ヲ爲スモノ刑第四百一十條
- 第四 脅迫暴行ヲ以テ契約義務アル證書類ニ自署セシムルモノ刑第四百四條
- 第五 差押エ置タル物品ヲ偷盜セシモノ全上
- 第六 詐偽ノ倒産刑第四百九十一條商
- 第七 通常ノ倒産刑第四百二條商第五百八十五條
- 第八 詐術ヲ以テ掠奪ヲ行フモノ刑第四百五條
- 第九 信義ヲ違失スルモノ刑第四百八條
- 第十 不正ノ度量衡ヲ用ヒ及ヒ販賣スルモノ刑第四百二十三條

- 第十一 放火スルモノ刑第四百五十八條
- 第十二 誤テ火ヲ出スモノ刑第四百三十九條
- 第十三 官署ノ証書及ヒ銀行ノ票券等故意ニ之ヲ焚毀スルモノ刑第四百三十九條
- 第十四 黨與ヲ爲シ又ハ暴行ヲ以テ剽略スルモノ刑第四百四十條及ヒ第四百四十二條
- 第十五 未タ収穫セサル穀物及ヒ未タ成熟セサル菓實ヲ竊ムモノ刑第四百四十五條
- 第十六 人ノ植培シタル樹木ヲ斫伐殘害スルモノ刑第四百四十八條
- 第十七 人ノ禾穀及ヒ草秣ヲ刈收スルモノ刑第四百四十九條
- 第十八 人ノ耕耘器械ヲ破壊スルモノ刑第四百五十一條
- 第十九 人ノ牛馬及ヒ其他ノ獸類又ハ池沼ノ魚ヲ殺害スルモノ刑第四百五十二條

四百五十二條ヨリ第
四百五十五條ニ至ル

第二十 人ノ田園經界及ヒ溝渠坡塘ヲ破壞スルモノ刑第四百
五十六條

第二十一 土地或ハ製造所又ハ水車池沼等ノ所有主規則外ノ疏水
路ヲ作リ他ノ地エ水派ヲ潰放流決セシムルモノ刑第四百
五十七條

第二十二 獸類ノ傳染病流行スルニ際シ監守者之ヲ邑長ニ報告ス
ルヲ怠慢シ及ヒ之ガ豫防法ヲ忽ニスルモノ刑第四百五十九條ニ
至

第二十四條 特別法ノ輕罪

第一 兵士所用ノ器械或ハ物品ノ盜贖ヲ販賣シ若クハ之ヲ藏匿ス
スルモノ陸軍律第二百四十九條
海軍律第三百二十九條

第二 官ノ允許ヲ得ザル圖書ヲ公賣スルモノ(行賈居商及ヒ讀賣ス
ル者ヲ總ヘテ曰フ)刑第四百五十九條
千八百三十四年二月十六日千八百四十九年七月二十七日ノ法令
第六條千八百五十二年二月十七日ノ布達

第三 癡狂院ノ規則ニ違犯スルモノ千八百三十八年六月三十日法
令第三百三十一條第四十一條及ヒ千
八百三十九年十
一月十八日布達

第四 諸職工條約年期ヲ詐欺スルモノ刑第八百五十二年法令第四
十條

第五 允許ヲ得スシテ硝藥兵器ヲ製造販賣シ及ヒ之ヲ蓄藏スルモ
ノ千八百三十四年五月二十四日
ノ法令第二條ヨリ第五條ニ至ル

第六 嚴禁ノ兵器ヲ製造及ヒ之ヲ蓄藏シ又ハ法律上或ハ行政規則
ニ禁制シタル所ノ各種ノ兵器即チ小銃短銃懷劍腰刀銃鎗短劍ス
チーレ一懷劍ノ極テ短小ニシテ首尖三トロンブロン極テ短小ナ
角ヲ爲シ三稜皆ナ双アルモノ刑第三百四十四條及ヒ千八百三十
ヲ製造シ或ハ之ヲ携帶スルモノ刑第三百四十四條及ヒ千八百三十
及ヒ百五十サンチメートル凡ソ我カ以上ノ短銃ヲ提携スルモノ
千八百五十八年六月二十八日內務
大藏兩卿及ヒ陸軍卿ノ布令

第七 官許ヲ得スシテ社會ヲ設ルモノ
千八百五十四年四月十日及
千八百五十二年
三月二十五日ノ法令

第八 故ナクシテ兵器ヲ携帯シ、黨ヲ結ヒ、群集スルモノ
千八百四十八年六月六日
日ノ
法令

第九 酒類ヲ偽造スルモノ
千八百五十五年五月五日及
千八百五十八年六月二十七日ノ法令

第十 官許ヲ得スシテ、就飲酒店及ヒ、茹非店ヲ開クモノ
千八百五十二年十二月二十九日
布達

第十一 獸獵規則ヲ犯セルモノ
千八百四十四年五月及
千八百四十五年五月五日布達

第十二 鐵道規則ヲ犯セルモノ
千八百四十五年七月十五日及
千八百四十六年十一月十五日ノ布達

第十四 酒類、茹非、食鹽、烟草及ヒ、馬車等ノ雜稅ヲ規避スルモノ
第十五 森林ノ規則ニ觸ル、輕罪及ヒ遊警罪
森林法第十九條ヨリ
第十六 田野ノ規則ニ觸ル、輕罪及ヒ違警罪
田野法第七條ヨリ

第十七 人ヲ道路ニ罵詈スルモノ
千八百十九年五月十七日布達

第十八 収稅所ノ規則ニ觸ル、モノ
千八百十四年十二月十七日及
千八百十六年四月二十一日
日ノ
法令

第十九 道路、田畝ノ灌溉法ヲ犯スモノ
千八百五十四年六月十日
ノ
法令

第二十 抽籤撰舉ノ規則ヲ犯スモノ
千八百五十二年
二月二日ノ布達

第二十一 届ナクシテ外國人、佛國內ニ居住スルモノ
千八百四十九年十二月三日
ノ
法令第七ヨリ
第九ニ至ル

第二十二 家資分散ノ罪ヲ犯スモノ
商法律第五百九十四條ヨリ
百九十七條ニ至ル

第二十三 虛誕、浮說ノ新聞ニ公告スルモノ
千八百五十二年二月十七日ノ布達

第二十四 檢査ヲ經サル、金銀製造品ヲ販賣スルモノ
共和政治第九日ノ法令第九十二條
及ヒ第九十四條
凡ソ金銀ヲ以テ物品ヲ製造スルニ、其常職ノモノハ、檢査局ヨリ之

- レヲ檢視ス其常職ニ非スシテ製造スルモノハ邑長之ヲ検査ス八千
百二十六年四月
十五日ノ布達
- 第二十五 未熟ノ穀物ヲ販賣スルモノ(共和政治)第三年
十月六日布達
- 第二十六 允許ヲ得スシテ兒童教育所及ヒ諸種ノ學校ヲ開設スル
モノ(千八百五十五年三月十五日法令第二十九五十五)
第二十七 官許ヲ得スシテ新聞紙ヲ發行スルモノ(千八百五十二年
二月十七日布達)
- 第二十八 官許ナシシテ書肆ヲ開シモノ(千八百五十二年二月十
七日第二十四條)
- 第二十九 官許ヲ得スシテ百工ニ關スル書籍ヲ發賣スルモノ(千八
百五十四年六月二十二日法令第
十一條ヨリ十四條ニ至ル)
- 第三十 健康ヲ害スヘキ不潔ノ居住ヲナスモノ(千八百五十年四
月十三日法令)
第三十一 抽籤賭及ヒ無盡講ノ類ヲナスモノ(千八百三十六年五月
八日及ヒ五月二
十九日ノ公布)

- 第三十二 制禁ノ物品ヲ製造スルモノ(千八百四十八年三月二
日及ヒ廿一日ノ布達)
- 第三十三 贗造ノ物品ヲ欺キ賣ルモノ(千八百五十一年三月二
日及ヒ三月三
日ノ法令)
- 賣買物品ノ徽号ヲ偽造スルモノ(千八百五十七年三
月二十三日ノ法令)
- 第三十四 帝王若シハ皇族ニ對シテ公ケニ不敬ノ言語ヲナスモノ
(千八百五十三年六
月十日ノ法令)
- 第三十五 諸官吏及ヒ訟庭ノ倍密若シハ其證據人ニ對シテ公ケニ
嘲哂慢侮スルモノ(千八百二十二年三月
二十二日法令第六條)
- 第三十六 淫褻ノ圖書ヲ販賣シテ風儀ヲ亂ルモノ(千八百十九年五
月二十五日法令)
第三十七 川岸ノ禁ヲ犯スモノ(千八百二十九年四月十五日及ヒ千
八百四十年六月六日ノ法令)
第三十八 海濱漁獵ノ禁ヲ犯スモノ(千八百五十二年七月四日千八
百五十二年七月四日千八百六
十二年五月
十日布達)

第三十九 條ニ 偽造ノ度量衡ヲ所用スルモノ 千八百二十一年三月二十七日法令第三條ヨリ第七

第四十 免狀ヲ得シテ醫術ノ内科外科及ヒ産婆ノ業ヲナスモノ 共和政治 十一年六月十九日 同七月廿日 同十三年五月十九日 及ヒ 千八百五十年五月三日ノ法令

第四十一 故ナツ群集スルノ禁ヲ犯スモノ 千八百四十九年七月二十日 千八百五十二年二月十七日 月十七日 日法令

第四十二 郵便規則ヲ犯スモノ 千八百四十四年八月廿四日 千八百五十四年六月二十二日 千八百五十六年六月二日 十五年日法令

第四十三 專賣ノ免許ヲ偽ルモノ 千八百四十四年七月五日ノ法令

第四十四 圖書印刷ノ禁ヲ犯スモノ 千八百十九年六月十七日 千八百五十九年七月二十七日 及ヒ 千八百五十二年二月十七日ノ法令

第四十五 徵兵令ノ規避スルモノ 千八百三十二年三月廿一日ノ法令 第三十八 第四十 第四十一 及ヒ

四十三條ヨリ四十五條ニ至ル

第四十六 所有主 偽名ノ徽號ヲ附ケタル馬車ヲ用ユルモノ、

第四十七 官許ヲ得スシテ、人身ニ害アル藥品ヲ販賣スルモノ、 千八百五十五年七月十九日、同六年十月二十九日、千八百五十年七月八日ノ法令、

第四十八 官許ヲ得スシテ、劇場ヲ開設スルモノ、 千八百五十二年二月三十日ノ布達

第四十九 己ニ使用スル郵便切手ヲ再ヒ貼用スルモノ、 千八百四十九年十月十三日 三日 法令

第五十 職工場、或ハ製造所職工時間ヲ偽ルモノ、 千八百四十八年九月九日及ヒ 千八百五十七年五月十七日布達

第五十一 商用ニテ貸借スルノ金貨物品ニ非常ノ利息ヲ貪ルモノ、 千八百七十七年九月三日、千八百五十年十二月十九日法令、

第五十二 途上ニ於テ犯セル輕罪、

第四章 重罪輕罪ニツキ檢事ノ報告スヘキ事由

第二十五條

凡テ警察官吏ハ各自ノ管轄内ニ於テ摘發スル重罪輕罪ハ直チニ其事由ヲ檢事ニ報告シテ其調書及ヒ其景狀總テ蹤跡ノ取ルヘキモノハ詳カニ採拾シテ送致スヘキモノトス治第十條

此報告ヲナスニ就テハ常人ニテモ或ハ其暴動ヲ見出シ或ハ一箇ノ死生存亡若シハ其所有物上ニ關スル犯罪アルトキハ之ヲ報告シ得ルコトハ法ノ許ス所ナリ治第十條

檢事ハ右ノ諸事件ニ就テハ檢事長ニ對シ已レノ異見ヲ陳述スヘキモノトス治第十七條

又輕罪或ハ重罪ノ甚タ重カラサルモノト雖モ檢事ハ其調書及ヒ犯者ヲ送致セラルトキハ之ヲ受理然レモ其事跡ヲ照査スルノ故アルヲ以テ可成ハ同日中若シハ遅クトモ翌日其調書ノ取調ヲ檢スヘ

シ

違警罪ニ關シテハ邑長及ヒ警部ハ首トシテ之カ糾問ヲナスヘシ、刑罪ノ甚タ重カラサルモノニシテ邑長其事狀ニ疑ヒアリト雖モ之カ調査ヲナスニ其暇ヲ得サルトキハ其事由ヲ掲ケ自己ノ意見書ヲ作り之ヲ檢事ニ通牒スルニ止ル、

第二十六條 重罪輕罪ニツキ檢事ニ報告スヘキ事

若シ重罪アルニ當リ其景況ノ最モ重大ナリト思量スルトキハ檢事親ラ之カ檢視ヲナス若シ親ヲスルコト能ハサルトキハ治安裁判官之カ檢視ヲナスコトヲ得、

重罪事件ヲ檢査スルニ就テハ其取調フヘキ事件ノ多クシテ其許多ノ時間ヲ要スルヲ以テ成ル可ク其官等ノ高フシテ其事務ニ長シタル人ヲ撰ミ之ニ其處分ヲ擔任セシムルコトヲ要ス、

重罪ノ刑名ヲ附スルモノ、則チ左ノ如シ、

- 第一 殺傷スルモノ、刑二百九十五ヨリ二百九十八ニ至ル、及ヒ三百四條
- 第二 子ヲ殺スモノ、刑三百條及ヒ三百二條
- 第三 毒殺スルモノ、刑三百一條及ヒ三百二條
- 第四 強姦二人以上相謀リ若クハ一人ニテ犯スモノ、
- 第五 人ノ住居若クハ倉庫及ヒ諸建造物等ニ放火スルモノ、刑四百十四條
- 第六 多人數黨ヲ結ヒ持凶器強盜ヲナスモノ、刑三百八十一條
- 第七 三人以上兵器ヲ提携シテ黨ヲ結フモノ、刑二百九條ヨリ二百一十一條ニ至ル
- 第八 夜集強盜ヲナスモノ、刑四百四十條
- 第九 一揆暴動ヲナスモノ、千八百四十八年六月七日ノ法令
- 第十 官吏ニ對シテ重輕罪ヲ犯スモノ、

第十一 鐵道礦山及ヒ製造所等ニテ人ニ災害ヲナシ及ヒ死傷スルモノ、

前數項ニ陳ル所ノ事件アルトキハ、檢事ハ直チニ其急報ヲ得ルモノトス、

然レモ治安裁判官ノ居住若シ檢事ノ居住ヨリハ其場所ニ近接セルトキハ、則チ治安裁判官其報告ヲ得テ直チニ其場ノ檢査ヲナシ、憲兵ニ傳令シテ之ヲ檢事ニ報知セシムヘシ、

若シ治安裁判官事故障アアルトキハ、邑長代テ之ヲ檢査シ直チニ檢事ニ報告スヘシ、千八百五十年三月十日布達第九十九條

第二十七條 重キ重罪アルニ際シ最モ注意スヘキ事件

凡ソ重罪ノ事件アルニ際シ、檢事及ヒ治安裁判官ノ其場ニ來着スル迄ハ其犯罪ノ蹤跡憑據トナル可キモノハ、最モ注意シテ錯雜ナカラ

ノコトヲ要ス其犯罪事狀愈々重ケレハ愈々之ヲ嚴密ニセサル可カラズ

若シ變死ノ者アリテ其景況殺害セラレタルモノト思量スルトキハ其實況ヲ其儘ニ存在セシメノコトヲ肝要トス

故ニ此場合ニ於テハ警察官ノ外ハ誰人ニテモ其屍體ニ近ツキ其衣類ニ觸レ尙ホ其場ニ近接スルコトヲ禁スヘシ

若シ家屋内ニ於テ死骸ヲ見出ストキハ其室内所在ノ器具ハ鎖少ノ物品ニ至ル迄其景狀ヲ詳悉セシメテ爲メ轉移セズシテ檢使ノ來着ヲ待ツベシ

若シ其變死アルニ當テ其死体ノ位置ヲ轉換シ或ハ其場ニ所在ノ物品ヲ轉移スル時ハ其死體ノ實迹或ハ自殺或ハ變死若クハ人ニ殺害セラレタルノ憑據ヲ取ルニ其事實ヲ失フコトアルガ故ナリ

其自殺或ハ變死若クハ殺害タルコトヲ豫メ了知シ且其死生ヲ檢視セシガ爲メ最モ注意シテ其傷痕ノ痕ヲ點檢スルコトヲ緊要トス然レトモ此場合ニ於テモ周圍ニ散亂シタル器具ヲ轉移スルコト無ルヘシ

其檢事或ハ治安裁判官ノ其場ニ來着スル迄ハ其死体ヲ警固スルカ爲メ警察官吏一人〔野外ニテハ田野ノ監守人〕及ヒ他ニ一兩人ノ看護者ヲ置クヘシ
若シ其死骸ヲ道路若クハ野外ニ於テ檢出スルトキハ詳密ニ其場ニ遺リタル足痕等ヲ留ムヘキカ爲メ白晝ナレハ藁薦ヲ以テ其周圍ヲ能ク區畫シテ通行人ノ爲ニ其蹤跡ヲ消滅セシメサルコトヲ要ス
若シ此ノ變狀ノ家屋内ニ於テアルトキハ速ニ其門戸ヲ鎖シ其監守ヲ置テ人ノ出入ヲ禁止セシムヘシ

若シ火器小銃或ハ短銃等ヲ以テ殺傷セラレタル景狀アルトキハ其場ニ遺

リタル器具若クハ銃丸ノ痕跡及ヒ其小片等ヲモ詳密ニ之ヲ採拾シテ査覈スヘシ

若シ其彈丸ノ一小片ヲモ檢出シ得ルトキハ其之ヲ一片紙ニ包藏シ、檢視ノ参照ニ備フヘシ

若シ此場合ニ於テ近隣所住ノモノニ其犯罪ノ疑ヒアルトキハ直チニ其家屋ニ至リ其景況ヲ査實シ若シ衣服等ニ憑據ノ認めヘキモノアルトキハ其衣類ヲ剝奪シ或ハ其所有ノ銃器等ヲ収メ詳ニ火門銃口等ヲ點檢シ其發砲セシコトアリヤ否ヤヲ精密ニスヘシ

第二十八條 毒殺アル場合ニ於テ注意スヘキ事件

變死アルニ際シ毒殺ノ疑ヒアルトキハ邑長其場ニ存在スル所ノ飲器或ハ紙片器具等ノ毒藥ヲ包藏シ若クハ其所用ニ充タルモノト思量スルモノアル時ハ悉ク之ヲ檢收シテ其場ニ立會タルモノヲ證人

トナシ其諸具ヲ邑廳ニ送致シ之ヲ其官庫ニ納メ邑長自ラ其管鑰ヲ所持シ又ハ一小區ニシ鎖固官印ヲ以テ之ヲ封シ邑廳ニ納メ置クヘシ

若シ其毒藥ノ殘餘アルトキハ檢事ヨリ舍密家ヲ招キ精密ニ之ヲ分解セシム

其殘餘ノ藥品ヲ分析スルノ際ニ當テハ一員ノ警察官吏ヲ遣シ其分解方法ヲ監視セシム

第二十九條 若シ孩兒ノ死骸ヲ檢出スルトキハ最モ注意シ人ヲシテ妄リニ其死体ニ觸サラシメノコトヲ要スヘシ如何トナレハ其些少ノ衝觸些少ノ振動アルトキハ其死體ニ多少ノ障礙ヲ生シ其解剖スルニ當テ或ハ其死狀ノ蹤跡ヲ診斷スルコトヲ混亂セシメノコトヲ恐レテナリ然レモ場所ニ依テ若シ其死體ノ位置ヲ轉換セサルヲ得

サルコトアルトキハ先ツ其檢出シタル所ノ景況位置ヲ詳認シ、且他ニ轉移スヘキ場所ヲ定メ置キ、而シテ徐々ニ其體ヲ轉移シ、舊ノ位置ヲ變換セサルコトヲ注意スヘシ、

若シ此場合ニ於テ婦女ニ分娩シタルノ疑ハシキ者アルトキハ、其實ヲ糾シ、若シ婦女其情實ヲ隱匿規避スルトキハ、先ツ其周圍ニ現存セル布片、衣衾、其他分娩ヲ徵証スヘキ諸品ヲ収メ、之ヲ蓄フヘシ、

若シ其犯罪ノ事跡ヲ查實センカ爲ニ、孩兒ノ死骸ヲ解剖スルコトアルトキハ、檢事、或ハ治安裁判官ノ中、其場ニ在ラザル之ヲ檢視ス、其解剖ノ技術ヲ執ルハ、其地ニ於テ最モ熟達セル所ノ内科、外科ノ醫員ヲ選フヘシ、

此末項ノ手續キハ、孩兒殺害ノ場合ノミニアラズ、變死一般其處分ヲ同一ニスルモノナリ、

第三十條 出火アル場合ニ於テハ、邑長其職務上ニ於テ、第一注意スヘキ事ハ、其消防ノ方法ヲ指揮シ、專ラ其消防夫卒ヲ適宜ニ配布スルコトヲ務ムヘシ、次ニ其火事ノ原因ヲ調査シ、失火ト放火トノ事實ヲ審カニシ、後其處分參考ニ供スヘキコトニ注意ス、

若シ其景狀ノ採ルヘキコトアリテ、失火ノ原因、若シハ放火セルノ蹤跡等ヲ詳認スヘキコトアルトキハ、調書中ニ其景狀等ヲ記載シ、且其事跡ヲ憑証スヘキモノ等ノ姓名ヲ掲載スヘシ、

第三十一條 若シ強姦、或ハ暴行、脅迫ヲ以テ、殺傷スルニ至ルコトアルトキハ、先ツ急ニ其被傷者ノ身體、及ヒ衣類等ヲ查實シ、迅速ニ醫員ヲ呼寄セ、其死体ヲ診斷セシメ、其傷痕ノ景狀ヲ詳悉スヘシ、但シ此處分ハ、最モ隱密ニ執行スルコトヲ要ス、

若シ其被傷者、或ハ其犯人ノ衣服等ニ認め、ヘキ蹤跡アルトキハ、其衣

類等ヲ檢出セル儘ニ貯藏シテ後日裁判ノ憑據トスヘシ、

第三十二條 檢事或ハ治安裁判官ノ其場ニ來着スル迄ハ、邑長ハ可成

クテ精密ニ罪跡及ヒ其犯者ノ景況ヲ詳悉スルコトヲ要スヘシ、

其犯者ノ未タ發覺セサル場合ニ於テ若シ其市邑内居住ノ者ニ罪跡

ノ疑フヘキモノアルトキハ、竊ニ其舉動ヲ視察シ、若シ其憑據スヘキ

モノアリト思量スルトキハ、之ヲ拘留シ、若クハ家居出入等ニ專ラ注

意看護スヘシ、

第三十三條 重罪及ヒ重キ輕罪ニツキテハ、警察諸官吏ハ、檢事ニ對シ、

報告スヘキ事件及ヒ景狀、意見等ヲ調書ニシ、或ハ書簡ヲ以テ成ル可

キタケ、迅速ニ之ヲ報知スヘシ、

是故ニ邑長ハ、檢事ニ對シテ報告スル事件ハ、已レノ意見ヲ包藏スル

コトナク、探偵ノ儘、其事情ヲ明瞭ニスヘキモノトス、

法章^治第十二條ニ於テ、凡ソ輕重輕罪ニ屬スル諸犯ノ重罪裁判所、或ハ懲

治罪裁判所ニ於テ處斷スヘキモノハ、總テ探偵及ヒ拿捕ノ

事ヲ任スヘキモノトス、故ニ邑長、副邑長及ヒ其他ノ警察官吏ハ、其現

行犯アルニ當テ、檢事ニ代ルノ職務ヲナス、

是故ニ諸犯ノ輕罪ニハ、檢事專ラ其拿捕ノ責ニ任シ、邑長及ヒ副邑長

等ハ、專ラ其事情探偵ニ着手シ、且其職務ヲ幫助ス、^治四十八ヨリ

第三十四條 凡ソ重罪、輕罪、違警罪アルニ當テハ、直チニ其拘引拿捕ニ

着手スルコト、一般ノ例規ナリ、

然レトモ、其罪犯ノ事件ニ由テハ、先ツ其原告者ノ訴訟スルヲ俟テ、而

後チ拿捕査覈等ニ着手スルモノアリ、其罪名ハ、即チ左ニ掲載スルモ

ノ、如シ、

第一 姦通ノ發覺スルアリト雖モ、本夫ノ自ラ其婦ヲ訴出ルカ、若

クハ婦ノ其夫ヲ訴出ルニ非サレバ之ヲ糾問スルコトナシ、刑、第
三十六條ヨリ、三百
三十八條ニ至ル、

第二 公然或ハ隱微ニ人ヲ嘲弄罵詈スルモノアリト雖モ、本人之
ヲ訴出ルニアラサレバ、之ヲ糾問スルコトナシ、刑、第四百七十一
九年五月十七日法令第十三條ヨリ、
十九條及ヒ二十六日ノ法令第五條、

然レトモ、諸官吏職務ノ執行中ニ於テ、之ニ不敬罵詈嘲弄等ヲ爲
スモノアルトキハ、必ス該官吏ノ訴出ルコトナシト雖モ、直チニ
之ヲ拿捕ス、是レ則チ官吏公務執行中ニ對セルノ不敬等ハ其訴
ヲ要セサルガ故ナリ、

第三 獸獵免狀ヲ所持シテ、他人ノ田野或ハ邸内、若クハ園圃ニ闖
入シテ、果穀ヲ殘害蹂躪スルモノアリト雖モ、其地ノ所有主之ヲ
訴出スルニアラサレバ、之ヲ拿捕スルコトナシ、

然レトモ、若シ其獸獵禁止ノ時間カ、若クハ收穫時間ニ、他人ノ田
圃園圃ニ闖入シ、或ハ人民居住繞園内ニ妄入シ、又ハ其獸獵ノ免
狀ヲ所持セスシテ、獸獵發炮スルモノアルトキハ、其地所有主ノ
訴出スルヲ要セス、直チニ之ヲ拿捕スルモノトス、

第四 金穀出納ノ官吏ハ、假令其職務上ニ於テノ犯罪、及ヒ刑法第
四百三十條ヨリ、第四百三十三條ニ掲載スル所ノ罪犯ノ如キモ
ノアリト雖モ、該官廳ヨリ之ヲ告發スルニアラサレバ、之ヲ糾問
スルコトナシ、

上ニ記載スル所ノ諸犯ハ、其特別ノ場合アルヲ除クノ外ハ、被害者之
ヲ訴ルニ非レハ、邑長其犯狀ヲ知ルト雖モ、之ヲ追糾スルコトナシ、
刑法、第四百三十條ニ曰、海陸軍ノ爲メ、諸般ノ物品ヲ供給支辦スヘ
キ委任ヲ受ケタル會社中ノ者、又ハ抗拒ス可ラサルノ脅迫ニ原因

スルニ非スシテ、其委任ノ職務ニ背キシ時ハ、懲役場内ニ於テ、使役スルノ刑ニ處セラレ、且其損害高ノ四分一ヨリ多カラス、五百フラノヨリ少カラサル罰金ヲ科ス、全第四百三十一條ニ曰、右ノ職務委任者ノ名代人タル者、若シ其職務ニ違背セシ時モ、亦前條ニ記載シタル刑ニ處セラル可シ、

若シ此職務ノ委任ヲ受ケタル本人ト、其名代人ト、相共ニ同上ノ件ヲ犯シタル時ハ、俱ニ同上ノ刑ニ處セラル可シ、

全第四百三十二條ニ曰、若シ官吏、若クハ政府ノ委任ヲ受ケタル者、前二條ニ記シタル、犯人ノ其職務ニ背クヲ助ケシ時ハ、該官吏、若クハ政府ノ委任ヲ受ケタル者ハ、有期ノ懲役ニ處セラル可シ、

全第四百三十三條ニ曰、若シ全ク其職務ニ背キタルニ非スト雖モ、懈怠ニ因テ其供給支辨ヲ延滞セシカ、或ハ其供給物件ノ性質、種類

分量ニツキ詐欺アル時ハ、該犯者ハ、六月ヨリ少カラス、五年ヨリ多カラサル禁獄ノ刑ニ處セラレ、且其損害高ノ四分一ヨリ多カラス、百フラノ少カラサルノ罰金ヲ科セラル可シ、

第三十五條 犯罪重輕ニ由テ被害者一旦訴ヲナスト雖モ、若シ其被害者ト和解シテ、其訴ヲ願ヒ下ケスルトキハ、邑長ハ其事件ニ對セル、取調ノ着手ヲ止メ、且其調書等ヲ、檢事ニ送達スルコトヲ停止スヘシ、故ニ左ニ記載スル所ノ諸件ノ如キハ、或ハ其和解ノ請求ニヨリテ訴狀ヲ却下シ、或ハ其和解ヲ其部ノ主任廳ニ委シテ、之ヲ檢事ノ處分外ニ附スルコトアリ、

其一 姦通ハ、本夫其婦ヲ訴ルト雖モ、夫婦相對和解スルノ後、本夫ノ承諾ニ依テ、其訴ヲ取消シニスヘキコトヲ願出ルトキハ、則チ、允許シテ其願旨ニ應ス、是レ即チ夫ハ其婦ヲ制スルノ權ヲ有シ、

且其本夫ノ承諾ハ其婦ノ罪跡ヲ消滅スルニ足ルカ故ナリ依テ此等ノ訴ハ本夫ノ情願ニ任セ其未訴訟セサルモノ、如ク認メテ之ヲ消滅ニ属セシム、千八百二十三年八月七日覆審院布達及ヒ刑三百三十七條

其二 雜稅收納ノ違則者ハ其訴ヘアリト雖モ其事件專ラ収稅官吏ノ處分ニ委スルヲ以テ其部署ニ於テ適宜酌量セシムルコトアリ、千八百十四年十二月十九日布令八十三條

其三 市街、郭門ノ輸入品雜稅ニ違則ノ者ハ之ヲ訟フルモ邑長ニテ適宜處分ヲナス、然レトモ若シ犯則人其収稅官吏ニ抗拒シ其事實ノ治安ニ關涉スルカ如キモノハ司法警察ノ權中ニ属ス、千八百三十三年十一月十四日布令

其四 稅關ノ成規ニ違則ノ者アリテ訴ルコトアルモ亦稅關官吏ノ權内ニテ其事件ヲ酌量シ、訴狀ヲ却下セシムルコトアリ、千八百十

六年四月二十八日
法令第五十八條

其五 郵便法違則ノ者モ亦右ニ準ス、千八百四十三年二月十九日布達

其六 英佛國境、海峽ノ魚獵規則ノ違犯モ亦右ニ準ス、千八百四十二年六月二十三日及ヒ七月二日ノ布令

其七 森林中ニ於テ森林法ニ違則ノ者モ亦右ニ準ス、森第百五十九條及千八百五十九年十二月二十一日ノ布達

上ニ記載スル所ノ訴狀ヲ取消シニスルニ於テハ邑長ハ其調査ノ着手ヲ要セサルモノナリト雖モ若シ其事實ヲ知ルヲ要スルニ及ソテハ之ヲ查覈スルモ妨ケナシ、此場合ニ於テハ其被告者ハ此官吏ノ調査ヲ遮妨スルコトヲ得サルモノトス、

民法第二千六十四條ニ曰、犯罪ニ依テ生シタル損害ヲ求ムルコトニツキテハ其和解ヲナスコトヲ得ヘシ、

此事件ニツキ和解ヲナスト雖モ、檢事ヨリ其犯人ノ罪狀ヲ告發スルニ妨ケナキモノトス、治第一條

民事ノ訴ヲナスノ權ヲ拋棄スルト雖モ、刑事ノ訴ヲ止メ、若シハ之ヲ停止スヘカラス、治第四條

左ノ事件ノ如キハ、和解ニ依テ訴訟ヲ拋棄スルモ、其原告者ノ爲ニ妨害トナラサルモノハ、其景狀ニ由リ、尙ホ其事跡ヲ取調ルコトアリ、譬ヘハ罵詈、嘲哂、或ハ傷痕ノ迸血ニ至ラサルノ暴動、收穫時間ノ田畝ニ獵スルコト等ナリ、千八百二十六年十二月八日布達

右ノ場合ニ於テハ、其損害ノ償ハ、其被害者ヲシテ、自ラ之ヲ要求セシム、但シ其異義アルノ時ハ、邑長之カ處分ヲナス、千八百二十二年三月八日及ヒ同二十六年二月八日司法省ノ布達

第三十六條 凡ソ其管區内ニ犯罪アルニ當テハ、憲兵先ツ之ヲ邑長ニ

報ス、邑長ハ調査シテ、其所見ヲ檢事ニ報告スヘキモノナリ、

憲兵ハ、一旦其報告ヲナシタルノ後、現場ノ査覈ヲナシ、其景況ノ調査

ヲ作リ、尙ホ重テ之ヲ檢事ニ報シ、以テ邑長ノ報告書ノ遺漏ヲ補フ、

憲兵ノ職ハ、探偵ノ務ニ精密ナルモノナリト雖モ、又邑長ノ査覈精密

ニシテ、憲兵ニテ或ハ其脱漏スルモノアルコトアリ故ニ互ニ相補フ

テ、其精密ヲ盡ス、

其獸獵等ノ事件ニ對シテハ、憲兵及ヒ田野森林ノ監守人ハ、其查實ス

ル所ノ調査ハ、邑長ニ據ラスシテ、直チニ檢事ニ報スルコトアリ、

第五章、現行犯ノ事、

第三十七條 現行犯ハ、法章ニ於テ制定セラレ、即チ現在行フ所ノ犯罪

或ハ現ニ行ヒ終リシ所ノ犯罪ナリ、治第四十一條

制法ニ於テハ、現行犯ハ犯罪ノ現ニ行フ所ノ時間、及ヒ現ニ行ヒ終リ

シ場合ニ於テ警察官吏ノ其實況ヲ查覈シ得ルノ場合ヲ言フト雖モ、慣習上ニ於テハ、一般之ヲ概テ二十四時間餘ヲ以テ、此期限ヲ定ム、邑長ハ其管轄區域内ノ犯罪ナレバ直チニ其場ニ臨ミ之ヲ調査ノ責ニ任スヘシ、

此場合ニ於テハ、檢事及ヒ治安裁判官、地方警部等ノ其事件ヲ取扱フノ權ハ最モ重キモノトス、

邑長ハ犯罪ノ報告ヲ得ルキハ直チニ其事務ヲ擔當シテ其結果ニ至ルヲ要ス、故ニ其調査ノ未タ充實セサルヲアルキハ要スル處ノ其時間ニ制限アルヲナシ、

上ニ陳ルカ如ク、邑長ハ其犯罪ヲ查覈シ其証人ヲ定メ及ヒ其犯者ノ居住ヲ查覈スル等ノヲアルヲ以テ、概テ其調査ノ期限ヲ定メス、

邑長ハ此諸般ノ調査ヲナシ、檢事ニ調書ヲ送達シ終ルノ後ハ其事件

ニ對シテハ其責任ヲ畢ルモノナリト雖モ、尙ホ後ヨリ逐次發見スルノ事件ハ報告ヲ以テ檢事ニ申達スルヲ得、

左ニ記載スル處ノ罪犯ノ如キハ直チニ現行犯ト認メラル、モノナリ、

其一 罪犯終ルノ後ト雖モ、衆人ニ其罪跡ヲ公稱セラル、モノ、
治、
第十一條

其二 假令罪犯ノ時刻已ニ經過スト雖モ、其罪跡及ヒ首從ヲ徵スヘキ兵器、或ハ他ノ器械、品具、或ハ書類等アリテ其確證アルモノ、

其三 其家屋内ニ於テ犯セル罪跡アリテ、其家屋ノ主宰人、之ヲ邑長ニ明證ニ告發スルキハ現ニ行フ處ノ罪犯ニ非ラスト雖モ之

ヲ現行犯トス、
治、
第九條及ヒ第五十條、
四十六條、
四十條、

此主宰人ト稱スルハ、一家ノ戶主、客舍ノ主人、雇人ノ家長ニ於ル

等ヲ云

第三十八條 邑長及ヒ副邑長ハ治罪法第三十二條ヨリ三十六條ニ至ル迄ノ制現ニヨリテ臨時檢事ノ職務ヲ執行スルノ權ヲ有ス治四十九條及ヒ五

十條 然レ此等ノ官吏ハ通常ノ輕犯ニ於テノミ多ク其職務ヲ執行スルヲアリテ若シ其重大ナル事件ニ當テハ專ラ檢事ノ處分ニ委スルモノトス

凡ソ現行罪犯アルニ當リテハ其報告ヲ得ルヤ否ヤ司法警察官吏ハ直チニ其場ニ至リ嚴密ニ其罪跡及ヒ首犯ノ者ヲ探索スル等ノ事ハ最モ着手ノ迅速ナルヲ緊要トス故ニ警察官吏ハ其犯罪ノ場所ニ至ルヲ彌々迅速ナレバ其効ヲ奏スルヲモ亦彌々速カナリ是レ經驗上ノ實迹ナリ其効驗トスル處ノモノ左ノ如シ

一 實地所在ノ證據人ニヨツテ其現實ノ告發ヲ直接ニ聞キ取り得ル事

一 其殺傷犯人若クハ盜賊遁逃スルト雖モ其蹤跡ノ未タ湮滅スルニ至ラサルニ際シ其着手ヲ爲シ得ル事

一 其犯罪者ノ所用セシ處ノ物品器具等ハ其犯罪人ニ於テハ其身ヲ遁逃スルニ甚タ妨ケナルモノナリト雖モ未タ之ヲ隱匿拋棄スルニ暇ナカラシムル事

一 殺傷犯人ノ其衣服ニ滌キ汚シタル鮮血ノ未タ乾クニ暇ナカラシムル事

一 沓履ニ穢レタル泥濘ヲ未タ洗除スルニ暇ナカラシムル事

一 其殺傷シタル兵器若クハ其盜賊ノ贓物ヲ未タ隱匿スルニ暇ナカラシムル事

一其首犯者若シ直チニ捕縛ニ就キ、糾問セラル、莅ニ詐欺ヲ構ヘ、遁辭ヲ謀ルニ暇ナク、且其從犯者ト姦計ヲ相通シ規避ノ術ヲ逞フスルニ暇ナカラシムル事、

一其罪犯者其心神ノ惑亂セルヲ以テ巧ニ罪跡ヲ飾ルニ違ナカラシムル事、

若シ之ニ少時間ノ休憩及ヒ沈思ノ暇ヲ與フルコトアルハ必ス規避ノ姦謀ヲ逞スルコトヲ得ルガ故ナリ、

一此場合ニ於テ若シ司法警察官吏若クハ裁判官該犯者ヲ糾斷スルノ以前ニ若干ノ時間ヲ猶豫スルコトアラバ必ス該犯ヲシテ規避ノ術ヲ得セシメ或ハ之ヲシテ其無罪ニ歸セシムヘキ姦計ヲ遂ケシメ得ルノ恐レアレハナリ、

故ニ警察官吏ハ罪犯百端ノ實況ニ臨ムモノナルヲ以テ常ニ其

罪犯ノ摸樣ニ應シテ其着手ノ方法ヲ百出變更シテ最モ罪跡ニ注意スヘキヲ要ス、

第三十九條 前條記載スル所ノ事項ニ於テ猶ホ犯罪ノ輕少ナルト其重大ナルトニ注意スヘキナリ其犯罪ノ或ハ傷痕血ヲ逆ルニ至ラサルト、肌骨ヲ折傷スルニ至ラサルモノ、及ヒ公然罵詈不敬ヲ加フルモノ、及ヒ其輕犯違式等ノ如キ直ニ其犯罪所ニ於テ之ガ着手ヲ爲スニ至ラサルモノニ於テハ、邑長其訴狀ヲ理メ、其證人ヲ定メ、而シテ其犯罪者ヲ已レガ面前ニ呼寄セ、之ガ糾斷ヲ爲ス、若シ其犯罪者ヲ拿捕スルコト能ハサルカ、或ハ犯罪者其地ニ在リト雖モ、其喚問ニ應セサルノ場合ニ於テハ、其旨ヲ調書ニ記載シテ檢事ニ報スヘシ、

非現行ノ重罪輕罪ノ事ハ、第一百五十七條參照スヘシ、

第四十條 若シ其重罪、輕罪、殺害、放火、毒殺等、及ヒ其諸犯ヲ爲ントシテ、

未タ果サ、ルモノ、及ヒ傷痕出血ニ至ルモノ、或ハ肌骨ヲ折傷スルモノ、或ハ強姦及ヒ其罪科ヲ未タ果サ、ルモノ、或ハ強盜、或ハ其他ノ輕罪等ノ事情、重大ナルモノニ至リテハ、邑長直ニ副邑長、若シハ其他ノ屬員ヲ引率シテ其場ニ至リ、若シ其現場ニ於テ其事實憑據タルヘキ人アルキハ、成ル可ク其二人以上ヲ以テ、之カ證據タルヲ要ス、治、第四十條

此場合ニ於テ邑長ハ、其罪犯ノ實況ヲ檢シテ、罪跡若シ第二十六條ニ記載セル所ノモノニ係ル時ハ、則チ該條ニヨツテ之ガ着手ヲ爲ス、若シ輕重罪犯ノ事情、直チニ檢事、或ハ治安裁判官ノ檢視ヲ要セサルノ場合ニ於テハ、邑長ハ左ノ條款ニ隨ヒ、其着手ヲ爲スヘシ、
第四十一條 若シ其傷痕挫折、或ハ強姦等アルニ臨ミテハ、邑長直チニ内科外科ノ醫員ノ近隣ニ在住スルモノヲ喚出シ、其誓詞ヲ爲サシメ

テ、診斷書ヲ造テシム、治、第四十四條
及ヒ五十條、

第四十二條 現行犯アルニ際シ、邑長ハ其最寄り適宜ニ一兩名ノ醫員、内科ヲ需メ、之ヲ引率シテ、現場ニ其容体ヲ查覈セシメ得ルノ權ヲ有ス、故ニ若シ其醫員事故ナクシテ、其命令ニ違背スルコトアル時ハ、邑長直チニ例規、刑、第十二章、四百七十五條、四ニ依テ、其違背怠慢ノ箇條ヲ認メ、且其違令ノ調書ヲ造ル、千八百三十年八月六日布達

第四十三條 若シ其現行犯ノ場所ニ於テ、罪犯者遁逃ノ蹤跡、或ハ其他ノ查照、靴痕スヘキ實迹アルキハ、邑長之ヲ最モ精密ニ檢査シ、且之カ調書ヲ造ル、

若シ其蹤跡ノ「スーリエ」ヘレ「靴」ノ裏面ニ多クノ「釘」等ニヨテ、ニ、地上ニ遺シタル靴痕ノ尖頭、靴ノ前頭ノ尖、或ハ靴背ノ釘跡、並ヘ打チタル「釘」ノ共一ニ脱スルカ、或ハ「釘」ノ尖圓等ノ、其跡アルキハ、其ヲ地上ニ遺スモノアリテ、他ノ靴痕ヲ區別シ得ル等ヲ云

痕跡ヲ保存シテ、其犯罪疑狀ノアル者ヲ其場ニ拘引シ、其履ヲ脱カシメ之ヲ履痕ニ照ラス、

若シ盜賊ノ家屋周圍ノ墻塼ヲ破壊シ、或ハ壁垣ヲ竄入スル等ノ一アルキハ、尙ホ其蹤跡查覈ノ調書ヲ造ルノ方法ハ、第二百三十六條ニ參看スヘシ、

其犯者ノ既ニ遁逃セルノ場合ニ於テハ、最モ其憑証ノ查覈ニ注意スヘキナリト雖モ、其蹤跡ノ輒スク消滅スヘキ事態土地砂上ノ遺痕等ニシテ、人ノ通行ニ依テ輒スク消滅シ易キモノ等ヲ云、等アルニ於テハ、邑長細カニ之カ檢査ヲ遂ルノ上、尙ホ他人ヲシテ更ニ之ヲ再檢セシム、

第四十四條 前條ニ記載スルカ如キ直チニ消滅シ易キ地上ノ遺形等ハ、時宜ニ應シテ其圖畫ヲ取ラシメ、其眞影ヲ摸寫シ、邑長之ニ自置シテ、其証憑タルコトヲ公認ス、

第四十五條

盜賊及ヒ其他ノ犯罪アルニ當ツテハ、其蹤跡ヲ查覈スル爲ニ、其居住ヲ檢査シテ、其贓物ヲ發見シ、其景狀ヲ搜索ス、此搜索ヲ爲スニ當ツテ、若シ其者ノ舉動、言語、混亂シテ景況ノ訝シキモノアルキハ、彌々其探偵ヲ精密ニシ、事狀ニ依リテ其者ヲ拘引ス、

第四十六條

現行犯罪アリ、家屋内、又ハ其他ノ場所ニ於テモ、此蹤跡檢査ヲ爲スニ當リ、邑長若シ其犯罪ニ關ハル所ノ物品器具等ノ散亂セシコトヲ悞ル、カ、或ハ其証人ノ脱逃セシコトヲ恐ル、キハ、直チニ令シテ其門戶、或ハ其場ヲ警備セシメテ、其查覈調査ノ竣ルマテハ、何人ニテモ、其場ヲ轉移退散スルコトヲ禁シ得ル、是則チ犯所ニ於ケル邑長ノ特權ナリ、治、三十若シ此制令ニ違フ者ハ直チニ拿捕シ、之ニ其調書ヲ添ヘテ、檢事ノ元トニ送付セシム、檢事之ヲ糾問判事ギユ―シユ、ダソニ附シテ、其處斷ヲナサシム、此斷決ヲ受ルノ場合ニ於テハ、犯者ニ

其時間ノ猶豫ヲ許スコトナク、且其處斷ニ付テ、不服ヲ述ヘ、或ハ之ヲ控訴スル等ノコトヲ許サス、但シ其處刑ハ十日間ノ禁獄、及ヒ一百フランノ罰金ヲ超過スルコトナキモノトス、

第四十七條 邑長ハ查覈ヲ終ルノ後、其犯者ノ親戚、隣人、婢僕、若クハ他人ニ對シ、其犯罪事迹ニ就テノ申告証書ヲ取り置クヘシ、治、三十二條、及ヒ三十三條、既ニ犯者ノ其何人タルコトヲ知り得ルカ、若クハ犯者既ニ拿捕ニ就クキハ、其犯者ノ目前ヲ避ケ、別所ニ於テ其親戚、隣人、婢僕、及ヒ其他ノ証人ヲ各自別々ニ喚問スヘシ、治、第七、十三條、

第四十八條 若シ其喚問ヲ要スヘキ証人ノ、疾病事故アリテ、其喚問ニ應シ難キ場合ニ於テハ、邑長躬自ラ該人ノ居宅ニ至リテ、親シク其探偵ヲ盡スヘシ、治、八十、三條、

若シ其疾病ノ故ナクシテ、証人邑長ノ喚問ニ應セズ、若クハ喚問ニ應

スルモ、其蹤跡ヲ吐露スルコトヲ肯セサルカ、或ハ申告其實ヲ以テセサルモノハ、直チニ其事狀調書ヲ作り、之ヲ糾問判事ニ送付シテ、之ニ罰金ヲ科ス、治、八十條、

第四十九條 此景狀ヲ查覈スルノ中、若シ目下事狀ノ疑ハシキ者アル時ハ、直チニ拘引シ、或ハ假リニ其者ノ居宅ニ於テ、拘留監視シ置クヘシ、然レモ、若シ其犯罪ノ甚々重大ニシテ死刑、若クハ無期、有期ノ懲役等ニ該ルヘキ、犯跡アルモノニ於テハ、其居宅ニ於テ、之ヲ拘留監視スルコトヲ許サス、直チニ之ヲ拿捕スヘシ、
凡ソ犯罪者ヲ直チニ拿捕スルコトハ、官ニ其遁逃ヲ豫防スルノミノ故ニ非ス、時間ヲ得テ罪犯ノ蹤跡ヲ規避、緝匿スルノ術ヲ逞フシ、或ハ其証人ノ口舌ヲ遮妨シテ、罪迹ヲ消滅セシメントスルノ奸計ヲ禦キ、且其究追自殺スル等ノ變ヲ豫防スルニアリ、

凡ソ公力兵及ヒ警察ニ關セルノ官吏ハ勿論其他何人ニテモ若シ施體加辱ノ刑ニ該ルヘキ現行犯若クハ現行犯ニ等シキ罪科ナル犯人アルニ遇ハ、直チニ拿捕シテ之ヲ檢事ノ前ニ拘引スヘシ但シ此場合ニ於テハ別ニ喚問狀ヲ用フルコトヲ要セス、治百六條

第五十條 犯罪者若クハ証人ノ中其國語ニ通セサルモノアルキハ邑長ハ之カ爲ニ一員ノ通辨者年齒二十一年以上ノ者ヲ出會セシメ之ニ通辨信實ノ誓言ヲナサシメテ後其問答ノ會話ニ從事セシム、治三百三十二條

婦女或ハ未タ飯化セサルノ外國人ト雖モ、年齡二十一年以上ノ者ハ喚出シテ此通辨ノ事ニ從ハシムルコトヲ得、千八百十八年四月十六日及ヒ同二十八年三月二日ノ布令

若シ犯罪者或ハ証人ノ中聾啞ノ者アリ、文字ヲ書中讀ムコトノ能ハサル者アルキハ、邑長其聾啞ニ對談スルコトニ慣熟シタル者ヲ出會セシ

メ之ニ誓言ヲナサシメテ後其問答ノ會話ニ通辨セシム、

若シ其聾啞者ノ書讀ヲナシ得ルキハ、邑長或ハ書記官其查問スヘキ事件ヲ詳記シ其犯者若クハ証人ノ目前ニ於テ之ヲ聾啞者ニ示シ聾啞者ヲシテ書面ヲ以テ之ヲ應答セシメ之ヲ以テ直チニ一方ノ者犯罪者或ハ其証人ヲ云ニ對シ其答辨或ハ申告スルコトヲ要ム、治三百三十三條

此問答ノ對談定ツテ後、邑長ハ自ラ其調書ニ自署シ續イテ其陪審者ヲシテ各自ニ自署セシム、治三十

証人裁判官及ヒ陪審ハ右ノ事件ニ對シテハ通辨者トナルヘカラス、若シ違フ者アルキハ其調査ノ書類ハ更ニ効ナキモノトス、治三百三十二條

第五十一條 調査若シ外國語ヲ以テ書載セルノ調書アルキハ、邑長直チニ其翻譯者ヲ命シ之ニ其信誠翻譯ノ誓言ヲナサシメテ後其事ニ從ハシムヘシ、千八百十六年七月十二日ノ布令

此翻譯書成レハ、譯者之ニ自署シテ、之ヲ保證シ、次ニ邑長之ニ自署シテ、則チ調書ノ一部トナス、

此場合ニ於テハ、翻譯者ハ相當ノ譯料ヲ申受ルノ權ヲ有ス、

第五十二條 竊盜、強盜、其他ノ現行犯アルキハ、其事述ヲ查覈シ、其物品

器具ヲ調査スルカ爲ニ、之カ鑑定人ヲ要スルヲアリ、譬ヘハ竊盜アル

ニ當ツテ、門戶、牆塀ノ破壞、鎖鑰ノ破毀等アルカ、若クハ盜マレタル穀

物、草秣、綿布ノ織物等アルニ、若シ其犯者ノ住所ニ於テ、其器械、品具ノ、

此蹤跡ヲ徵証スヘキモノアルキハ、之ヲ鑑定查督セシム、

若シ此鑑定人ヲ要スルノ場合ニ於テハ、邑長別ニ一兩輩ノ參坐ヲ求

メ、其鑑定人ヲシテ信誠ノ鑑定ヲナスヘキ、誓言ヲナサシメテ後、其事

ニ從ハシムヘシ、治四十三條及
四十四條

第五十三條 若シ二名ノ鑑定人ノ各自ニ其意見ヲ異ニシ、其申告ノ相

ヒ反スルキハ、邑長更ニ一名ノ別人ヲシテ、其鑑定ヲナサシメ、終ツテ

其三名ノ鑑定者ヲシテ、其鑑定書ヲ作ラシム、若シ此三名ノ内、文字ヲ

書スルヲ知ラサルモノアリテ、自ラ其評量スル處ヲ記載シ能ハサ

ルモノアルキハ、邑長之ニ代テ、自ラ筆ヲ執テ、其者ノ陳述スル處ヲ詳

細ニ筆記シテ、其旨ヲ附録シ、且自署スヘシ、訴三百十七條治四十二條、
四十九條及五十條

此鑑定ノ事務ヲナスニハ、必シモ犯者或ハ原被告ノ出會ヲ要セス、此

場合ニ於テハ、訴訟法第三百十五條及ヒ三百十七條ノ例規ヲ直チニ

適施シ難キモノトス、千八百十三年四月一日及ヒ同
四十四年九月十五日布令

鑑定人ハ、自己ノ所見ニ、格別其原因ノ憑據アルニ非レハ、輿論ニ依テ

其意見ヲ陳述スヘシ、訴三百
十八條

然レモ、鑑定スル所ヲ申述セサル以前ハ、相互ニ其所見ヲ吐露セサル

モノトス、此例規ハ民事ニ施ス、民事ニハ所
見ヲ筆記スヘクシテ、以テ刑事ニ用フ

ヘカラス、刑事ハ所見ヲ演述ス、

邑長ハ、別々ニ鑒定人、各自ノ異見ヲ擧リ、之ヲ調書ニ記載ス、

第五十四條 現行犯罪アルニ當ツテハ、邑長其事態ヲ検査スルカ爲ニ

諸種ノ職工ヲ使用シテ、其手術ヲナサシムルヲアリ、此場合ニ於テハ、邑長、譬ヘハ、家屋、倉庫ヲ開閉シ、家具、倉庫ヲ開鎖シ、渠井ヲ點檢シ、死体ヲ運輸シ、器具ヲ鑒定シ、或ハ破船、洪水、火災、又ハ其他ノ災厄、盜賊、掠奪等、總テ現行犯ニ係ハルノ諸事ニ對シテハ、何人ニテモ、邑長ノ要メニ應ジテ、之ヲ幫助スヘキモノトス、刑第四百七十五條

刑法第四百七十五條第十二項ニ曰、突出ノ災害、騷擾、難破船、洪水、火災、盜賊、掠奪、及ヒ現行犯、又ハ犯後衆人高擲追遂スル等、現行ノ犯罪ニ準スヘキ事件ノアルキ、其救援幫助ノ要求ニ應セス、或ハ裁判宣告、犯人處罪ノ期ニ至リ、故ナク妨碍スル者等ハ、六「フラン」ヨリ少カ

ラス、十「フラン」ヨリ多カラサルノ罰金ヲ科セラルヘシ、

第五十五條 重罪、輕罪ノ謀試、

重罪ヲ犯サント謀ルモノハ、假令其謀試ヲ止メ、或ハ之ヲ仕損スルモ、法律上其謀試ヲ以テ論シ、即チ重罪ナリト認ム、

刑法第二條ニ曰、凡ソ重罪ノ謀試ハ、假令已レノ意外ニ起リシ原因ニ依テ中止シ、或ハ仕損ゼシモ、其ニ其謀試ヲ以テ論ス、
一例ヲ左ニ掲ケテ、其説明ニ供ス、

- 一ノ強盜アリ、窓戶、牆壁ヲ壞リ、或ハ壞ラサルモ、猥リニ他人ノ居住ニ竄入シ、其不在ヲ僥倖シ、其衣笥、金篋ヲ披キ、既ニ其衣服、金貨ニ手ヲ下サントスルニ及ンテ、忽チ人アリ、家内ニ入り來ルノ物音ニ驚愕シ、盜人趨ツテ其家ヲ去ル、是則チ強盜ノ謀試、其着手ノ始メニシテ物アリ之ヲ支障シ、未タ物品ヲ掠ムルニ至ラスト雖

モ、既ニ謀試ノ蹤ト顯然タルヲ以テ、之ヲ斷決シテ重罪トス、其輕罪ヲ犯サントスルノ謀試ハ、法律上ニテ特別ニ定メタル事項、即チ左ノ諸件内ニ係ハルモノニ非サレハ、之ヲ斷決シテ輕罪ナリト認ムルコトナシ、刑、第三條

第一 官吏ノ職務執行中ニ對シ、暴行或ハ脅迫セシコトヲ試ミタルモノ、刑、第七十九條

第二 脱獄セシコトヲ試ミタルモノ、刑、二百四十一條及二百四十五條

第三 田野ニ於テ、果穀或ハ蓄類ヲ偷マシコトヲ試ミタルモノ、刑、第三百八十八條

第四 盜賊ノ物品ヲ故意ヲ以テ隱匿スルコトヲ試ミタルモノ、刑、第四百條

第五 竊盜ヲ試ミタルモノ、刑、第四百一條

第六 詐僞ヲ試ミタルモノ、刑、第四百五條

第七 脅迫僞計ヲ以テ、工主其工丁ノ雇賃ヲ減少シ、其工役ヲ增加シ、或ハ工丁其工主ニ、脅迫暴行セシコトヲ試ミタルモノ、刑、第四百十五條及百十四條

第八 商買物品ヲ、偽造販賣セシコトヲ試ミタルモノ、千八百五十七年三月二十七日ノ法令

酒類ヲ偽造販賣セシコトヲ試ミタルモノ、千八百五十五年五月五日ノ法令

第五十六條 凡ソ司法警察官吏ハ、罪犯アルニ當ツテ、主トシテ其首犯者ヲ探索シ、次ニ其從犯者ニ及フ、此從犯者ヲ三類ニ分ツ、第一豫テ暗號招集セル從犯者、第二現場ニテ臨時協力ノ從犯者、第三隱微ノ從犯者ナリ、

其招集ノ從犯者トハ、或ハ賄賂盟約脅迫或ハ指揮命令ヲ偽リ、或ハ器

具其他ノ奸計或ハ激唆煽動シテ強テ協力ナサシメ或ハ方術ヲ傳ヘテ其罪犯ヲ荷擔セシムルヲ云フ刑第六十條

臨時協力ノ從犯者トハ現在其首犯者ノ罪犯事狀ヲ了知シツ、故意ニ其奸計ヲ授ケ或ハ兵器器具其他犯罪ノ用ニ供スヘキ器具ヲ貸與シ、助力シテ其方術ヲ遂ケシムルノモノヲ云、

隱微ノ從犯者ト云ハ其黨與甚々多クシテ且最モ危難ナルモノトス、
本編第六十三條ニ詳ナリ就テ參考スヘシ、

第五十七條 司法警察官吏ハ犯罪アルニ當リテハ最モ公ケニ其處分ヲ爲スコトヲ要トス、故ニ檢事ハ其原告人又ハ被告人或ハ諸警察官又ハ其補官ノ事狀辨明ヲ聽明シ、雙方ニ其答辨ヲナサシメ、檢事其事態ヲ評量シ、其過失ヲ推糾シ、能ク其事情ヲ酌量シテ、其處分ヲナスヘシ、
治、第九十條、第二百四十一條、及ヒ千八百三十六年五月二十八日ノ法令第六條、

第五十八條 若シ犯罪者ノ其地ヲ遁逃シテ、遠ク潛匿スルノ場合ニ於

テハ、邑長ハ直チニ現場ニ其証人ヲ需メ、其事跡ヲ詳カニシ、其時刻ヲ明カニスヘシ、後其犯者糾斷ノ時、其本日ノ所在、遠隔ノ口實ヲナスモ、証人ノ口供ヲ以テ之ヲ憑証スルニ足ル、

此場合ニ於テハ、邑長ハ其証人ヲ別所ニ聽キ糾シ、其調査ノ終ル迄ハ、其証人ヲシテ、犯者ニ面會セシムルコトナシ、
第五十九條 盜罪ノ說約、

凡ソ法律上ニ於テ、罪名ヲ附スルハ、何人ニテモ、已レニ屬セサル處ノ物ヲ偷ミシ科ヲ名ケテ盜罪トス、刑第三百七十五條

此說約ハ、其犯者ヲ追糾スルト、其被盜主ノ之ヲ告發スルコト等ニ於テハ、關セサルモノナリ、千八百四十五年七月六日布達

凡ソ故意欺術ヲ以テ、己レノ所有ニ在ラサル物ヲ所領スルハ即チ之

ヲ盜トス、

此故ニ例ヘハ埋葬地ニ於テ殮屍布^{シニキル}ノ死体ヲ包ミ埋葬ヲ盜ミ若クハ墳墓ニ暴行ヲ加フルモノ等ハ之ヲ盜ト號シ刑第三百六十條及ヒ千八百二十二年五月十七日ノ^達布

第六十條 夫ノ其婦ノ物ヲ盜ミ或ハ婦ノ其夫ノ物ヲ盜ミ又ハ鰥夫或ハ寡婦其死去シタル配偶者ノ物ヲ盜ミ又ハ子及ヒ卑屬ノ親其父母及ヒ尊屬親ノ物ヲ盜ミ又ハ父母及ヒ尊屬親其子及ヒ卑屬親ノ物ヲ盜ミ又ハ同上ノ等親ニ同級ノ姻屬親戚互ニ相盜ム等ハ通常直ニ盜罪ノ名ヲ附セスシテ唯其損失ノ償ヲ要セシムルニ止ル刑第三百八十條 右ノ親戚以外ノ支親又ハ其他ノモノ首犯ニテ右ノ親戚以内ノ者之ニ從タルキハ之ヲ斷シテ盜罪トス千八百三十八年三月二十七日布達

第六十一條 刑法第三百八十條ニ於テ近親ノ偷盜ハ特別ノ例ニ出ル

モノナリトス故ニ多人數相圖リテ盜ヲ犯スニ其黨中ニ若シ其被盜者ノ婚ナルモノアルキハ此婚ノミ壹人其盜罪ニ附セラルトテ免レ其他ノ者ハ總テ斷然盜罪ヲ以テ論セラルヘシ千八百四十五年三月二十五日ノ布達

第六十二條 牆塀瓦板門戶窓牖其他人ノ行路ヲ鎖閉シ及ヒ防遮スヘキ爲メ設ケタル諸般ノ繞圍ヲ強テ振開シ又ハ破壞シ及ヒ毀損シテ犯セル盜ハ最モ其事跡ヲ詳明ニ調査シ最モ嚴酷ニ其處斷ヲナス其密ニ調査スヘキ事件ハ概テ左ノ如シ、

- 犯者ノ竄入セル牆塀屋蓋窓牖ノ高サ、
- 犯者竄入スルニ家屋内外ニ遺セシ蹤跡外部或ハ内部ノ破壞及ヒ門戶牆壁窓牖垣板箱匣箆櫃又ハ鎖括ノ行李其他掩蓋シタル家具什器ノ景狀、

右ノ諸器具類若シ器械又ハ其他ノ工具ヲ以テ破壞セシ蹤跡アルキ

ハ精密ニ其毀損ノ跡ヲ査覈シ置キ、該犯者ノ捕縛ニ就キシ上、其面前ニ於テ、其所有ノ器具ヲ以テ、其痕跡ニ照ラス、

破壞ノ盜ト謂フハ、必シモ内部ノ器物ヲ毀壞セシ、蹤跡ヲノミ謂フニ非ス、外部ニ一ニノ毀損、振開ノ跡アルヲ以テ充分スルモノナリ、刑第三百九十三條

破壞ハ、其物品ノ存在セル處ニ於ケルト、他所ニ於ケルトニ論ナク、總テ其罰名ヲ以テ論スルモノナリ、例ヘハ盜ナリ、牆壁窓戶ヲ毀損セス、又合鑰、偽鑰ヲ用フルヲナクシテ、家屋内ニ竄入シテ、箱匣、箆櫃、又ハ括リタル行李等ヲ偷ニ携ヘ去ツテ、之ヲ道路、若クハ他所ニ於テ振開ズルモ、猶其罪狀ハ、竄入セシ、其家屋内ニ於テ、之ヲ破壞セシモノト同一例ヲ以テ論セラル、刑第三百九十六條
若シ犯者、錠鎖ノ破壞セラレタル物具ヲ遺セルキハ、邑長之ヲ領収シ

テ、調書ニ詳記シ、他日ノ査照ニ供ス、

夜間二人以上協力シテ盜罪ヲ犯シ、又ハ夜間一人、晝間二人以上ニテ、人ノ居住家、若クハ居住ニ准スル麻舎、或ハ佛蘭西國ノ成規ニ循ヒ允准セラレシ、法教場ノ建造物ニ於テ、盜罪ヲ犯セシ等ノ區分ヲ審査スヘシ、刑第三百八十六條

若シ合鑰、偽鑰等ヲ以テ、盜ヲ犯セルモノアルキハ、其犯者ヲ拿捕シテ、其衣服中ヲ探リ、或ハ其居住内ヲ搜索シテ、其鑰鍵ヲ取リ、該犯者ノ目前ニ於テ、其鑰ヲ犯所ノ錠ニ照會シテ、其蹤跡ヲ査ス、

第六十三條 犯罪アルニ當ツテ、首犯者ヲ獲レハ、其從犯者ノ搜索ヲ怠ルヘカラス、

重罪、輕罪、及ヒ輕罪ヲ犯シテ、掠奪竊取シタル物品ノ全部、又ハ一部ヲ故ラニ隱匿シタル者ハ、其重罪及ヒ輕罪ノ附從トシテ之ヲ罰スヘシ

刑第六
十二條

盜犯ノ蹤跡ヲ查照シ得ルノ方便ハ其物品ヲ隱匿セル者ヲ探索拿捕
スルコトヲ最モ速ニスヘシ此盜賊隱匿者ヲ獲ルコト速カナラサレハ其
物品ヲ轉移シテ事迹ヲ失フコトアリ

第六十四條 凡ソ遺失物ヲ拾ヒ得テ其主ニ還附セス之ヲ隱匿包藏ス
ル者他ヨリ發見シテ其還附ヲ促スモ得者其拾ヒ得タルコトヲ偽リ隱
ス者ハ盜ヲ以テ論ス

客舍(旅宿)内ニテ金囊(財布)等ヲ拾ヒ得タル者直チニ之ヲ告發スルコ
トナク其遺失主ノ搜索スルニ至リ三日以外ニテ之ヲ告ル者ハ盜ヲ以
テ論ス 千八百三十三年
八月九日布令

山野街路等ニ於テ放逸セル牛羊ヲ獲テ後其所有主ヨリ還附セシ
コトヲ乞フニ其牛羊ヲ買得タルモノ、如ク詭ル者ハ盜ヲ以テ論ス 千八
百二

十五年三月
四日布令

僕婢(其家長ノ家宅内ニテ遺失物ヲ得テ告ケス)包藏スルモノハ盜ヲ
以テ論ス 千八百十七年
六月五日布令

雇人(工丁)使役者等其役長ノ工役場ニテ遺失物ヲ得テ告發セサル者
ハ盜ヲ以テ論ス 千八百五十五年
九月七日布令

凡ソ堂宇(館舍)内ニ於テ遺失サレタル物品ハ以テ遺失物ト認ルコ
ト得ス(假令他人ノ遺失スル處ノ物ナリト雖モ其地ノ主管者ノ保管
内ニ属セルモノトス) 全
上

第六十五條 凡ソ遺失物ト稱スルハ(山野)市邑ニ在テ物品(荷物)家具(器
械)金貨(蓄類)河海ニ在テハ漂流ノ諸物品ナリ遺失漂流物ヲ得ル者ハ
其所有ノ權アリト思フハ甚シキ誤ナリ得者ニ所有ノ權アルコトナシ
若シ遺失物アリ其主知レサルキハ其全部若クハ其大半ヲ官ニ収ム

佛蘭西國ノ法律ニ於テハ、遺失物アラハ、官之ヲ保管シテ、其遺失主ヲシテ、三年間ハ之ヲ請求スルノ權ヲ有セシム、民、第一千二百七十九條

民法、第一千二百七十九條ニ曰、動産ヲ遺失シ、又ハ之ヲ盜ミ取ラレタル者ハ、其得者ニ對シ、其日失フタル日ヲ指スヨリ三年ノ時間、其取戻シヲ求ムルヲ得ヘシ、但シ其之ヲ有スル者其得者ニ非レハ、之ヲ己レニ渡シタル者ニ對シ、其償ヲ得ヘキ訟ヲ爲スヲ得ヘシ、

遺失漂流ノ物品ハ、官ノ保管三年ノ後、其主知レサルキハ、特別ノ法則ニ仍テ之ヲ處分ス、民、第七百十七條

民法、第七百十七條ニ曰、物品ノ性質、及ヒ其種類ノ奈何ノヲ問ハス、海中ノ漂流物及ヒ波濤ノ海岸ニ打上ケタル物品、若クハ海岸ニ生スル草藻ノ類ヲ所得トスルノ權ハ、別段ノ法律ヲ以テ之ヲ規定ス、所有主ノ現出セサル遺失物モ亦之ニ同シ、

第六十六條 凡ソ動産、不動産、器具、家財等ノ諸物品、遺失漂流シテ、其主ナケレハ之ヲ官沒ス、千七百九十年十一月二十

故ニ遺失漂流物ハ、直チニ邑長、若クハ其他ノ警察官吏ノ手ニ送致スヘシ、邑長其事由ヲ附シテ之ヲ檢事ニ送致ス、檢事之ヲ其部ノ書記ニ附ス、治、第三十五條

但シ獸類ハ、直チニ厩牛欄等ニ率キ置クヘシ、

佛蘭西國ニテモ、或ル地方ニ於テハ、遺失物ノ所有主出テサルモノハ、其幾分ヲ分ツテ、得者ニ與フルノ慣習アリ、アレタノユ、西部、オル、レアノ、中部、郡等ノ諸郡ニ在テハ、遺失物ノ主ナキモノハ、其得者ニ三分ノ一ヲ與フルヲアリ、

第六十七條 漂流、漂着物品ノ三年間其主ナキモノハ之ヲ官沒ス、千八百一十一年八月ノ布、令、第二十六條

漂着物ヲ得タル者ハ二十四時間内ニ其地ノ官廳ニ告ク可シ若シ違
フモノハ隱匿盜贖ニ擬ス、

漂流及ヒ沈底物海底ニ沈ヲ得タル時ハ其一分ヲ得者ニ附與シ其
分ヲ官沒ス同上第二海品珊瑚珠真珠其他巨ノ類ヲ不意ニ海底ヨリ
曳キ出シ或ハ發見セル時ハ其分與方モ亦上ニ同シ全上第二
但シ魚鼈ハ全部ヲ其漁獵人ニ附與ス、

以上ノ物品其主ナキモノハ之ヲ競賣シテ海軍ノ老兵院ノ資金庫ニ
収ム千七百九十年五月十三日布令第一章第四章

第六十八條 河川ノ漂流物ハ之ヲ釣漁監主人或ハ邑長ニ届ケ出ヘシ、
此官吏等之ヲ揭示公告ス若シ一ヶ月内ニ其本主知レサルキハ競賣
シテ之ヲ官沒ス千六百六十九年八月ノ布令第十六條及十七條
千八百二十九年四月十五日ノ法律ニ河川釣漁ノ成規アット雖モ、

河川漂流物ノ成規ハ尙ホ此古法千六百六十九年八月ノニ據ル、

第六十九條 海陸運輸ノ貿易物品箱荷或ハノ遺失漂流物ハ六ヶ月間

ヲ揭示公告ス此期內ニ其主ナキモノハ之ヲ競賣シテ其地ノ官廳ニ
貯藏ス此競賣ヲ爲スニハ地安裁判官ノ出會ヲ要ス千八百十年八月第
一三條第

三條第
此物品ハ其競賣スルノ後二年ヲ超ユレハ本主之ヲ要求スルヲ得
ス全上第
四條、

諸鳥類ノ如キ死傷シ易キモノハ殺シテ競賣スルヲ得千七百九十二
年七月二十
十四日法律第五
十五條五十七條

然レモ慣習ニ於テハ其死傷セサル以前ニ之ヲ競賣シ其費用ヲ差引
シテ之ヲ分配ス、

諸税關及ヒ雜税郵便等ニ關セルノ遺失物ハ其官廳ニテ別段ノ成規

第七十條 詐欺

アリ、且邑長ノ關係ナキヲ以テ此條中ニ掲ケス、
 詐欺ハ種々ノ性質ヲ含ミ、輕重ノ罪科ヲ錯雜スルモノナリ、佛蘭西刑法第四百五條ニ於テ、其種類ヲ大別セリト雖モ、刑法ニ習達セサルモ、或ハ詐欺ト不信トヲ混スルコトアリ、詐欺ハ刑法ノ論スル所ニシテ重シ、其不信ナルモノハ刑法ノ問ハサル處ノモノニシテ輕シ、
 刑法第四百五條ニ曰、凡ソ偽リノ姓名ヲ用ヒ、或ハ偽リノ身分ヲ稱シ、或ハ偽リノ方術、無實ノ威權、偽リノ信據ヲ人ニ示シ、或ハ示スヘキ偽計ヲ用ヒ、又ハ人ヲシテ無實ノ企、及ヒ無根ノ事業ヲ希望セシメ、或ハ偽計ヲ用ヒテ人ヲ畏怖セシメ、人ノ所有スル金貨、動産、義務ノ證書、契約書、証券、約定書、及ヒ計算證書等ヲ己レニ渡サシメ、或ハ渡サシメント爲シ、試ミ、或ハ詭術ヲ以テ、他人ノ産業全部、若クハ一

部ヲ奪ヒ、或ハ奪ハノコトヲ爲シ、試ミタル者ハ一年ヨリ少カラズ、五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ、且五十「フラン」ヨリ少カラズ、三千「フラン」ヨリ多カラサルノ罰金ヲ科セラレルヘシ、
 又該犯ハ、其處刑ヲ受ケシ日ヨリ、五年ヨリ少カラズ、十年ヨリ多カラサルノ時間、左ニ記列スル處ノ、公權、民權、及ヒ族權ノ全部、或ハ一部ヲ行フノ權理ヲ禁止スヘシ、

- 第一 投票ヲ爲スノ權、及ヒ議員ヲ撰擧スルノ權、
- 第二 議員ニ撰擧ヲ得ルノ權、
- 第三 陪審又ハ他ノ公ケノ職務ノ任ヲ受ケ、及ヒ其職務ヲ行フノ權、
- 第四 兵隊ニ編入スルノ權、
- 第五 親族會議ニ參與シ、發言スルノ權、

第六 親族ノ協議ヲ得ルモ、已レノ子ニ對シテ、其後見人又ハ管財人トナルノ權、

第七 鑑定人トナリ、及ヒ証書類ノ証人トナルノ權、

第八 裁判所ニ於テ、事狀ヲ陳述スルノ外、證據ヲ演述スルノ權、

此故ニ旅宿ニ於テ、其旅料ヲ拂ハスシテ遁逃シ、或ハ商品ヲ買入レ、未タ其價ヲ償ハスシテ、其市街ヲ逃走スル等、其所爲憎ム可シト雖モ、上刑(第四百五條)中ニ記載スル所ノ事迹アルニ非レハ、之ヲ民事ニ附シテ處分セシム、

故ニ司法警察官吏ハ、其犯狀事迹ヲ詳明ニシ、其詐欺ニ入ルモノト、詐欺ニ入ラサル處ノモノトヲ評量シ、其蹤跡ヲ查覈スルニ最モ注意スヘシ、其詐欺ニ入ルモノ、例ヲ左ニ掲ク、

例ヘハ、人アリ他人ノ許トニ至リ、己レ自ラ或ル利益アル(一)ノ工業、

製造場ノ所有主タルトヲ僞リ、其僞造ノ圖面、及ヒ僞造ノ契約書類ヲ示シ、以テ其收稅所得ノ利益ヲ讓リ賣ノトヲ謀リテ、僞造ノ契約證書ヲ渡シテ、若干ノ金額ヲ得ル、是則チ僞リノ方術ヲ以テ、無實ノ權理ヲ賣リ、僞リノ證據ヲ契約ス、詐欺ノ完全ナルモノナリ、
人アリ、他人ノ重病危篤ニ逼ルヲ窺ヒ、自ラ稱シテ、其病ニ適當ノ藥水、製劑ノ方法ヲ得ルトヲ僞リ、或ハ他ノ奇術アリテ、其病根ヲ斷チ、平癒回復ヲ僞保シ、而シテ其藥品ニ非サル物品ヲ用ヒテ、高價ヲ得ル者ハ、無根ノ權、無實ノ方術ヲ用ユルノ詐欺トス、
擬造ノ骨牌ヲ用意シテ、骨牌賭博ニ勝利ヲ謀ルノ奸計ヲナスモノモ亦、詐僞ノ重キモノトス、
金銀ノ製造物、又ハ金剛石^{ダイヤモンド}ヲ贗造擬製シテ、田舎鄙村ニ持行キテ、欺キ販賣スルモノモ亦同シ、

身体ノ健康ヲ偽リ、或ハ故ラニ其身体ヲ傷痍シテ、以テ徵兵招募ヲ免レ、ソコヲ計ルモノ、モ亦同シ。

第七十一條 背信ノ事

背信ハ、他人ニ所有ノ物品、及ヒ証券等ヲ借り、又ハ預リ居テ、其情慾ニ任セ、之ヲ竊掠、消耗スル等ノコニテ、其事態種々アリ、

刑法第四百六條ニ曰、凡ソ幼者ノ窮乏、怯心、情慾ニ乘シ、其損害トナルヘキ詭策ヲ用ヒ、其幼者ヲシテ、金貨、動産、商業ノ証券、及ヒ其他ノ書類、手形等ヲ貸借スル義務ノ証書、又ハ計算証書ニ、其姓名ヲ手署セシムル等ノ事ヲ爲スモノハ、其事情方法、及ヒ口實ノ奈何ノヲ問ハス、二月ヨリ少カラス、二年ヨリ多カラサルノ時間、禁錮ノ刑ニ處セラル、且其罪犯ノ爲メ、損害ヲ受タル者ニ償還スヘキ金額ノ四分ノ一ヨリ多カラス、二十五フランヨリ少カラサル、罪金科セラル、

若シ其事狀ノ上文、刑四百ニ涉ラサルモノハ、以テ輕罪ト認ルコトナシ、

契約上ノ貸借ニ二種アリ、一ハ使用シテ、耗盡セサル物ノ貸借、一ハ使用スルニ因リ、耗盡スヘキ物ノ貸借ナリ、其耗盡セサル物ノ貸借ヲ名ケテ「プレ―ド、ユザ―ジユ」ト云ヒ、又其耗盡スヘキ物ノ貸借ヲ「プレ―ド、コンソソマシオン」ト云、民千八百七十四條

契約上ノ貸借ニ於テ、物品ノ耗盡スルハ、以テ犯罪トスルコトナシ、千八百七十四年四月二十六日ノ布令、

然レモ、若シ貸借ノ物品ヲ恣マ、ニ典賣スルカ、若シハ掠奪スル等ハ、其犯罪タル、更ニ疑ヲ入レス、

民法第千八百七十五條以下ニ於テ、耗盡セサル物品ノ、貸借本義ヲ述フ、

凡ソ耗盡セサル物品ノ、貸借トハ、貸主ヨリ、借主ノ使用ノ爲ニ物品

ヲ引渡シ借主之ヲ使用スルノ後貸主ニ返還スヘキ契約アルヲ云、
 此貸借ハ、賃銀ナキモノトス、
 貸主ハ其貸與ヘタル物品ノ所有ノ權ヲ保有ス、
 此貸借契約ノ義務ハ、貸主ノ遺物相續人及ヒ借主ノ遺物相續人ニ
 之ヲ傳フ可シ、

第七十二條 伐木ノ事

他人ノ植栽セシ樹木又ハ他人ニ屬スルヲ知リタル樹木ヲ伐リ、又
 ハ其皮ヲ剝去シ、損害スル者アルキハ、其事跡ヲ糾シ、若シ之ニ用ヒシ
 處ノ器具、斧鎌等ノ痕跡アルキハ、之ヲ蹤跡トナシ、其事狀ノ疑ハシキ
 者ノ居宅ヲ搜索ス、若シ其供用器具ヲ發見セシキハ、邑長其器具ヲ取
 ツテ、斫伐サレタル樹木ノ痕跡ニ照ラシ、符合スルモノハ、其樹片ヲ併
 セ取テ以テ之ヲ裁辨所ニ送附ス、

此場合ニ於テハ、其斫伐サレタル樹木ノ數ヲ詳記シテ之ヲ送附スヘ
 シ、伐木ノ刑ハ、其樹木ノ數ニ依テ處罪ノ長短アリ、
 刑法第四百四十五條ニ曰、凡ソ他人ノ所屬タルヲ知リナカラ、其樹
 木一根、若シハ數根ヲ斫伐スル者ハ、其樹木ノ每根ニ付キ、六日ヨリ
 少カラス、六月ヨリ多カラサルノ禁錮ニ處セラルヘシ、
 但シ其伐木ノ數巨多ナルモ、其處刑ハ禁錮五年ヲ超ユヘカラス、
 第四百四十六條ニ曰、樹木ヲ枯害セシメ、ノカ爲メ、之ヲ斫リ、又ハ傷
 ケ、又ハ其皮ヲ剝キタルモノモ亦、其罪上條ニ同シ、
 第四百四十七條ニ曰、接木一根、又ハ數根ヲ損害シタル者ハ、其接木
 ノ每根ニ付キ、六日ヨリ少カラス、二月ヨリ多カラサルノ間、禁錮ノ
 刑ニ處セラルヘシ、
 但シ其損害セシ數ノ巨多ナルモ、禁錮二年以上ヲ超ユヘカラス、

二〇一 第七十三條 森林ノ犯罪

森林中ノ樹木ヲ伐リ採リ、或ハ盜ミ取リタルキハ、其伐柯竊取セル樹木ノ數ヲ檢スルノミナラス、其樹木ノ性質、及ヒ其大小ヲ檢査スヘシ、
森、第九十二條ニ曰ク、
十二條、

森林法、第九十二條ニ曰ク、
其以上ノモノヲ伐採シ、或ハ之ヲ竊取セシキハ、其樹木ノ種類、及ヒ其大小ニ從ツテ、左ニ定ムル所ノ罰金ヲ科ス、

千八百五十九年六月十八日ノ法令ニ於テハ、此罰金ノ上ニ尙ホ輕キ禁獄ノ刑ヲ附加ス、

罰金ヲ科スルニ二種アリ、第一種ハ、良樹ニ付テノ罰金、第二種ハ、雜木ニ於ケル罰金ナリ、

第一種ノ罰金ハ、其樹木ノ周圍ニ二デシメートルニ充ルモノハ、二フ

ラソトス、其以上ハ二デシメートル毎ニ十サンチーム_(十分ノ一ナリ)ヲ加フ、

第二種ノ罰金ハ、其樹木ノ周圍ニ二デシメートルニ充ルモノハ、五十サンチーム_(十分ノ一)トス、其以上ハ二デシメートル毎ニ五サンチーム_(十分ノ一)ヲ加フ、

右ノ尺度ノ法、其樹木ノ周圍ハ、其地ヲ拔ク_(一)メートルノ所ニ於テ測ルモノトス、

右罰金ヲ徴収スルノ上ニ、禁獄ノ刑ヲ附加スル_(一)ハ、其罰金ノ十五フランニ超ヘサルモノハ、罰金ノ外尙ホ五日ヨリ多カラサル禁獄ヲ命シ得ル、若シ其罰金ノ十五フラン以上ニ該ルモノハ、二ケ年ヨリ多カラサル禁獄ノ刑ヲ命スル_(一)ヲ得ル、

第九十三條 前條ノ樹木、若シ既ニ他所ニ運搬シ、或ハ其樹木ヲ

已ニ削剝シタルモノハ其周圍ノ尺度ハ其切_口株ニ依テ之ヲ測ル
若シ切株ノナキトキハ其削剝シタル木材ノ方面ニ其五分ノ一ノ
尺度ヲ加ヘテ之ヲ測ル、
若シ其切リ株ト其木材ノ全ク見出シ能ハサルモノニ至テハ其罰
金ノ高ハ其訴訟ノ書類ニ據リ裁判官ニ於テ之ヲ評量スルモノト
ス、

第百九十四條 其周圍ニ二デシメートル以下ノ樹木ヲ伐採シ或ハ
之ヲ竊取セシ罰金ハ其運送ニ車ヲ以テセルモノハ其運送車ヲ挽
ク處ノ牛馬每一頭ニ付十フラントス又其負載運送セルモノハ每
一頭ニ五フランク若シ人夫ヲ以テ運搬セシモノハ每一人若クハ
其樹木一束ニ付二フランノ罰金ヲ科ス尙ホ此罰金ノ外五日ヨリ
多カラサル禁獄ノ刑ヲ命スルヲ得、

第百九十九條 凡ソ十年以下若クハ十年以上ノ森林ニ於ケル犯
罪ハ其罰金ニ各々單複ノ區別アリ、
第二百一條 凡ソ再犯ノ罪人ハ其本則ニ倍數ノ罰ヲ命ス(再犯ト
ハ一回森林法ヲ犯シテ尙ホ其十二ヶ月間ニ再ヒ裁判ノ宣告ヲ受
ルモノヲ言フ)

犯罪若シ夜間ニ於テスルカ或ハ犯者_ノ鋸ヲ以テ樹木ヲ伐採シタル
モノハ亦同様ノ罰ヲ命ス、

第七十四條 凡ソ森林ノ仆レ木(風折ノ樹)或ハ法ヲ犯シテ伐リ仆シタ
ル樹木ヲ恣マニ竊取スルモノハ森林ノ樹木ヲ伐リ仆シタル者ト
同一ノ罰ヲ科ス(森第百九十七條)

森林中穉樹ノ梢ヲ伐リ或ハ樹皮ヲ削キ若クハ其緊要ノ枝ヲ折リ其
他樹木ノ爲ニ枯害ヲ生スヘキ折傷ヲナス者ハ其樹木ヲ伐リ仆シタ

ルモノト同一ノ罰ヲ行フ森第百九十六條

六〇一

第七十五條 森林中ノ犯罪人ハ其首及ヒ其從共ニ其所持ノ鋸鎌斧等ノ器具ヲ沒収シ其價ヲ監定シテ調書ノ中ニ記載ス、

第七十六條 犯罪者ノ年齢及ヒ身分職業ヲ調査スヘシ犯者若シ婦女

子弟或ハ未丁年者若シハ奴隸御者其他ノ諸傭人ナルキハ其父母又

ハ夫兄又ハ後見人又ハ其主人タル者ハ其民事ニ係ル所ノ責ヲ擔フ

ヘシ森第二
百六條

第七十七條 已ニ期ヲ定メ代リトシタル所ノ樹木ヲ賣リ出スノ時ニ

當リ之ヲ竊ミ取リタル者ハ其罪最モ重シトス刑法第三百八十八條

第二項ノ刑ニ重ヲ加フ、

此場合ニ於テハ其盜ミ取リタル木材ノ尺度ヲ測ルニ及ハス只其員

數ヲ記シ且其賣木竊盜ノ事ヲ記載スルニ止マル、

第七十八條 河川釣漁ノ犯則

河川ノ魚類ヲ取ルニ網及其他ノ器械ヲ用ヒテ魚類ノ繁殖ヲ損害スルヲ禁ス千八百二十九年四月五日及千八百三十年十一月十五日ノ法令

各縣下ニ於テハ縣令ノ命及ヒ森林河川監吏河川湖沼ノ釣漁ヲ許ス

ニ一年中其時候ヲ計リ其期限ヲ定メテ妄リニ釣漁スルヲ制禁シ

及ヒ網及ヒ其他ノ器械ヲ用ヒテ魚類ノ繁殖ヲ妨害スヘキ漁獵ヲ禁

ス千八百三十年十一月十五日ノ法令第七項 此ノ縣令ノ布令ハ必ス國王ノ允許ヲ得ル

ヲ要ス同第八項

釣漁スヘキ河川ノアル縣下ニ於テハ縣令此ノ布令ヲ出セハ邑長之

ヲ專任スヘキモノトス、

右制禁ノ器具ヲ用ヒテ漁獵スルモノハ其器具ヲ沒収シ及ヒ其事狀

ニ從ツテ二十フラン以上二百フラン以下ノ罰金ヲ科ス、

七〇一

第七十九條 來因河ヲ佛蘭西ニ獨逸ノ國境ニ於テハ、釣漁ノ上ニ時限及ヒ器具ノ制禁ヲ置カス同上第四項

第八十條 既ニ官許ヲ得テ、其釣漁ノ權ヲ專有シタル者アル所ノ河川、溝渠、江池及ヒ其他ノ水道ニ於テハ、其專有者ノ承諾ヲ得サレハ、誰人ニテモ之レニ就テ、釣漁スルコトヲ許サス千八百二十九年四月十五日ノ法令第五項左ニ記載セル河川ニ於テハ、手竿ノ釣ヲ爲シ得ルコトヲ許ス、

第一 官費ノ營繕ニ係ル河川、溝渠

第二 大河、巨川ノ支流ニテ、常ニ自在ニ航行スヘキ水路ニシテ、其營繕ノ官費ニ係ルモノ全上第五項

然レモ、若シ此水路一箇ノ所有主アルカ、又ハ其地ノ共有ニ屬スルキハ、他人恣マ、之ニ釣ヲ垂ル、コトヲ禁ス、

第八十一條 官ノ釣漁ニノ關スルノ河川アリ、

千八百二十九年四月十五日及ヒ千八百三十五年七月十日ノ法令ニ依テ之ヲ定ム第八十六條見合

第八十二條 網具ヲ沒収スルコト

千八百二十九年四月十五日ノ法令ニ於テ、凡ソ誰人ニテモ、制禁ノ網具ヲ以テ漁獵スルカ、若シシハ現ニ之ヲ施用セスト雖モ、其居住外ニ之ヲ携帯スル者アルキハ之ヲ沒収ス、

然レモ、若シ其網具ノ巨多、或ハ多量ナルキハ、直チニ之ヲ沒収セスシテ、其網具ノ數及ヒ事狀ヲ調書ニ記載シ置キ、其沒収ノコトヲ本人ニ命ス第二百十五條見合

第八十三條 釣漁制禁ノ時間

釣漁制禁ノコトハ、凡ソ一ケ年間ニ其時候及ヒ時限ヲ定ム、故ニ魚類ノ孕産ノ時候ハ、晝夜共ニ其釣漁ヲ禁ス、其他ノ時候ニ於テハ、都テ日沒

ヨリ日出迄ノ間之ヲ禁ス、

然レヒ鱒、鮭、其他鰻等ノ魚類ハ、制外トシテ夜中之ヲ釣ルモ妨ケナキ
モノトス、

第八十四條 凡ソ夜中釣漁ノ禁ヲ犯ス者ハ、總テ其罪常例ニ二倍ノ重
キヲ科ス、

第八十五條 犯罪者ノ年齢、身分、職業等ヲ調査スヘシ、犯者若シ子弟、婦
女、或ハ未丁年者、若シハ奴隸、御者、其他諸雇人ナルキハ、其父母、又ハ夫
兄、又ハ後見人、又ハ其主人タルモノハ、其民事ニ係ル所ノ責ヲ擔當ス
ヘシ、同第七十五條

第八十六條 河岸ノ釣漁ト、海灣ノ漁業ニ於ケルノ區別ハ、千八百三十
五年七月十日ノ法令ニ依テ定ム、(海灣漁業ト謂フハ、河川ノ中ト雖ヒ、海潮ノ達スル地ヲ云)

此海灣漁業ニ就テハ、別ニ制規アリ、特殊ノ監守アリ、故ニ邑長及ヒ其
他ノ警察官吏ハ、其調査ノ書類ヲ受理シ、其器具沒收公賣ノ其處分ニ
參與スルニ止マル、千八百五十三年七月四日及五十九年十一月十九日ノ法令

第八十七條 池沼、籓等ニ蓄ヘ置ケル魚類ヲ釣り取ル者ハ、竊盜ヲ以テ
論ス、刑第三百八十八條見合

第八十八條 鳥獸獵、制禁時間ノ事

各年諸縣下ニ於テハ、縣令ノ布告ヲ以テ、其縣内ノ鳥獸獵許可ノ時限
ト、其制禁ノ時間ヲ示ス、千八百四十四年三月三日ノ法令

通常各縣下ニ於テ、其地ノ鳥獸獵ヲ許スノ時間ハ、九月一日ニ開イテ
三月一日ニ鎖ス、

此時間ハ、森林中ノ鳥獸獵モ共ニ免サル、(舊法千七百九十年四月三十日ノ法ニ於テハ、森林中ノ鳥獸獵ハ、特別ノ例規ニ出ルモノナリシ)然

レモ他人ノ所有地内ニ於テハ其所有主ノ承諾ヲ得サレハ固ヨリ鳥獸獵ヲ爲スヲ許サス但シ他人ノ所有地内ト雖モ其家屋ノ近方カ又ハ菓穀ノ未收地ニモ非ラス其境界ノ圍繞セサル地ニシテ其所有主ニ於テ訴ヲ爲サ、ルモノ、如キハ官敢テ之レニ調査ヲ加フルナシ、千八百四十四年三月三日ノ法令第二十六條、左ノ場合ニ於テハ鳥獸獵者其制林ノ境内ニ在ラスト雖モ違犯ノ罪ヲ糾ス、

獵者制禁ノ地外ニ在リ其所有ノ獵犬ヲ放ツテ境内ノ鳥獸ヲ獲ルモノハ直チニ犯罪ヲ以テ論ス、千八百四十年九月二十六日ノ法令、

獵者圍繞地ノ圍繞ニ巡邏シ居テ他人ヲ以テ境内ノ鳥獸ヲ取ラシムルモノ、千八百三十二年六月二十日ノ法令、

右ノ如キ犯罪ハ管ニ其現在ノ事狀ヲ調書ニ作ルノミナラス又其景

況ヲ詳悉スルヲ要ス是レ則チ其處分ニ輕重ノ酌量アルカ故ナリ、
第八十九條 圍繞地ノ事

前條他人ノ所有地内ニ於テ犯禁者アルノ場合ニ於テハ先ツ其土地ノ周圍牆壁又ハ溝壘等ノ圍繞物アリシカヲ調査シ又其圍繞地ノ直チニ人家ニ近接セルヤ否ヤヲ糾シ或ハ又其圍繞物ノ周圍ニ連續シテ其隣地トノ道路ニ境界ノ締リアルカ或ハ圍繞ニ空虚間隙ノ場所アリシヤ否等ノ事ヲ精密ニ査照スヘシ、千八百四十四年三月三日ノ法令、
此圍繞ノ景況ニ依リ其人家ノ遠近ニ因リテ犯者ノ處斷ニ罰金ノ多寡及ヒ禁獄ノ輕重アリ、全上、第十三條

然リト雖モ若シ其所有地主ノ承諾シテ己レノ慰ノ爲ニ鳥獸ヲ獵セシメタルトノ蹤跡アルノ場合ニ於テハ假令ヒ四時鳥獸獵免狀ナシシテ其人家近接ノ地ニ於テ獵業セル者アリト雖モ所有主親ラスル庭

園内ノ漁獵ト同一ニ見倣シ官ヨリ其罪ヲ問ハス、千八百二十三年三月二十一日ノ法令然レモ、船舶航行シ得ヘキ河川ニ於ケル、砂洲、島嶼ノ類ハ、圍繞ト同視スルヲ得ス、又溝渠、支流ノ舟行シ得ヘキモノハ、陸路、公道ト同ク論ス、千八百三十年二月十二日ノ法令、前ニ記載セル其圍繞ノ斷絶シテ、例ヘハ、牆壁ノ崩潰、溝壘ノ埋填シテ自ラ一ノ通路ヲ爲シタルモノ、如キハ、處罪ニ其事狀ヲ酌量スルモノアリ、

第九十條 若シ其犯則ノ、夜間ヲ働キタル者ノ如キハ、渾テ其犯罪ニ重キヲ加フ、千八百四十四年三月三日ノ法令、第十二條

第九十一條 凡ソ鳥獸獵(制禁)ノ時間ニ於テハ、搏殺シタル野獸ヲ販賣、運搬(行商)スルヲ禁ス、若シ犯者アレハ、其品ヲ沒收シテ、之ヲ其地ノ救恤院ニ附與ス、全上、第四條

第九十二條 鳥獸獵免狀

凡ソ鳥獸獵ノ免狀ハ、警察官吏ノ之ヲ見シテ望ム時ハ、拒ムヲ得サルモノトス、千八百四十四年十一月二十二日、内務卿ノ布達

第九十三條

鳥獸獵ノ免狀ハ、佛蘭西國中何レノ地ニ於テモ、一个年間ハ之ヲ活用セシムルヲ得ルモノナリト雖モ、實際ニ之ヲ用フルヲ得ルノ時間ハ、只其獸獵時限定期ノ間ナリトス、故ニ其免狀下附ノ時日ニ係ラス、其一期、九月一日ヨリ、三月一日マテ、ヲ以テ限リトス、千八百四十八年三月四日、及千八百四十九年七月七日ノ法令、第九十四條 鳥獸獵免狀ノ施用ハ、只其本人ニ限リテ、之ヲ他人ニ貸シ、若シハ、數人ノ爲ニ所用スルヲ許サス、然レモ、鳥獸獵ニ助手ヲ雇用シ、或ハ人夫ヲ使用スルヲハ、妨ケナシト雖モ、其銃器ヲ用フルヲハ、其本人ニ限ルモノトス、千八百五十一年七月二十二日、内務卿ノ布達

第九十五條 誰人ニテモ免狀ナシテ鳥獸獵ヲナスコトヲ禁ス故ニ獸獵ニ係ツテハ法ノ禁スル處無免狀ノ獵制禁時間ノ獵他人所有地内ノ獵等ナリ

又鳥獸獵ニ獵犬及ヒ其他ノ器具網陷穿ノ類ヲ用ヒテ他人ノ所有地内ニ獸獵シテ其地ニ妨害ヲ加フルモノハ其地主其器具ヲ毀テ及ヒ銃器ヲ以テ其獵犬ヲ驅逐シ得ルノ權ヲ有ス同上第九條

第九十六條 鳥獸獵ニハ小銃及ヒ獵犬ヒユレ「獸名免ヲ逐ヒ出免網」サシムルニ用ユ等ノ外他ノ器具ヲ用フルコトヲ禁ス同上第九條

故ニ若シ此他ノ器械ヲ用ヒ或ハ無免狀又ハ制禁時間又ハ制禁場所ニテ游獵セシ者ハ其罰則ニ重キヲ以テ論ス同上第十二條

第九十七條 犯則者左ノ諸件ヲ犯セル所爲アリヤ否ヤヲ調査スヘシ
諸鳥類除クヲ獵ルニ時限ノ制禁

池沼湖川ノ水鳥ヲ取ルニ時侯ノ區別制禁貯蓄ノ禽獸

第九十八條 犯則者若年ナラハ其年齡及ヒ姓名身分ヲ糺スヘシ該犯者若シ子弟家族奴隸ノ徒ナラハ其處分上ニ於テ民事ニ係ハル處ノ事ハ其父兄家長ニ於テ其責ヲ受ヘキモノナルカ故ナリ

第九十九條 鳥獸獵ノ犯則者ヲ見出セル警察官吏巡查若クノ直チニ其銃器ヲ沒収スルコトヲ禁ス何ントナレハ若シ犯者事狀究迫シテ不慮ノ暴舉ニ陥ルコトアラントテ慎レテナリ然レモ犯者若シ拿捕ニ就キ若クハ其場ヲ遁逃セントスルニ及ンテ其銃器ヲ隠シ或ハ拋棄シテ趨ル等ノ事アルハ此場ニ莅メル所ノ官吏邑長若ク警察官其遺弄セル銃器ヲ収メテ其事跡ヲ照査シ而メ後其銃器ヲ裁判所ノ書記局ニ収メシム千八百五十四年三月一日制定ノ三百二十九條

七一一 第七百條 此場合ニ於テハ力可及其銃器ノ品質種類ヲ審カニシナリ調書ニ

記載シテ裁判所ニ出シ、檢事判事ノ参照ニ供ス同上第十六條

若シ犯者其粧ヲ換ヘ、其容ヲ變シテ、其姓名及ヒ其居住地ヲ告ルコトヲ肯セサルハ、直チニ之ヲ邑長若クハ治安裁判官ノ前ニ拘引シテ、其身分ヲ查サシム同上第二十五條及第三百二十九條

第一百條 犯者ノ家屋ヲ搜索シテ、漁獵ノ器具ヲ沒收スルコトハ、糾問判事ノ指令ニ非レハ、爲シ得サルモノトス、故ニ此沒收ノ處分ハ、必シモ犯則ノ現時ニ行フコトヲ要セス、犯狀調査ノ後ニシテ、尙ホ之ヲ行フコトヲ得、此搜索沒收ノ場合ニ於テハ、必ス警察官吏ノ出會ヲ要ス、千八百零二年二月一日及三月十三日ノ制定、

第一百二條 此犯則者ヲ處分スルニ及ソテ、若シ十二个月以内ニ、嘗テ漁獵ノコトニ就キ、犯罪ノ處斷ヲ受ケシコトアルハ、其事由ヲ調書ニ記載シ、且其罰則ノ最モ重キモノヲ以テ、之レニ該ツ同上第十四條及十五條

第一百三條 憲兵及ヒ森林監守人、田野監守人、釣漁監守人等ハ、漁獵ノ犯則者ヲ拿捕シ、犯者罰金ノ處斷ヲ受ルキハ、其度毎其景況ニ應ジ、八フランヨリ、二十五フラン迄ノ賞與ヲ受ルノ權ヲ有ス、千八百四十四年假令ヒ、其官吏人員多數ノ關涉アルアリト雖モ、其人員ノ多少ヲ問ハス、單ニ此賞與ヲ附ス、

第一百四條 田野ノ犯則ニ、其罰金ノ高ヲ定ムルニハ、其土地所有者ノ損害高ヲ鑒定シテ、其高ニ據ル、此鑒定ニハ、必ス其土地ノ所有者及ヒ其犯者ヲ集合セシメ、其面前ニ於テ之ヲ定ム、若シ此場合ニ於テ、價格ノ定メニ不服シ、或ハ物議ノ起ツテ一致シ難キ時ハ、邑長直チニ別ニ一名若クハ二名ノ鑒定人ヲ立テ、之ヲ評價セシム、

此損害ノ高ヲ最初ニ豫定セサレハ、其到着スヘキ裁判所ヲ定メ難シ、何ントナレハ、其價格ニ依テ、犯罪ノ處分ハ、懲治罪裁判所又ハ違警裁

判所或ハ治安裁判所等ノ區別アルカ故ナリ、治第百七十

故ニ邑長ハ始メ警察官ノ訴アルキ直チニ其損害ノ價格ヲ定メ之ヲ
調書ニ記載スルヲ要ス、

第百五條 田野ノ犯則ニシテ其損害ノ償ヲ評量スヘキモノハ概子左
ノ如シ、

第一 他人ノ所有地内ニ水ヲ流溢セシメテ其植物ヲ損害セルモ
ノ、

第二 他人ノ領地又ハ他人共同シテ栽種セル地又ハ菓穀ノ未収
地又ハ他人ノ圍繞地内ニ牧獸ヲ放チテ其地及ヒ植物ヲ荒スモ
ノ、

第三 他人ノ収獲菓穀堆積ノ地内ニ牧獸ヲ放ツテ之ヲ荒スモノ、
第四 盗心ナシト雖モ他人ノ菓穀若クハ稗麥麥ノ青葉等ヲ斬弄
ナル時

又ハ蹂躪スルモノ、

第五 他人ノ牧獸又ハ蓄犬ヲ殺傷スルモノ、

第六 他人ノ園圃ニ栽種セル樹木ヲ盗ミ又ハ折傷スルモノ、

第百六條 田野ノ菓穀ヲ盗ムニ二ツノ種類アリ、

其一ハ既ニ収獲シタル穀物及ヒ菓物或ハ已ニ地ヨリ刈収セル諸産
物又ハ収獲堆積シタル菓穀草秣等ヲ田野ニ盗ミ或ハ車又ハ負載セ
シムヘキ獸類ヲ使用シ或ハ夜間一人又ハ晝間數人ヲ以テ右ノ竊盜
ヲ爲シタルモノ輕キハ十五日ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサルノ
禁獄且十六フランヨリ少カラス二百フランヨリ多カラサルノ罰金
ニ處ス其重キハ一个年ヨリ五ヶ年ノ禁獄且十六フランヨリ五百フ
ランノ罰金ニ處セラル刑第三百
八十八條
其二ハ未ダ収獲セサル穀物又ハ未ダ樹枝ヨリ分割セサルノ菓物又

ハ未タ地ヨリ刈収セサルノ諸産物及ヒ草秣等ヲ盗ムニ晝間一人手ツカラスル者ハ、單ニ違註ノ罪ヲ以テ論スヘシト雖モ若シ籃囊或ハ其他此類ニ比準スヘキ器具ヲ用ヒ又ハ車或ハ物ヲ負載セシムヘキ獸類ヲ用ヒ或ハ夜間若シハ晝間數人ノ連類ヲ以テスルモノハ之ヲ輕罪ニ問ヒ十五日ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサルノ禁獄且十六「フラン」ヨリ少カラス二百「フラン」ヨリ多カラサルノ罰金ニ處ス 全上

第一百七條 水車若シハ他ノ器械所及ヒ池沼等ヨリ水ヲ流溢セシメテ他人ノ所有地内ヲ損害セシムルコトアリ

定度アル^ル疏水ノ高サヨリ以上ニ疏水路ヲ造リテ他人ノ所有地ヲ損害スル^ル並ニ疏水流溢ノ定規ヲ踐マサルモノ

刑法第四百五十七條ニ曰凡ソ土地ノ所有者或ハ其借主若シハ水車器械所及ヒ江池等ノ所有者定限ノ高サヲ超ヘタル疏水ヲ造リ

テ道路或ハ他人ノ所有地ニ水ヲ流溢セシムルモノハ其損失償還高ノ四分一ヨリ多カラス五十「フラン」ヨリ少カラサルノ罰金ヲ科セラルヘシ

若シ此水ノ流溢セシニ原因シ毀損セルモノアルキハ該犯ハ其罰金ノ外六日ヨリ少カラス一月ヨリ多カラサル時間禁獄ノ刑ニ處セラルヘシ

第八條 定規アル製造所ニ於テハ其貯水ニ尺度ヲ定ムルコトハ國王ノ制可ヲ得タル縣廳ノ例規ニ依テ之ヲ定ムルモノナリ故ニ此尺度ハ制定ノモノニシテ道路橋梁土木掛リノ官吏ニ依テ檢査セラル

此官吏其檢査濟ノ調書ヲ以テ縣廳並ニ其管内ノ裁判所及ヒ其地ノ邑長ニ通牒スルモノナリ

若シ右ノ製造所若シハ水車等ニテ疏水流溢シテ比隣ノ土地ヲ損害

スルヲアルキハ、邑長直チニ其地ニ到リ、疏水ノ適度ナルカ、其他成規ニ違フノ事件アリヤ、否ヤヲ詳細ニ査實シ、之ヲ縣令ニ申達ス、縣令更ニ道路、橋梁、土木掛リヲ遣ツテ、之ヲ實檢セシメ、以テ邑長ノ調書ニ之ヲ掲載セシム、

第九九條 右ニ關セル損害ノ償ヲ定ムルニハ、其水車、或ハ製造所等ノ持主ヲ喚ヒ、並ニ其損害ヲ受ケタル地主等ヲ呼集メ、精密ニ査覈ヲ遂ケテ、調書ニ之ヲ記載シ、以テ檢事ニ通牒ス、

第一百十條 乞丐者及ヒ浪游者ノ事

凡ソ乞丐者ハ、何レノ場所、何レノ場合ニ於テモ、刑法ノ以テ之ヲ懲罰スルモノトス、

刑法第二百七十四條ニ曰、凡ソ乞丐者ヲ救恤スルカ爲ニ、官ヨリ設立セルノ貧院アル地ニ於テ、乞丐ヲ爲ス者ハ、其罰三月ヨリ少カラ

ス、六月ヨリ多カラサルノ時間、禁獄ニ處シ、且其決放後此ノ乞丐者ヲ該地ノ救恤貧院ニ送致ス、

全第二百七十六條ニ曰、左ニ記載セル者ハ、六個月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間、禁獄ノ刑ニ處ス、

乞丐者人ヲ脅迫シ、又ハ家屋ノ所有主、或ハ其家屋ニ居住セル者ノ許可ナクシテ、其家屋内若シハ家屋所属ノ圍繞内ニ入ル者、

乞丐スルニ、創傷、不具、又ハ疾病アルヲ僞ル者、

乞丐者、夫婦、又ハ親子、又ハ耆者ト其誘導者トヲ除クノ外、相連行シ

テ食ヲ乞フ者、

然レモ、右ノ貧院ノ設立ナキ地ニ於テ、實ニ其身体不具ノ故ヲ以テ、乞丐スルモノハ、事情酌量シテ、之ヲ處刑スルニ至ラスト、雖モ、其強壯ノ者、若シハ他管ニ出テ乞丐スル者ハ、之ヲ懲罰ス、

刑法第二百七十五條ニ曰、貧院ヲ設立セサル地ニ於テ、乞丐ヲ常慣トスル強壯者ハ、一月ヨリ少カラス、三月ヨリ多カラスノ時間、禁獄ノ刑ニ處ス、

若シ其乞丐者、其住所外、他管ノ地ニ於テ、拿捕セラル、者ハ、六個月ヨリ少カラス、二年ヨリ多カラスノ禁獄ニ處ス、

第百十一條 乞丐者、外國人民ニテ、或ハ火災ニ罹リ、或ハ難破船ニ遇ヒ若クハ法門宗教等ノ事ヲ偽リ唱ヘテ救助ヲ乞フ者ハ、其事由ヲ糾シテ之ヲ檢事ノ許トニ送致ス、

第百十二條 凡ソ浪游者トハ、定マリタル居住及ヒ、資産ナク、職業及ヒ營生ノ方法ナクシテ、平常浮遊スル者ヲ謂フ、刑第二百七十條、

刑法第二百七十一條ニ曰、凡ソ浪游者、裁判所ヨリ其浪游ノ罪アル旨ノ宣告ヲ受ル時ハ、其宣告ノミヲ以テ、三月ヨリ少カラス、六月ヨ

リ多カラサルノ禁獄ニ處セラレ、且其決放後、五年乃至十年間官ノ監察ヲ受クヘシ、

但シ十六年以下ノ浪游者ハ、必シモ禁獄ニ處セスト、雖、其浪游者タルノ証憑アルヲ以テ、年齒滿二十年ニ至ル迄ノ間ハ、監察ヲ受ルモノトス、

全、第二百七十二條ニ曰、裁判所ヨリ浪游者タルノ宣告ヲ受ケシ者、若シ外國人タルキハ、政府ノ命ヲ以テ、佛蘭西國領地外ニ放逐セラ

ルヘシ、
乞丐者、或ハ浪游者、若シ一百フラン以上ノ價アル物品ヲ所持シテ、其來由ノ証憑ヲ陳述セサルキハ、直チニ之ヲ拿捕シテ、檢事ノ許トニ送致ス、刑第二百七十條、

第百十三條 乞丐者、浪游者、何レノ事由ヲ論セス、其狀貌ヲ詭リ、兵器ヲ

施用スルヲナク又脅迫ヲ行フヲナシト雖兵器ヲ携帯セル者或ハ鑪
鋸其他竊盜及ヒ罪科ヲ行ヒ得ヘキ器具若クハ家屋内ニ潛入スルニ
用立テ得ヘキ器具ヲ所持セルキハ直チニ拿捕シテ以テ檢事ニ送致
ス刑第二百七十七條
及第二百七十九條

第百十四條 內外科ノ醫術

凡ソ何人ニテモ內科或ハ外科成業ノ醫術博士ノ免狀ヲ得ルニ非サ
レハ切斷接骨等ノ手術及ヒ診斷配劑等ノ醫業ニ係ハル職業ヲ爲ス
トヲ禁ス共和制第十一年十
月十九日ノ制定
外國人民ノ佛蘭西國內ニ於テ醫術ヲ職業スル者ハ其本國ニ於テ受
ケ得タル處ノ醫術博士ノ免狀ヲ以テ更ニ佛國政府ノ允許ヲ得ルニ
非レハ其業ヲ爲ストヲ許サス

第百十五條 未タ博士タルノ免狀ヲ得スト雖醫學校ニ於テ其學業ノ

檢査ヲ經テ市井醫員オヒシエタルノ稱號ヲ得タル者ハ該府縣内
ニ於テノミ醫術ヲ行フヲ得ル千八百三十八年三
月二十四日ノ制定
何レノ場合ニ於テモ右ノ免狀ナクシテ假リニ醫業ヲ公許スルヲナ
シ故ニ檢査ヲ經タル市井醫員ノ允許アリシトハ其府縣一管内ニ公
告スルモノトス千八百五十五年九月
八日文部卿ノ布達

第百十六條 眼科醫員

眼科醫員タルハ職業ヲ爲サントスル者モ亦必ス其博士免狀オヒシエヲ得ル
ニ非レハ其手術ヲ爲ストヲ得ス眼病ハ其病症ニ依リ外科ノ手術ヲ
施シ若クハ藥劑ニ最モ緊要ナル技業ヲ要スルカ故ナリ千八百三十
三年七月二十
十日
制定

第百十七條 齒術醫員ニ於テハ前ノ數條ニ異リ凡ソ齒術家ハ博士免
狀ヲ得スト雖其技業ニ長セル者ハ其職業ヲ爲ストヲ許ス千八百二
十七年二

一〇三 月二十三
日ノ制定

第一百八條 馬醫ハ其成業免狀ナシト雖其職業ヲ施行スルニ罰則ナ
シ千八百三十二年七月十一日ノ制定

第一百九條 産科ノ醫員トナルニハ必ス醫術博士ノ免狀若クハ市井
醫員ノ稱號ヲ得ル者並ニ産婆サイザラームヲ職業スルモノハ産婆技業卒業ノ免
狀ヲ得ル者ニシテ該府縣ノ帖簿ニ記載セラル、者ニ非レハ其業ヲ
爲スコトヲ許サス共和制第十一年十月十九日ノ制定

第一百二十條 免狀ヲ得サル醫員ノ外科手術ヲ爲シ免許ヲ得サルノ嫗
婆ノ技業ヲ爲スモノハ俱ニ罰則ノ問フ所ナリ千八百三十六年六月
九日及千八百三十四
年二月二十
日ノ制定

此故ニ醫術ノ博士若クハ市井醫員ノ稱號ヲ詭リテ其業ヲ爲ス者ハ
其科最モ重キヲ以テ論ス、

第二百一一條 右ノ如キ犯罪者若シ發キニ處罪宣告ヲ受ケシトアリ
テ猶ホ十二ヶ月以内ニ再犯スルコトアルキハ犯罪最モ重キヲ以テ論
シ其罰金ノ高ヲ二倍シ六ヶ月以内ノ禁獄ニ處セラルヘシ、

第二百二條 稱號ヲ騙リ偽ルコトナクシテ單ニ無免許ノ醫業ヲ爲ス
モノハ之ヲ註誤ニ問ヒ其罰金ヲ科スニ止マル然レモ其處罪ノ手續
キハ調書ヲ檢事ニ送り懲治裁判所ノ處斷スル所ナリ、

第二百三條 藥劑科

凡ソ製藥賣藥及ヒ配劑ニ係ルノ職業ヲ爲サントスルモノハ必ス藥
劑學校ノ卒業免狀ヲ得若クハ府縣檢査官ノ檢査ヲ經シモノニ非レ
ハ其職業ヲ爲スコトヲ許サス但其藥劑學校ノ卒業免狀ヲ得ル者ハ佛
蘭西全國中ニ於テ其業ヲ公ケニ施行シ得ルト雖其府縣ノ檢査ヲ經
タルノモノ者ハ該府縣管内ノミニ非レハ其業ヲ爲スコトヲ得ス共和
制十

十一月七日
十一月二日

總テ官許ヲ得タル醫員ハ製藥配劑店ノ設立ナキ地方ニ在テハ己レ
診斷スル處ノ患者ニ對シ自ラ製藥配劑シテ之ヲ施スヲ得ル然レ
モ特ニ共藥劑店ノ開設スルヲ許サス及千八百五十五年一月二十日
及千八百五十五年八月二十一日ノ
制定

第二百二十四條 藥種藥劑ヲ販賣スル營業者モ必ス藥劑學校ノ檢査若

シハ府縣檢査官ノ檢査ヲ經シ者ニ非レハ其職業ヲ爲スヲ得ス
第二百二十五條 各縣下ニ於テハ各年縣令ノ指揮ニ仍テ若干員ノ醫藥

檢査官ヲ派遣シテ管内一般ノ藥店中ヲ巡廻シテ製藥賣藥等ノ藥品
及ヒ其配劑ノ適否ヲ檢査セシム

若シ藥水ノ品種ノ不良ナルカ或ハ其調合方ノ不適宜ナルキハ警察
官其事由ヲ調書ニ記載シ直チニ其藥水ヲ沒收ス

此ノ醫藥檢査官ハ通常醫術博士二名藥劑科四名及ヒ醫部
ボリ或ハ邑長若シハ副邑長縣令ノ命ニ仍テ撰任ス千八百四十四年
制定

若シ此ノ醫部故障差支ヘアツテ立會シ難キ場合ニ於テハ此ノ巡廻
檢査ヲ停止スルモノトス千八百六十二年三月
制定

平常ニテモ若シ藥水ノ腐敗セルモノアルキハ醫部獨斷ヲ以テ之ヲ
沒收スルヲ得ル千八百五十一年三月
制定

第二百二十六條 凡ソ秘藥製劑ノ製方及調合法ヲノ官許ヲ得サルモノ
ハ之ヲ販賣スルヲ禁ス共和制第十三年五月
制定

然レモ藥劑彙纂仍テ出版セル所ノ醫藥配劑法ノ龜鑑ニシテ凡ソ藥
劑科タルモノ此書ニ仍テ配劑セニ據ラサル所ノ製藥ト雖大醫學校
ナルモノハ罰則ノ問フ所トスニ據ラサル所ノ製藥ト雖大醫學校
ノ檢視ヲ經タルモノハ秘藥ノ例ニ比準スルノ限リニ非ラス千八百
五十年

三月三日ノ制定及同年十一月二日勸商卿ノ巡文

秘藥ノ販賣公告揭示スルヲ禁ス、千八百五十九年十一月十八日內務卿ノ布達

第二百二十七條 麻痺劑又ハ毒藥等ハ各製藥店ニ於テモ堅固ニ格護シ

錠ヲ鎖シテ家長ノ監守ニ屬セシムヘシ此藥品ハ醫員ノ添書若クハ

姓名住所ノ明白其嫌疑ナキ人物ニシテ其用フル所ノ事由ヲ確實ニ

セサレハ之ヲ販賣スルヲ許サス且此藥品ヲ販賣スルニハ藥劑家

ハ必ス邑長若クハ警部ノ自署セル簿冊ニ於テ其藥品ヲ請求セル者

ノ姓名住所並ニ藥品ノ性質分量及ヒ其所用ノ事由販賣ノ日時等ヲ

詳記シ置ヘシ、千八百十六年九月二十九日ノ制定

第二百二十八條 邑長或ハ警部ハ其要スルニ及ンテ豫テ縣令ヨリ委員

トスル所ノ醫術博士一名或ハ藥劑學校ノ教員二名若クハ醫藥檢査

官ノ内一名及ヒ藥劑科補員ノ内一名等ノ立會ヲ乞ヒ臨時ニ製藥賣

藥店ヲ巡廻シテ其調合及ヒ製方ヲ查覈シテ非違ヲ監察シ及ヒ製藥
賣藥ニ係ハル諸帳簿ヲ檢査シ違犯ノモノアルキハ之ヲ調書ニ造リ
以テ其處分ニ及フ、千八百五十七年八月八日ノ制定

第二百二十九條 贋造ノ商品

凡ソ贋造ノ金銀及ヒ玉石類ノ細工物ヲ販賣スルモノハ刑法ノ罰
所タリ

刑法第四百二十三條ニ曰、千八百六十三年五月十三日ノ改正法 凡ソ金銀及ヒ玉石ノ

贋造物ヲ以テ買入ヲ欺キ若クハ贋造ノ度量器ヲ用ヒテ品物ノ分

量ヲ詭ル者ハ三月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル禁獄ノ刑ニ

處シ且其買主ノ損失高四分ノ一ヨリ多カラス五十フランヨリ少

カラサル罰金ヲ科セラルヘシ

此贋造ノ物品又ハ代價等尙ホ其贋造主ニ屬スルキハ之ヲ沒収シ

六三一

其贗造セル度量器具モ併セテ官沒シ且ツ之ヲ破碎スヘシ、

第三百十條 商品ノ贗造詐偽ニ出ルモノ數種アリ例ヘハ、袋囊ノ米麥

ヲ賣ルニ其囊中ノ上部ニ上品ノ米麥ヲ以テ形容シ内部ニ下等ノ品

種ヲ盛り或ハ上品ノ米麥ヲ見本トシ下等ノ品種ヲ販賣シ或ハ上品

ト稱シテ下等品ヲ混淆スル等アリ、

牛乳ヲ賣ルニ多少ノ水液米ノ洗ヲ混和スルモノアリ原語ガ拆水器ヲクト

メ₁ | ヲ以テ其混合物ヲ評量シテ其處分ヲナス、

第三百十一條 凡ソ偽造セル度量衡ヲ用ヒテ人ヲ偽欺シ酒酢燒酎油

麥酒牛乳及ヒ其他ノ流液物並ニ米麥雜穀麵包砂糖茄菲茶其他ノ諸

物品ヲ販賣シ若クハ販賣セ₁ノ₁ヲ試ミ或ハ權衡ノ佛國度量法テ |

リ₁ | ₁トニ據ラサル處ノ筐評等ヲ用ヒテ分量ヲ偽リ野菜ノ類ヲ販賣

スル者モ亦上ノ數條ニ準シテ沒収處罪ノ處分ヲナス其輕キハ違警

重キハ以テ刑法ノ問フ所トス、

第三百十二條 商品ノ表箋ヲ變換シ又ハ其分量ヲ減少シ其容レ物ヲ

修飾シテ販賣シ及ヒ左ニ掲ル處ノ詐欺ニ出ルモノモ亦上條ニ準ス、

米麥ノ袋囊ヲ修繕シ其分量ヲ偽リ賣ルモノ、千八百五十三年

麵包商麵包製法一定ノ分量ヲ減少シテ欺キ賣ルモノ、千八百五十五年

日ノ

屠獸商牛羊ノ肉ヲ分チ賣ルニ現品ノ分量ヲ偽リ買人ノ通ヒ帖ニ其

分量代價ヲ增記スルモノ、千八百五十八年

牛馬ノ飼糧草秣等ノ分量ヲ偽リ賣ルモノ、千八百五十四年

蠟燭ノ包ニ紙ヲ飾リ其分量ヲ偽リ賣ルモノ、千八百五十四年

第三百十三條 食糧ノ諸品物中ニ人ノ健康ヲ害スヘキ物ヲ混淆シテ、

販賣スル者アルキハ直チニ其調査ヲ爲シ調書ヲ造リ物品ヲ沒収シ

七三一

テ其處分ヲナス、

第三百三十四條 倉庫、舖店、工作場及ヒ商館等ニ於テ、偽造ノ度量衡及ヒ其他不正ノ器具ヲ所用スル者ハ、罰則アリ（千八百五十一年以前ハ、右ノ諸商店及工作場等ニ於テ、偽造ノ度量衡ヲ所用スル者ハ、其處分、只違警罪ニ止メシナリ、同年此法制ヲ改正シテ、之ヲ輕罪トシ、其以來刑法ノ問フ處トナレリ、即チ刑法第四百七十九條ノ第五項及第四百七十五條ノ第十四項ヲ參照スヘシ）

右ノ諸商店ニ於テ、腐敗セル食物及ヒ人ノ健康ヲ損害スヘキ、飲食物等ヲ販賣スル者ハ、罰ノ最モ重キヲ科ス、

不正ノ度量衡ヲ所有スルモ、其偽造ニ非ルモノハ、單ニ之ヲ違警罪ニ問フニ止マル、

第三百三十五條 酒類（清酒、燒酒、麥酒、林檎酒、梨酒）中ニ假令ヒ人ノ健康ヲ

害スルニ至ラスト雖モ、他種ノ物質ヲ混和シテ販賣スル者ハ、刑法第四百二十三條ニ依テ處分セシカ、千八百五十五年五月五日ノ法制ヲ以テ爾來尙ホ嚴密ニ其法ヲ及ホシテ、現今左ノ諸件ノ如キモ、亦罰則ノ問フ所トス、

異性ノ物質ヲ混和シテ、酒ノ原質固有ノ色ヲ修飾シテ、販賣スルモノ、

純粹ノ赤酒アカブドウシユニ半量ノ白酒シヨブドウシユヲ混和シ、其品價ヲ詭リ賣ルモノ、

酒類ニ多量ノ水及ヒ林檎酒等ヲ混和シテ、其品種ヲ偽リ賣ルモノ、

燒酒ヲ偽製シ、或ハ異質ノ物品（アルコール、砂糖）及ヒ水ヲ調和スル等ノモノヲ混和シテ、販賣スルモノ、

不良ノ酒類ニ、多少ノ混和物ヲ以テ、其味ヒヲ調理シテ販賣スルモノ、

○四一

第三百三十六條 右ノ諸件ニ係ルノ違犯者若シ其五ヶ年以内ニ、嘗テ商
品、詐欺販賣ノ輕罪ヲ犯シテ、處罪セラレシトアルキハ、其事由ヲ調書
ニ記シ、其罪尙ホ重キヲ以テ論ス、

第三百三十七條 傷痕、毆撃ノ事

傷痕、毆撃ノトアルキハ、精密ニ左ノ諸件ヲ注意スヘシ、

第一 暴行スルニ、人ノ四肢ヲ挫折シ、眼目ヲ盲シ、身体ヲ傷痕セシ
カ（此場合ニ於テハ、其罪重キヲ加フ）

第二 甲者ヨリ乙者ニ對シ、暴行毆撃ヲ爲スニ因リ、乙者其危急ヲ
凌キ、防禦シテ甲者ヲ殺シ、或ハ傷痕、或ハ毆撃セシカ（此場合ニ於
テハ、乙者ノ其罪ヲ宥恕ス）

第三 人ヲ暴行毆撃セントスルニ、其抗拒、若シハ他人ノ助手ノ爲
ニ、傷痕、毆撃セラレテ、之ヲ果スト能ハサリシカ、

第四 人ニ害ヲ加ヘンコトヲ豫メ謀リ、或ハ故意ニ人ヲ待チ伏セ
テ、傷痕、毆撃セシカ（此ノ二件ノ如キハ、輕罪ノ最モ重キヲ以テ論
ス、

第五 傷者、若シハ被傷者ノ衣服、髪髮、沓履等ニ血痕アルカ、又ハ破
毀セルモノアルカ（此場合ニ於テハ、其品物ヲ沒収シテ、證據ニ供
ス、

第六 傷痕、毆撃ノ、醫員ノ診斷ヲ要スルニ至ルカ、

第三百三十八條 工業場、同業職友ノ子弟中、毆撃傷痕アルキハ、其原因ハ
職業上ニ係リタル嫉妬、或ハ口論中ヨリ生シタルカヲ穿鑿シ、其本人
ヲ拘引シ、其職業場ノ取締ヲ嚴密ニナサシム、

一四一

第三百三十九條 凡ソ近親、近族、子弟中ノ事ハ、其傷痕ノ重キカ、若シハ一
般ノ風儀ニ關係スヘキ事件アルニ及ノテ、始メテ警察官吏ノ之レニ

着手スルニ至ル、此場合ニ於テハ、邑長出會共調書ヲ作り、檢事ノ權内ニ之ヲ渡ス、

子女ノ其父母及ヒ其他ノ尊屬ノ親ニ對シテ、毆撃スルモノハ、直チニ其調書ヲ作り其本人ヲ拘引ス、

第四百十條 制禁ノ兵器ヲ製造シ、若クハ携帯スルモノハ、其調書ヲ作り、刑法第三百十四條ニ因テ其兵器ヲ沒収ス、

刑法第三百十四條ニ曰「短銃、懷劍、其他法律、或ハ行政規則ヲ以テ、制禁シタル各種ノ兵器類ヲ製造シ、或ハ販賣スルモノハ、其兵器ヲ沒

収シ、且六日ヨリ少カラス、六ヶ月ヨリ多カラサル禁獄ノ刑ニ處ス、右ノ兵器ヲ携帯スルモノハ、其兵器ヲ沒収シ、且十六「フ」ヲ「フ」ヨリ少

カラス、二百「フ」ヲ「フ」ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス、
第四百十一條 決闘 佛語之ヲ「デュエル」ト云、爭論、遺恨、其他榮譽ニ係ハル「ア」アリテ、双方其名刺ヲ交換シ、時日、及ヒ場所ヲ

定メ、双方ヨリ証人ヲ出會セシメ、其約束ヲ定メ、短銃、若クハ刀劍ヲ以テ闘ヒ、或ハ出血スルヲ見テ止ミ、或ハ死ニ至ル、

決闘ノ「イ」ニ係ツテハ、久シク法官ノ問題トナリテ、其性質ヲ論究シ、之ヲ刑法ニ問ヒ、刑法ノ犯者ニ同視シテ、追捕スヘキカヲ討論セリ、遂ニ

千八百三十七年ノ終リニ於テ、左ノ如ク之ヲ評定セラル、
千八百三十七年十二月十五日、大審院ノ評定ニ曰「千八百三十九年二

月二十五日、全四十九年七月二十一日ノ制定ヲ見合、凡ソ決闘ニ於テ、傷痕、毆撃、殺害、若クハ之ヲ試ソトセシ者ハ、尋常ノ毆闘律ヲ以テ處分ス、

此決闘ニ立會セル証人、及ヒ之レニ兵器ヲ貸シテ、所用セシメタル者ハ、俱ニ其從ヲ以テ論ス、千八百三十七年十二月二十二日、同四十七年

九月二日、及ヒ五十年四月十九日ノ制定ヲ見合、
此故ニ決闘ニ於テ、傷痕、殺害スルハ、該犯者ハ尋常ノ刑罪ニ問ヒ、其

調書ヲ造リ、其兵器ヲ沒収ス、

右ノ如キハ其科ヲ刑罪ニ問フトハ雖モ尋常刑罪ノ暴行醜業ト區別
シ其犯者及ヒ証人等モ一般ノ刑罪犯者ノ如ク嚴酷ナル取リ扱ヒヲ
爲サス最初一ト通リノ訊問ヲ畢リ其姓名居住ノ明白ナルモノハ放
チテ家居セシム

第四百十二條 若シ決闘ニ於テ一方ノ相手方充分ニ其約定ヲ踐マス
有心故造詐欺卑劣ナル所爲ヲ以テ或ハ其相手方所用ノ兵器ヨリ勝
レタル銳利ノ兵器ヲ用ヒ或ハ劇烈多量ノ短銃等ヲ以テ定度ノ其距
離ヲ縮メテ謀殺シ若クハ傷痕セシムルキハ其本人及ヒ之ニ助手セ
ル所ノ証人ハ俱ニ一般ノ刑罪犯者ノ首從ヲ以テ論シ尋常ノ決闘ニ
於ケルカ如ク之ヲ酌量スルヲナシ
此ノ場合ニ於テハ法律ノ本旨之ヲ處スルニ刑罪ト異ナルヲナシ大
審院亦之ヲ評定シテ曰凡ソ決闘ニ反信故造ノ所爲ニ依テ其相手方

ヲ謀殺傷痕スルモノハ刑法ニ問ヒ一般ノ刑罪ト同視シテ其處分ヲ
爲ス千八百二十一年九月二十一日及
同二十二年九月十九日ノ制定

第四百十三條 姦通ノ事

姦通ノ犯罪ヲ查照スルニハ必ス其居住ニ到リ之ヲ檢査スルヲ緊要
トス

凡ソ法律ノ本旨ハ姦通ノ犯罪ヲ查照スルニハ現行犯ニ非サルヨリ
ハ其居室ヲ搜索シ書簡若クハ其他ノ書類ニ依テ發覺スルカ或ハ姦
夫ノ舉動ニ蹤跡ヲ索ムルノ外ニ其証左ノ據ルヘキ所ナキカ故ナリ
刑第三百三十八條見合

故ニ姦通ノ犯罪ヲ摘發スルニハ其家屋ニ就テ現行犯ヲ探索スヘシ
故ニ邑長其証左ヲ索ムルニハ姦夫ノ舉動ヲ探偵シ不意ニ其居室ヲ
襲フテ其憑據ヲ得ルヲ要ス

姦通ノ犯罪ハ夫婦ノ別ニ依テ著シヤ區別アリ夫ノ姦通ハ現ニ其家ニ娼婦ヲ蓄ヘ置クニ非レハ法ノ問ハサル所ニシテ官吏ノ之ヲ調査スルコトナシ然レモ婦ノ姦通ハ直チニ輕罪ニ問ヒ何レノ場所ナリモ之ヲ搜索シ發覺スルコトヲ得刑第三百三十六條及第三百三十九條見合刑法第三百三十六條ニ曰凡ソ婦ノ姦通ハ其夫ニ非レハ之ヲ訴フルコトヲ得ス

全第三百三十七條ニ曰姦通ノ證據アル婦ハ三月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサルノ禁獄ノ刑ニ處ス但シ夫其姦通セシ婦ヲ再娶スルコトヲ肯スルキハ其刑ヲ停止スルコトヲ得
全第三百三十八條ニ曰姦夫ハ姦婦ト同期ノ禁獄ニ處刑セラレ且百フランヨリ少カラス二千フランヨリ多カラサルノ罰金ヲ科セラル

姦通ノ証左トスヘキモノハ現行犯罪ヲ發覺シ若クハ該犯者ノ筆記セル書簡及ヒ其他ノ書類ニ限ルモノトス
全第三百三十九條ニ曰夫ノ其家ニ娼婦ヲ蓄ヘ置キ其婦ノ訴訟ニ依テ其犯罪ノ證據發覺セルキハ其夫ハ百フランヨリ少カラス二千フランヨリ多カラサルノ罰金ヲ科セラルヘシ
夫其家ニ娼婦ヲ蓄ヘ置クコトアルノ場合ニ於テハ其婦姦通スルト雖モ夫之ヲ訟フルノ權ヲ失フモノトス
第四百十四條 贋造ノ貨幣及偽製ノ文書

贋造偽製ノ訴アルカ或ハ之ヲ發覺スルキハ直チニ着手スヘキ要件ハ其贋偽ノ物品ヲ沒収スルコトナリ
若シ贋造紙幣偽製證書等ノ書類ニ就テノ訴ナルキハ其贋造ナリト述フル書類ヨ邑長ノ手ニ差シ出シタル者ヲシテ其書類ニ横線ヲ畫

セシム、又他人ノ訴ニ依テ發覺セルモノハ、現ニ其所有セシ者ヲシテ、
横線ヲ畫セシメ、邑長モ亦横線ヲ畫シ、次ニ其調書ヲ作ル、治第三十九
條及四百五
十條
見合、

若シ贗造ノ金銀貨ナルキハ、直チニ其貨幣ヲ官紙ニ密封シ、之レニ邑
長ノ官印ヲ捺シ、次ニ其訴ヘ出タル者ヲシテ自署セシム、

治罪法第三十九條三十六條三十七條三十八條ヲ俱ニ引証ス、ニ曰、重罪、又ハ輕罪ノ事狀

ニ因リ、犯者若シハ被_レ告人ノ所持スル書類及ヒ諸物品ノ、以テ罪犯ノ証左

トスルニ足ルヘシト思量スルキハ、檢察官即時ニ犯者ノ居住ニ到

リ、事情ヲ分明ナラシムルニ足ルヘキ物件ヲ穿鑿ス、

犯者ノ居住ニ、其有罪ノ証トナリ、或ハ無罪ノ証トナルヘキ書類、物

件アルキハ、調書ニ記シテ之ヲ沒收スヘシ、

沒收ノ書類及ヒ物件ヲ封シテ、之レニ檢察官ノ印ヲ捺ス、若シ其物

品封印ヲ爲スヲ能ハサルキハ、之ヲ壺、若クハ筐囊中ニ入レ、其上ニ
紙帶ノ封ヲ附ケ、之レニ捺印スヘシ、

右數條ノ處置ハ、該犯者ヲ拿捕シタルキハ、其面前ニ於テ之ヲ爲、該

犯者出會シ能ハサルキハ、其名代人ノ面前ニテ之ヲ爲スヘシ、

沒收シタル物品ハ、之ヲ犯者若シハ被_レ告人ニ示シテ、其認_ミヲ爲サシメ、其物

件ニ姓名自署ノ代用タル横線ヲ畫セシム、若シ該犯者之ヲ肯セサ

ルキハ、其旨ヲ調書ニ記載スヘシ、

第四百十五條 贗造貨幣ノ流通スルキハ、速カニ一般ニ注意シ、渾テ贗

造ニ疑ヒアル所ノ貨幣ハ、其所有者ノ何人タルヲ問ハス、悉ク沒收シ

テ、其行使ノ蔓延セサラシムヲ豫防スヘシ、

千三百二十年九月二十九日ノ制法、第二十四條ニ曰、贗造ノ貨幣、又

ハ紙幣ノ字樣ヲ挑剗シ、使用スルモノハ、直チニ之ヲ裁斷破却シ、犯

者ヲ捕ヘテ、施體ノ刑ニ處シ、且罰金ヲ科ス可シ、
右沒収スル所ノ贗造貨幣ハ、檢事ニ送り、檢事之ヲ裁判所書記局ニ送
致ス、

治罪法第三十一條ニ曰、凡ソ犯罪ノ申告書ハ、其告發人自書シ、又ハ
其名代人之ヲ記シ、或ハ檢事其本人ノ求メニ因リ、之ヲ記スヘシ、但
シ其申告書ハ、每葉ニ檢事其姓名ヲ自署シ、且其告發人、或ハ其名代
人、之レニ自署スヘシ、
全第三十二條ニ曰、施體若クハ加辱ノ刑ニ處スヘキ、重罪ノ現行犯
アルキハ、檢事ハ即時ニ其場ニ至リ、犯罪ニ關セル物品、及ヒ其景況
ノ憑據タルヘキ、樞要ノ事件ヲ調書ニ記シ、且其場ニ在ル所ノ人、若
クハ犯罪ノ事狀ヲ知リタル者ヨリ、其申告ヲ求ムヘシ、

第四百十六條 讒謗

讒毀、誹謗ハ、官吏ニテモ、又平人ニテモ、其訟ヲ爲スヲ俟テ、之ヲ受理調
査スヘキモノトス、

讒謗ハ、其事件ト、其場所ノ公私ト、其罵詈ニ出ルモノト、文書ノ公告揭
示トニ係ハルモノアリ、故ニ其讒謗ノ、揭示公告等ノ、市街、公道、客舍、休
憩所等ニ於テスルモノハ、論ヲ俟タズ、假令ヒ庭園、人家戸内ト雖モ、行
人ノ耳目ニ感觸スルモノハ、渾テ之ヲ公ケノ讒毀誹謗トス、
千八百三十二年九月二十日
ノ制定、

第四百十七條 讒謗スルニ其書冊ヲ出版シ、或ハ揭示シ、或ハ肖像、圖書
等ヲ以テスルモノハ、其文書ヲ沒収シ、及ヒ榮譽、治安ヲ障碍スルノ罪
ヲ糾シ、其事狀ヲ審ニシテ其罰書ヲ造ル、

一五一
第四百十八條 行政、或ハ司法ノ官吏、或ハ檢事、或ハ公力兵ノ官吏等、其
公務執行中ニ於テ、之ニ對シ罵詈、暴行、脅迫、不敬ノ所業ヲ爲スモノハ、

假令ヒ公ケノ場所ニ非ス、人民群集中ニ非スト雖モ、刑法第二百二十
 二條乃至二百二十五條ノ法律ニ問ヒ、犯罪ヲ以テ之ヲ處分ス、
 刑法第二百二十二條ニ曰、凡ソ行政、或ハ司法ノ官吏一人、若クハ數
 人、或ハ陪審官一人、若クハ數人、其職務ヲ執行スルノ時ニ當リ、之ニ
 對シテ罵詈、又ハ圖書ヲ以テ、其榮譽精神ヲ汚スヘキ、不敬ヲ爲シタ
 ルモノハ、十五日ヨリ少カラス、二年ヨリ多カラサル禁獄ノ刑ニ處
 ス、
 若シ裁判所聽訟ノ席ニ於テ、右ノ不敬ヲ爲スモノハ、二年ヨリ少カ
 ラス、五年ヨリ多カラサル禁獄ノ刑ニ處ス、
 全、第二百二十三條ニ曰、官吏、又ハ陪審ニ對シ、其職務ヲ執行スルニ
 際シ、暴言脅迫、不敬ヲ加ヘシ者ハ、一月ヨリ少カラス、六月ヨリ多カ
 ラサルノ禁獄ノ刑ニ處ス、若シ裁判所聽訟ノ席ニ於テスルモノハ、

一月ヨリ少カラス、二年ヨリ多カラサルノ禁獄ノ刑ニ處ス、
 全、第二百二十四條ニ曰、裁判所附屬ノ官吏、或ハ公力兵ヲ預ルノ官
 吏、若クハ公務ノ任用ヲ受ケタル者、其職務ヲ執行スルノ時ニ當リ、
 之ニ對シ暴言脅迫、不敬ヲ加ヘタル者ハ、六日ヨリ少カラス、一月ヨ
 リ多カラサルノ禁獄ノ刑ヲ處シ、且十六フランヨリ少カラス、二百
 「フラン」ヨリ多カラサルノ罰金ヲ科ス、
 全、第二百二十五條ニ曰、公力兵ノ指揮官ニ對シ、右ノ不敬ヲ加ヘタ
 ルモノハ、十五日ヨリ少カラス、三月ヨリ多カラサルノ禁獄ノ刑ニ
 處シ、且十六フランヨリ少カラス、五百フランヨリ多カラサルノ罰
 金ヲ科ス、
 此故ニ、讒謗罵詈ハ、假令ヒ該官吏、行政、及ヒ司法ノ其場ニ在ラスト雖
 モ、面前ニ於テスルノ不敬ト同視シテ之ヲ處分スヘシ、千八百六十
 一年十一月二十一

四五 日ノ制定

第四百九條 詭偽ノ新聞

事實ノ有無ヲ問ハス、詭疑、曖昧ナル事件ヲ編纂セル、新聞ヲ發賣公布スルモノハ、輕罪ニ問フ、其詭偽ノ新聞ニ二ツノ區別アリ、

其一 風儀ヲ紊ルノ事件、

其二 治安ヲ害スヘキ事件、

第五百十條 集合ノ事

集合スルニ二ツノ別アリ、一ハ新聞奇事ノ現出セルアリテ、不意虛心ニ群聚シ、一時ノ雜遝ヲ經テ、自ラ解散スルモノニシテ、必スシモ官吏ノ制令ヲ要セサルモノアリ、其二ハ會合ノ或ハ政事上ニ關シ、或ハ不平異圖ノ原因ニ出ルモノアリ、此ノ二ツ區別ヲ混淆スヘカラス、其不平異狀ニ因リ、或ハ政器ヲ誹評シ、或ハ叫喝煽動シ、或ハ脅迫不敬シ、或

五五一

ハ兵器ヲ携帶シ、其集合スルノ原因、或ハ租稅ノトニ係ハリ、或ハ穀物ノ代價ニ係ハリ、或ハ諸職工ノ給料ノトニ係ハル、等ノ事アルキハ、邑長ハ、直チニ其官ノ徽章ヲ帶ヒ、鼓牛一員ヲ從カヘ、急速其場ニ莅ミ、且最モ近方ニ屯營スル所ノ公力兵等ヲ云フヲ出張セシメ、置キ、邑長自ラ群聚中ニ入り、平和ニ諭告シテ、其解散ヲ勸メ、彼是ノ若干員ヲ呼集メ、懇諭シテ其退散ヲ令ス、

第五百十一條 右ノ諭告ヲ以テ、尙ホ解散ヲ爲サ、ルキハ、邑長ハ、鼓牛

ニ令シテ、一回ノ警鼓ヲ發セシメ、以テ邑長ノ出張ヲ報知セシメ、一旦群集ノ解散ヲ諭ス、若シ尙ホ退散セサレハ、三回ノ警鼓迄ヲ引續イテ報聞セシムルニ、尙ホ群聚ノ抵抗シテ去ラサルキハ、之レニ嗣クニ、兵力ヲ以テ退散セシム、千八百四十八年六月七日ノ法制第三條、若シ群聚兵器ヲ携帶スルキハ、邑長ハ、第一回ノ警鼓ヲ令シテ成ラヌ、

ラサルトニシテ、其事狀ノ切迫スルニ及ンテ、勢ヒ止ムヲ得サルニ出ルノ極點ニ於ケルノ一事ナリ、故ニ邑長ハ其場ニ在ルト雖モ、^{ナリタ}可力及靜謐ニ告諭スルヲ主トスルカ故ニ、群集ノ人民ノ、若シ一揆暴發ヲ成スカ、或ハ現ニ治安ヲ妨害シ、狂民ヲ煽動鼓舞シ、或ハ鬪争ノ方術ヲナシ、或ハ道路ニ壅壘ヲ作ルニ至リ、邑長現場配下ニ之ヲ制歴スヘキ兵力ヲ有スルノ時ニ於テ、之ヲ施行スヘシ、其機ニ先キ立チ、或ハ其機ニ後ルハ、威ナ其策ノ得タルモノニ非ラストス、

渾テ一揆暴動スルモノ、其群集スルヤ、概テ其始メハ、勢力甚タ強カラズ、其一タヒ、之ヲ攪動スルニ及ンテ、衆心協力シテ、勢ヒノ滋々増加スルモノナレハナリ、

故ニ邑長ハ、此ニ注意シテ、其兵力ヲ用ヒントスルノ以前、^{ナリタ}可力及、其巨魁、首謀ノ徒ヲ拿捕スルヲ緊要トス、^{ナリタ}千八百三十一年四月十日ノ法制第四條、

然レモ左ニ記列スルノ場合ニ至リテハ、斷然兵力ヲ用ユヘキモノトス、

第一 群聚ノ徒黨、官吏ニ對シ、暴行、脅迫スル時、

第二 地位、及ヒ其景況ニ依リ、出張ノ官吏、兵力ヲ用フルニ非レハ、

之ヲ制ス可カラサルノ見込ミアル時、

之ヲ暴動制禦ノ期トス、^{ナリタ}千七百九十一年七月二十六日ノ法制第二十五條見合、

此故ニ邑長ハ、群聚暴動ノアル時ハ、其現場ニ出張スルノ以前、直チニ之ヲ該地方ノ治安裁判官ニ急報ス、治安裁判官ハ、又之ヲ檢事ニ遞報ス、

第百五十六條 一揆暴動ニ付、邑村ノ責任、

一千七百九十年八月十六日、及ヒ二十四日ノ法制ヲ以テ、一揆暴動アルニ在リ、該市邑ノ警察吏ハ、之ヲ制止スヘキ、各自ノ責任アルヲ記

載セリ(第五十二條)

佛國共和制第四年第一月十日ノ法制ヲ以テ其邑村ニ係ハルノ責任ヲ示セリ、

凡ソ郡邑中群聚徒黨一揆暴行スルニ或ハ兵器ヲ携帯シ或ハ兵器ヲ用フルトナシト雖モ強盜或ハ放火シテ人民ヲ傷害シ家屋及ヒ所有物ヲ損毀スルトアルキハ之ニ係ハルノ損害ハ其郡邑ヲシテ償ハシムルモノトス該法制第四章ノ第一條及

一揆暴動ヲ發起セル邑ニ於テ其暴行ノ爲ニ無罪ノ人民或ハ其家産ヲ損害サレ或ハ傷痕ヲ受ケ或ハ殺害ヲ受ケタル者アルキハ該邑中ヨリシテ其損害ノ償ヲ爲サシム但シ死没償ノハ其寡婦孤兒ニ償フヘシ同上第四章第六條

同上ノ場合ニ於テ道路堤防或ハ橋梁ヲ破損セルノ損害モ亦該邑ノ

住民ヨリ償ハシム同上第七條

若シ其一揆ヲ發起セルノ郡邑中ニ於テ該邑ノ人民之レニ徒黨シテ暴動セシ者アルキハ該邑ハ右ノ損害ヲ償フノ外別ニ政府ニ對シ一揆ノ鎮定費用ノ幾分ヲ罰金トシ賦課セラルヘシ同上第二條

一揆ノ巨魁ハ他邑中ノ者ニシテ本邑中ノ人民多少附和脅從シ其隨從荷擔セサル所ノ本邑人民ハ其脅迫暴徒ニ對シ拒抗鎮定ニ盡力セルノ証効アルモノハ此損害ノ償ヲ免カルモノトス同上第五條及

若シ此一揆暴徒ノ諸邑中ヨリ連衝セルキハ其暴動ヲ發起セシメタル地ノ邑民ヨリ右ノ損害ヲ償ハシム但シ連衝ノ諸邑ハ上條ニ依テ各々其償金ヲ賦課セラルヘシ同上及千八百三十八年七月十七日ノ法制見合損害ノ償金ハ一揆鎮定ヨリ後チ十日間ニ民事裁判所ニ於テ其調書

ニ依テ評定セラル同上第五章、第四第五條

此ノ償金ハ郡邑中共同ノ貯蓄金ヲ以テ償フヲ許サス（施政官ノ常ニ注意スル所ナリ）其償金ノ高定マルニ及ンテ更ニ村邑中各人口ニ賦課徴収シテ之ヲ償ハシム千八百四十七年一月二十五日內務卿ノ布達見合此法制ノ嚴酷ナル常ニ人民ヲシテ各自ニ其邑内ニ於テ徒黨一揆ノ萌芽ヲ支ヘ暴徒ノ教唆ヲ拒キ未發ノ事狀ヲ速カニ官ニ報告セシムルノ一端ニシテ又施政ノ眼目タルヲ視ルヘキナリ、

第五十七條 現行犯ニ非サル、重罪、輕罪、

邑長ハ屢々犯罪ノ現行犯タルノ時限ヲ全ク經過セルノ後ニ於テ漸ヤク其事件ノ通知ヲ得ルヲアリ然レモ其事件假令ヒ現行ノ期限ヲ過ルト過キサルトヲ論セス現場ニ在ンテ其調査ヲ爲サ、ルヲ得スト雖モ此場合ニ於テハ只其犯者ヲ拿捕スルヲト其場ニ居合セタル、

証人ノ口書ト告發者ノ訴狀ヲ収メテ犯跡ノ奈何ヲ調査スヘシ其現行犯ニ非サルヨリハ必シモ副官、副邑長或ハ邑議員、コンセイユ、ミ出會ヲ要セス、

第五十八條 輕重罪犯ノ一ニ係ツテハ邑長ハ直チニ現場ニ出張スルヲハ闕ク可ラサルノ專務タルヲハ既ニ重複論述セリ其違警罪ノ如キモ警部ノ居合セサル地ニ於テハ其現行犯ナルカ若クハ其犯罪ノ蹤跡未タ消滅セサル等ノ場合例ヘハ道路ニ於テ車馬運送其他諸般ノ註誤ニ係ハリ其調査ヲ要スヘキモノハ邑長其場ニ在ンテ其註誤ノ事實、景況、日時、場所等及ヒ其憑據ニ供スヘキモノヲ詳記シテ調査ヲ作ル治、第十一條ヲ參照

治罪法、第十一條ニ曰、警部ノ居合セサル村邑ニ於テハ邑長若クハ副邑長ノ内ニテ違警ノ犯罪ヲ調査スヘシ又田野及ヒ森林監守人

ニテ別ニ專任セルノ事件ニ涉ルモノモ亦註誤ノ罪犯ハ邑長其監
 守人ト俱ニ其事件ヲ探索スヘシ若シ其權ノ互ニ相觸ルハ一アル
 片ハ警部邑長副邑長ノ内ニテ之ヲ專任スヘシ
 故ニ警部邑長副邑長ハ違警罪犯ニ付キ損害ヲ受ケシモノヨリノ
 訟ヘ又ハ他人ヨリノ訴ヘヲ聽クヘシ
 右ノ官吏ハ註誤ノ種類其景況場所日時及ヒ犯罪ノ憑証等ヲ調書
 ニ作ルヘシ

第五十九條 前條ニ述ルカ如ク註誤ノ罪犯ト雖モ巡查ハ自ラ之ヲ
 調査スルコトナク其事件ヲ糺シテ報告スルニ止マル又森林田野ノ監
 守人ハ田野森林ノ外市邑ノ警察ニ預ラサルヲ以テ警部ノ在ラサル
 場合ニ於テハ甲乙共ニ邑長及ヒ副邑長ノ内親ヲ臨ンテ其調査ヲ專
 理スヘキモノナリ
 千八百五十九年二月十七日及ヒ
 六十二年二月十五日ノ法制見合

第六十條 重罪輕罪ノ犯罪アルニ當ツテ深ク其嫌疑アル者ノ家屋
 ヲ搜索シ蹤跡ヲ檢査セサルヲ得サルノ場合ニ於テハ邑長ハ檢事ニ
 對シテ其搜索檢査ヲ爲ストノ許諾ヲ求ムヘキモノトス然レモ現行
 犯ノ場合ニ於テハ此許諾ヲ要セス治罪法第三十六條四十九條五十
 條ノ條例ニ依テ邑長自ラ檢事ノ權ヲ有シテ直チニ其搜索檢視ヲ爲
 ストヲ得

其犯跡ノ既ニ時刻ヲ經過シテ最早現行ヲ以テ稱ス可ラサルノ時ニ
 於テハ治罪法第八十七條八十八條ニ依テ該件ハ糺問判事ノ職掌ニ
 屬ス

治罪法第三十六條ニ曰若シ重罪又ハ輕罪ノ景狀ニ依リ犯者所持
 スル書類及ヒ物品ヲ以テ犯罪ノ証左ヲ得可シト思量スル片ハ檢
 事ハ即時ニ犯者ノ居住ニ到リ蹤跡ヲ分明ナラシムルニ有益ナル

物件ヲ穿鑿スヘシ、

全上第四十九條ニ曰、現行犯罪ノ時、又ハ家長ヨリ其請求ヲ受ケタル時ハ、治安裁判官、憲兵士官、警視官等ハ、其調書ヲ作り、証人ノ申告ヲ採リ、事狀ヲ查照シ、其他檢事ノ職掌ヲ行フコトヲ得、

全第五十條ニ曰、邑長及ヒ副邑長、又ハ警部等ハ、亦犯罪ノ申告ヲ聽キ、前條ニ記載シタル事件ヲ行フコトヲ得、

全第八十七條ニ曰、糾問判事ハ、犯罪ノ事實ヲ、詳明ナラシムルカ爲メ、有益ナリト思量スル所ノ書類、器具、及ヒ其他ノ物件ヲ穿鑿スル爲メ、檢事ノ求メニ應シ、又ハ自己ノ職務ヲ以テ、犯者ノ居住ヲ搜索スルコトヲ得、

全第八十八條ニ曰、糾問判事ハ、該犯者ノ居住外ニ、右ノ物件ヲ隱匿セリト、思量スル片ハ、其場所ニ至リ、之ヲ穿鑿スルコトヲ得、

第六十一條 現行犯ニ付テハ、邑長、其居住ヲ搜索スルニ、屬官一名、若シハ犯者ノ同邑隣人ノ内、二名ヲ立會セシメ、其居住、搜索、檢査ノ畢ッ

テ、此立會人ヲシテ、調書ニ姓名ヲ自書セシムヘシ、治、第四十二條、見合、

治罪法、第四十二條ニ曰、現行犯ニ付テ、檢事ノ記スヘキ調書ハ、該犯者管轄邑ノ警部、又ハ邑長、或屬官、又ハ同邑内ニ居住ノ者、二名ノ面前ニ於テ之ヲ記シ、且其立會人ヲシテ、調書ニ姓名ヲ自署セシム、若シ檢事、即坐ニ立會人ヲ得ルコト能ハサル片ハ、立會人ナクシテ、調書ヲ作ルコトヲ得、

檢事、及ヒ立會人ハ、調書ノ每葉ニ、姓名ヲ自署スヘシ、若シ立會人姓名ヲ手署スルコトヲ肯セス、又ハ手署スルコトヲ得サル時ハ、其旨ヲ附録スヘシ、

第六十二條 居住ヲ穿鑿スルコトハ、通例、日出ヨリ、日没ヲ限ル、故ニ十

月一日ヨリ、三月三十一日迄ノ間ハ、午前六時ヨリ、午後六時迄トス、又四月一日ヨリ、九月三十日迄ノ間ハ、午前四時ヨリ、午後九時迄ノ間トス之ヲ四時法律上ノ時限トス、（訴第千三十七條及ヒ千八百五十四年三月一日ノ布告第百九十一條見合）訴訟法第千三十七條ニ曰、凡ソ各年十月一日ヨリ、三月三十一日ニ至ル迄ノ間ハ、午前六時前ト、午後六時後、又四月一日ヨリ、九月三十日ニ至ル迄ノ間ハ、午前四時ト、午後九時後ニ、裁判手續ニ關シタル、書類ヲ送達ス可カラス、又裁判ノ宣告ヲ爲ス可ラス、又祭日ニハ、其送達及ヒ執行ヲ爲ス可ラス、但シ其送達及ヒ執行ヲ遅延スルハ、事ニ害アル可キモノハ、特ニ裁判官ノ允許ヲ得ヘシ、

第百六十三條 前條（家屋検査）ノ日出ヨリ、日没迄ヲ限ルト雖モ、此時限中ニ、着手セシ検査ハ、夜ニ入り及ヒ徹夜翌日ニ涉ルモ、其穿鑿ノ全

ク畢ラサルモノハ、晝夜ノ別チナキモノトス、

故ニ邑長ハ、其穿鑿ヲ日中ニ始ム可シト雖モ、其犯者ノ家屋ニ入ルニ及ンテ、權柄ヲ以テ脅迫ノ所行ヲ爲スコトナシ、又犯者ヲシテ、邑長ノ其家屋ニ入ルコトヲ拒抗セシメサルコトニ、注意スヘキコト肝要ナリ、（刑第百八十四條見合）

刑法第百八十四條ニ曰、行政、司法、其他警察ニ管スルノ官吏、又ハ兵隊ノ指揮官等、其職務ヲ執行スルニ當リ、法律上ノ定規外、法式ニ循ハスシテ、人民ノ意ニ戻リ、強イテ其住家ニ犯シ入りタルモノハ、六日ヨリ少カラス、一年ヨリ多カラサル禁獄ニ處シ、且十六フランヨリ少カラス、五百フランヨリ多カラサルノ罰金ヲ科ス、

然レモ、邑長其制服ヲ着シ、其職務ニ依テ、家屋穿鑿ノ出會タルコト示サハ、人民強テ之レニ拒抗セサルヘシ、故ニ邑長ハ、其事件ノ重キト、其

穿鑿スヘキ物件ノ緊要ナルヲ圖リ、假令ヒ、家主其夜中ノ故タルヲ以テ、其命令ヲ肯ンセサルモ、邑長ハ其家屋ヲ退去ス可カラサルモトス、

第六十四條 邑長若シ其家屋ニ入ルヲ得スシテ、或ハ該家屋内ニ於テ、犯者ノ脱走ヲ惧レ、或ハ穿鑿スヘキ物件ノ紛失セシヲ畏ル、
「アルキハ、邑長ハ、公力兵ヲ假用シテ、終夜其家屋ヲ圍繞シテ、以テ天明ノ時刻ヲ俟ツ」ヲ得ルノ權ヲ得ス、
千八百五十四年三月一日
布告第二百九十三條、
第六十五條 左ニ記載セルノ場所ハ、邑長其職務上ニ於テ、夜中何時
タリトモ、自在ニ入込ニ來ルヲ得、

第一 諸人用便ノ爲ニ、開設セルノ場所、即チ、
「非店、居酒店、其他ノ商店等ハ、夜中ト雖モ、其肆店ヲ鎖サ、ルノ間ハ、渾テ警察官吏ハ、或ハ註誤探偵ノ爲メ、或ハ非違監視ノ爲メ、或ハ度量衡檢査ノ爲

メ、或ハ金銀製造品、及ヒ食糧、醫藥等ノ檢査スルヲ得、
千七百九十九年七月十九日、
第二十二日ノ
法制第一章、第九條、
憲兵モ、亦夜中客舍、居酒店、及ヒ其他上ニ述ル處ノ場所ニハ、其開
店ノ時間ハ、自在ニ入込ニ人別ヲ調査シ、或ハ罪犯者ヲ拿捕スル
ヲ得、

第二 富坐、及ヒ賭博骨牌等ヲ爲スヘキ、
「公ケノ場所ニ於テハ、邑長ハ日夜ヲ問ハス、何時ニテモ入込ニ、其所業ヲ監督スヘシ、
但シ同邑同區ノ者、二名ヲ以テ隨行セシム、

第三 娼妓樓ノ如キハ、日夜何時ニテモ入込シ、事情ヲ調査スルヲ得、
千七百九十二年九月二十四日ノ布告、

右ニ記載セル處ノ諸場ハ、晝夜何時ニテモ、警察官吏ノ入リ込ニ、
「輕罪、或ハ違警犯ヲ糾シ、或ハ潛匿逃亡ノ者ヲ摘發ス、

第六十六條 酒類、燒酒等ノ醸造所ニハ、夜中何時ニテモ、邑長或ハ租稅徵收掛リノ屬員ハ、其室藏ニ入り、之ヲ檢査スルヲ得、千八百十六年四月二十八日ノ法制、第二百三十五條

第六十七條 前條ニ記載セルカ如ク、誰人ニテモ、夜中猥リニ、人ノ家屋ニ入ルヲ許サ、ルハ、法律ノ明示スル所ナリト雖モ、或ハ火災、或ハ水害、或ハ不意ノ災害等アリテ、該家屋中ヨリ、叫呼救助ヲ乞フノ時ニ於テハ、警察官吏ハ、固ヨリ一箇ノ平人ト雖モ、夜中何時ニテモ、之レニ入込ムヲ得、千八百五十四年三月一日ノ法制、第二百九十一條

第六十八條 犯罪者若クハ被告人ノ家屋、其門戸ヲ鎖シテ、其搜索檢査スルヲ拒絶スルキハ、邑長ハ、造鑑者ヲシテ強イテ其門戸ヲ開カシムルヲ得、此三箇ノ場合ニ於テハ、邑長ハ、其火災、水害ヲ救ヒ、若クハ變死殺傷等ノ重輕犯罪者ヲ拿捕スルカ爲メ、其家屋ノ門戸ヲ開カセ置クヲ得

シムルヲ得

家具、箆櫃、算笥等ノ鎖錠セル物品モ亦之レニ準ス、訴、第五百八十七條

訴訟法、第五百八十七條ニ曰、家屋ノ搜索檢査ヲ爲スニ當リ、家主其門戸ヲ鎖シ、又ハ門戸ヲ開クヲ肯セサルキ、使吏其門前ニ番人ヲ置キ、家主ノ竊カニ、動産ヲ他所ニ轉移隱匿スルヲ防ク、此場合ニ於テハ、使吏ハ、即時自ラ、治安裁判官ノ所ニ至リ、若シ該官不在ナラハ、警部ノ所ニ至リ、若シ又不在ナラハ、邑長ノ所ニ至リ、邑長不在ナラハ、副邑長ノ所ニ至リ、此等ノ官吏ヲ同伴シテ、出會ノ上、其門戸ヲ開キ、動産着手ノ順序ニ從フ、此立會ノ官吏ハ、別ニ其調書ヲ作ルニ及ハス、唯使吏ノ調書ニ姓名ヲ自署スヘシ、

第六十九條 家屋、搜索檢査ノ上、沒収スヘキ物品ニ係ツテハ、往復ノ書簡、及ヒ其他犯罪ノ事迹ニ、關係スヘキ書類ヲ取り集メ、邑長自ラ之

ヲ點檢スヘシ、

四七一

第七十條 重キ犯罪ノ事件ニ付テハ、犯者ノ送り出セシ、郵便及ヒ他

ヨリ該犯者ニ對シ、郵送シ來リシ等ノ書類ハ、檢事ニ之ヲ通牒セシメ、

檢事之ヲ沒収シテ、檢査スヘシ、千八百五十六年三月十日、郵便事務局ノ訓條、

郵便局中ニ於テ、檢査沒収セラレタル、犯罪者ノ書簡、及ヒ憑証トスヘ

キ器具等ハ、治罪法、第十條ノ條例ニ據リ、州長若シハ司法警察官吏點

檢スヘシ、

治罪法、第十條ニ曰、州長及ヒ警視長ハ、自ラ輕重ノ罪犯、及ヒ違警罪

ヲ探索シテ、其憑據ヲ採リ、該犯者ヲ、其管轄ノ裁判所ニ引渡スヘキ

處分ヲナシ、又ハ司法警察官吏ニ、此等ノヲ要求スルヲ得ヘシ、

第七十一條 兵器、器具、書類、物品、飲食物等ノ、其犯罪ニ所用セシモノ

ト思量スヘキカ、或ハ其蹤跡等ノアルモノハ、一々點檢シテ、詳細ニ之

ヲ調書ニ記載シ、且其物件ヲ沒収スヘシ、若シ此物品ニ檢印証号ヲ置
クコ能ハサルキハ、之ヲ籠、又ハ囊筐ニ納メ、邑長自ラ之レニ紙帶ヲ貼
附シ、且其官印ヲ捺スヘシ、

此ノ沒収品物ノ、囊壺中ニ密封セル、紙帶上ニハ、何年何月何日、何々ノ
事件ニ付、何某ノ所ニ於テ之ヲ沒収シ、同日何々ノ調書ニ之ヲ詳記ス、
邑長ト記載シ、且當坐出會ノ人員ヲシテ、咸ク之レニ自署セシム、

若シ此沒収ノ物品、諸種多數ナルキハ、各物ニ就テ、之ヲ封緘包束シ、其
番号、及ヒ檢印ヲ捺シ、調書ニ一々其區別ヲ詳記シテ、錯雜ナカラシムヘシ、

第七十二條 右ノ處分ハ、渾テ該犯者ヲ捕ヘタルキハ、其面前ニ於テ
爲スヘシ、若シ該犯者肯ンセサルカ、又ハ之レニ臨ムコ能ハサル時ハ、
犯者ノ名代人ノ面前ニ於テ、其物品ヲ一々指示シ、且之レニ自署ニ換
ルヘキ、横線ヲ畫セシムヘシ、若シ犯者若シハ名代人、之ヲ畫シ肯ンセ

五七一

サルキハ其旨ヲ調書ニ記スヘシ治第三十九條

第一百七十三條 居住ノ搜索檢査ニ第一注意スヘキハ犯罪ニ係ハル所ノ物件ヲ隱匿轉移セシメサルナリ又現行犯ノ時ハ其家屋門戸ヲ固メ誰人ニテモ其場ヲ出行退去シ又ハ現場ニ在ル處ノ物品器具ヲ他所ニ轉移スルヲ許サス

居住ヲ檢査スルニ若シ其家藏箇所ニ出入ノ門戸アルキハ其各門戸ニ番人ヲ置キ以テ物品器具ノ轉移及ヒ犯者ノ脱走セシヲ豫防スヘシ

第一百七十四條 右ノ搜索檢査畢リテ犯罪ニ證據トスヘキ器具物品等ハ該犯者ヲ拘引スヘキ爲メ出張セシムル處ノ憲兵ニ附シテ之ヲ該犯管轄ノ裁判所書記局ニ運搬セシムヘシ
若シ其品物多量ナルキハ邑長之ヲ運輸會社ニ命シテ運送セシム八千

百十一年六月十八日ノ法制

若シ此ノ物件ニ關セル書類等ノ甚々輕單少量ナルキハ之ヲ一綴リニ取リ纏メ其調書ト共ニ一封トナシ郵便ヲ以テ直チニ之ヲ檢事ニ送達スルヲ得

若シ右ノ沒収物中ニ獸類ノ在ルキハ邑長直チニ之ヲ蓄獸場ニ送致セシムヘシ

若シ右ノ諸物品巨數多量ニシテ容易ク運送爲シ難キ場合ニ於テハ邑長ノ計ヲヒテ以テ保責スルニ相當ト思量スル所ノ看護者ニ命シ之ヲ責附シ且何時タリトモ物品檢査ノ時ハ取リ揃ヘテ檢閱ニ供スヘキ旨ヲ誓言爲サシメ置クヘシ千八百五十四年三月一日

憲兵及ヒ常備兵ノ軍人並ニ婦女ハ右ノ保責者タルヲ許サス千八百五十四年六月十八日
布告第三十八條

八七一

第七十五條 法律上ニ於テ重罪ト認ムヘキ現行犯ハ邑長直チニ之ヲ拿捕セシムルノ權ヲ有ス治第四十條、四十九條、及ヒ五十條ヲ參照ス、

治罪法第四十條ニ曰アッフク、チーフ、施體ア、ン、或ハ加辱ノ刑ニ該ルヘキ現行犯アル時、犯者其場ニ在ルニ於テハ、檢事直チニ之ヲ拿捕セシムヘシ、

若シ犯者其場ニ在ラサル時ハ、檢事之レヲ拘引セシムル爲メ、其喚出シ狀ヲ送附スヘシ、

檢事ハ、犯者ヲ拘引セハ、即時ニ之ヲ糾問スヘシ、糾問、判事ノ職掌ナレトモ、現行犯ノキハ、檢事之ヲ行フ可シ、

邑長ハ、現行犯場ニ於テ、該犯者在ラサルキハ、之レニ喚出狀ヲ送附スルヲ得ヘシト雖モ、若シ只犯罪ノ申告ノミニテ、喚出狀ヲ出スニ足ルヘキ証左ナク、且其居住ノ確定セル、被告人ニ對シテハ、直チニ之レニ喚出狀ヲ附セス、

九七一

第七十六條 若シ犯罪ノ景況、只懲治罪ニ止マルヘキ事件ナリト思量スル時ハ、其犯者拿捕ノ着手ニ區別アリ、之ヲ左ニ掲ク、

若シ其犯狀ノ罰金ニ止マルモノト評量スルキハ、決シテ其追捕ヲ命ス可ラス、治、第百三十一條、

治罪法、第百三十一條ニ曰、若シ犯者ノ罪狀、禁獄以下ニ處セラルヘキ時ハ、該犯者ヲシテ、裁判定日、其管轄ノ裁判所ニ出席スルノ誓約ヲ爲サシメ、之ヲ保責セシムルヲ得、

若シ其犯罪ノ禁獄ニ止マルヘキモノト思量シ、且犯者ノ居住、該區邑中ニ在リ、若シハ確定シタル場所ニ居住シテ、何時ニテモ、自由ニ之ヲ喚ヒ出シ得ルノ場合ニ於テハ、之ヲ拿捕ス可カラス、

若シ該犯者、或ハ外國人、或ハ失踪人、或ハ乞丐、或ハ犯罪ノ復讐者、或ハ浮遊ノ職工人夫等ノ者ニシテ、該市邑内漂泊ノ者ナル時ハ、通常之ヲ